

ふるさと加東の伝説・伝承

— 伝説・伝承からふるさとの魅力を探る —

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

◆議員活動ブログ「百聞百見」より



▲光明寺合戦本陣跡



▲源平合戦の古戦場—かなし池あたりから望む三草山



▲弁慶のなぎなた石



▲源義経お手植えの松



▲赤松氏範の墓—清水寺



▲古家のくすのき塚

ふるさと加東の伝説・伝承

— 伝説・伝承からふるさとの魅力を探る —

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

◆議員活動ブログ「百聞百見」より



▲光明寺合戦本陣跡



▲源平合戦の古戦場—かなし池あたりから望む三草山



▲弁慶のなぎなた石



▲源義経お手植えの松



▲赤松氏範の墓—清水寺



▲古家のくすのき塚

目次

I	伝説・伝承	1
	市内各所に残る伝説・伝承	
	－郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より	
	加東の義経伝説（義経お手植えの松、弁慶の投げ桜、 弁慶のなぎなた石、かなし池、古寺と義経道等）	
	滝野の伝説（姫滝、お菊虫、乳池、神戸石他）	
	光明寺合戦の伝説	
	清水坂合戦物語	
	上中の杜の祠、安国寺の将軍首塚、播磨風土記の歌碑、 藤田の多田池伝説、曾我の塩壺、古家のくすのき塚、馬瀬の桜橋、 大深滝、三草山城、下久米の鹿野冷泉、	
II	令和元年～2年の活動記録	61
	令和元年6月～令和2年5月までの議員活動記録	
	－議会活動ブログ「百聞百見」より	
	第344回(6月)、第345回(9月)、第346回(12月)、第347回定例県議会(2月)、 産業労働常任委員会、管内外調査他	
	関西広域連合議会（臨時会、定例会、常任委員会他）	
	自民党県議団（政調理事会、総務部会他）	
III	県議会本会議、関西広域連合議会での一般質問	143
IV	令和元年6月～令和2年5月の議員活動記録一覧	167

まえがき

この「県政資料」は、私の議員活動ブログ「百聞百見」、歴史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」に投稿してきた記事の中から、テーマに沿って、選び、まとめたものです。

第Ⅶ集は、「伝説・伝承」に焦点を当て、ふるさとの魅力を探ってみました。歴史の古いふるさと加東には多くの伝説や伝承が今も伝わっています。それらは人々の口から口へと伝えられ、幼き心にふるさとの人々の表情や風景とともに染みこんで、やがてふるさとへの懐かしみや愛着の源泉となっていったと思います。そうしたふるさとへの愛着や懐かしみこそが私たちがめざす地方創生の原動力になるものと思います。

時代は令和となり、世界は一層緊密に結びつき、多くの人々が往来するようになりました。かつては、活字や写真を見て遠くの国々の珍しい風物に憧れを抱いていましたが、今では実際にその地を訪れ、人々とふれあい、文化や風景などを五感で楽しむようになりました。加東には、人々の心を魅了する多くの文化財や景観があります。また、それらにまつわる伝説や伝承がより深く人々の心を楽しませてくれます。

伝説や伝承を地域の貴重な懐かしい記憶遺産として未来に伝えていく契機になればという思いでまとめたものです。

人口減少社会、少子高齢化が進行するなか、郷土の歴史と先人の足跡を知るとともに、未来にどう伝えていくかは今の時代を生きる私たちの課題です。地域創生の資料の一つとして活用していただければ幸いです。

なお、このⅦ集は4月初旬に発刊予定でしたが、新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が発令され、約2ヶ月にわたり社会経済活動が大きく制約されました。5月末になり、ようやく宣言が解除され、徐々に活動が再開されつつあるなか、発刊に至ることができたことに感謝しつつ皆様にお届けいたします。

令和2年6月吉日

兵庫県議会議員

藤本百男

郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

ふるさと加東の伝説・伝承

1. 社の義経伝説

2006年06月19日



社郵便局の東側の小高いところは、「百旗」（ひゃくはた）・「百旗立」（ひゃくはったい）とよばれています。

この地名の由来は、今からおよそ800年余り前の1184年、源義経が三草山に陣取る平家を急襲し、逃げる平家を追って、社まで兵を進めてきたときに、このあたりに百本の白旗を立てたという言い伝えによる

ものと言われています。

源平合戦は、源氏と平氏が全国を舞台にして戦った大争乱でした。中でも、一ノ谷の合戦、壇ノ浦の合戦などは義経の活躍でよく知られています。一ノ谷の合戦（神戸市）では、義経軍が急な坂を一気に下って平氏の陣を襲撃し討ち破ったのですが、この合戦の前哨戦が「三草山の合戦」だったのです。

「三草山」は加東市（旧社町）にある標高423.9メートルの山で、丹波から播磨への入口に位置しています。前年に木曾義

仲の上洛によって都を捨てた平家は、西国の兵力を結集して再び京都に向かうべく、福原（神戸）に陣をはっていました。これを攻撃するために源範頼と義経兄弟に追討の命令が下ったのです。範頼は正面から、義経は背後から攻撃すべく、京都から三草山を通って一の谷に向かったのです。

平家もぬかりなく、平資盛らが三草山に陣取り、源氏を待ちうけていました。しかし、義経が小野原（篠山市：旧今田町）に到着したとき、平家は清盛の法要を行い、鎧を脱いで油断していたのです。義経はそこへ夜襲をかけて打ち破りました。義経軍は逃げる平氏を追いながら社辺りまで来て、陣を張ったのでしょうか。その後、義経は少数の家来を連れて、小野、三木から一ノ谷に向かっていますが、そのルートは謎のままです。

義経が通ったルートにあたる加東市はもちろん、小野市、三木市にも義経、弁慶にまつわる伝承が数多く伝えられています。そのうち、社市街地には、山氏神社境内に「義経お手植えの松」（※写真）があります。また、源氏が米を洗ったので川が真っ白になったことから「白川」というようになった（白川が訛つて下川に）とか、「字ゲンジ」という地名があったとか、社から山国に通じる坂道を「源ヶ坂（げんがさか）」というなど、約800年も前の合戦にまつわる伝承が遺物や地名となって今も残っています。

「ゲンジ」という小字名は今はありません。しかし、下川に「ゲンジ堰」とよばれている農業用水の井堰があります。年輩の人は、子どもの頃、下川辺りに遊びに行くとき、「ゲンジに行こう」などと言っていたといひます。

2. 山氏神社と義経お手植えの松

2006年06月20日

山氏神社

加東市社の商店街「さんがい」交差点から北に向かって少し歩くと、時計店の角から東に参道がのびています。これが山氏神社（やまうじじんじゃ）の参道です。山氏神社は「やもりさん」とよばれています。



この神社の氏子は元、広野屋と号する肥田氏一族で、肥田氏の氏神とされています。肥田氏は広野屋の屋号があるように、「広野」とよばれた社の原野を支配してきた古い豪族です。伝説によれば、多田氏の娘、八重が義経にお茶を出したことがきっかけで、義経は家来の土肥弥太郎遠平と結婚させ、土肥の肥と、多田の田をとって肥田の姓を名乗らせたといわれています。

ちなみに「ひろの」とは、社市街地の東側に広がる原野をさし、「ゆらの」は西側一帯の呼び名だったようです。「ひろの」も「ゆらの」も社の古い地名ですが、今も地名や公共施設、あるいは屋号などに使われて歴史を伝えています。

義経お手植えの松

さて、山氏神社の境内の銀杏の木の東の奥まったところ、西向きの社殿の北側に、玉垣で囲まれた一角があります。そこには大きな松の切り株と石柱が立っています。

石柱には、「源九郎判官義経お手植の松」と刻まれています（「社

の義経伝説」の写真)。これは三草山の合戦に勝った義経が社ま
で軍を進め、自ら戦勝を祈願して松を植えたとの伝承をもとし
たのもです。

今は松の大木はなく、小さな松の木が数本生えているだけで
すが、土地の古老の話によれば、かつては大きな松の木が生えて
いたとのことでした。

ところで、昭和30年代に、山氏神社の境内にサーカスがやっ
てきて興行をしました。大きなテントが張られ、中で、オートバ
イが球状の金網の内側をエンジン音を唸らせながらぐるぐる回
転していたことが排気ガスの匂いととも記憶に残っています。

3. 義経お手植えの松？

2006年07月20日

この大木は・・・



義経伝説のところで山氏神社の境内に
ある「義経お手植えの松」を紹介しまし
たが、今は伐株しか残っていません。

古老の話によれば、「昔は大人が二抱え
もするほどの太い幹の大きな松があっ
たんや」ということでした。今の私達
には伐株の大きさから想像するしかあ
りませんでした。

ところが……。見つけました、「義経お手植えの松」の大木
を。それがこの写真です。どうしてそう言えるのかというと、根
元に石垣のようなものが写っているのですが、山氏神社境内の「お
手植えの松」のすぐ東にこの写真と同じ石垣が残っているのです。

今は溝に下りてみないとよくわかりませんが、確かにそうなんです。

その枝ぶり、周囲の木々から突き出た大松。これこそ「義経お手植えの松」の写真でしょう。

この松を「社市街地の写真」でも見ることができます。社高女の校舎の向こうに黒々とした山氏神社の杜が見えます。そして、その左端に群を抜いて高い松の木が写っているのです。そのてっぺんあたりの枝ぶりは、まさにこの写真と同じです。なんだか嬉しいですね。



4. こんな所に源氏の名が・・・

2012年05月01日



5月1日、朝のウォーキングでいつもとはちがう道を歩いていると、ふと目に入ったのが「源氏」の文字。加東市社の市街地の南端、明治館から坂を下り、途中から右手の細い道に入って、池のう

てみから下川へつながる水路の脇に、ポンプ制御板があり、そこに「源氏橋ポンプ場」と書いてありました。「源氏橋」は社市街地の南側を流れる下川に架かる橋で、三草山合戦に勝利した源義経率いる源氏が社から一ノ谷をめざして山国方面へ向かったと伝えられていることから、源氏橋（九郎橋ともいう）、字源氏、源氏堰、下川（源氏が米を洗ったので白く濁ったことから白川とよばれ、それが下川になった）などの伝承があります。しかし、文

字になっているのを見ることは珍しい。池のうてみを渡るうてみ橋から、すぐ西側の下に見えます。こんなところに800年前の記憶につながる名があったとは・・・。

5. 弁慶の投げ桜

2006年11月13日

弁慶の投げた桜の枝が・・・



社に伝わる義経の伝承はこれまでも紹介してきました。「山氏神社のお手植えの松」、「百旗（立）の地名の由来」など多くの伝承があります。

義経とともに弁慶の伝承も数多く伝わっています。その

一つ「弁慶の投げ桜」を紹介しましょう。

加東市上久米（旧社町）の県道（西脇三田線）の南側の歩道の植え込みに一本の細長い石柱が立っています。場所はJ Aみの上久米支所のすぐそばです。あまり目立たないので車で走っていると見過ごしてしまいます。

その石柱に「弁慶の投げ桜」と刻んであるのです。しかし、桜の木はそこにはなく、道路から南へ田圃一枚横切ったところの畦に小さな桜の木が一本植わっています。元はその場所だったということです。

さて、「弁慶の投げ桜」の伝承は次の通りです。三草山合戦で勝利をおさめた義経一行が一の谷に向かうべく、東条方面に軍を進

めているとき、馬上の弁慶の顔に桜の枝が当たったのです。弁慶はその邪魔な枝を手で折り、地面に投げつけました。弁慶の力が強かったので、枝は地面に突き刺さったのです。やがて、その桜の枝は根を張り、大きな木に成長したということです。これが「弁慶の投げ桜」の話です。

すごいですね。まさに弁慶の怪力伝説です。この写真は道路の北側から石碑と田圃の畦の小さな桜の木を写したものです。車を止めてゆっくりご覧下さい。

6. 弁慶のなぎなた石

2007年02月20日

ここにも弁慶伝説が・・・



加東市馬瀬の国道372号線脇の山中に弁慶のなぎなた石があります。

三草山の麓を走る国道が大きくカーブする地点に、三草山合戦のモニュメントがあります。その近くの山の中にこ

の石があります（写真）。

石の右の下に丸い穴があり、これは弁慶がなぎなたの柄を突き刺した跡だと言い伝えられているそうです。弁慶の強さを伝える伝説、遺物は各地に残っていますが、この石もその一つです。車で走っていると気がつきませんが、モニュメントのある場所には車一台ぐらいの駐車スペースがあるので車を止めて少し北に歩くと右側の山の中にあります。元はこの場所ではなかったと聞いて

います。

7. 弁慶のなぎなた石―元は旧道脇に

2009年02月15日

～前略～

さて、その後新たに聞いたことを紹介します。この石は今は半分地中に埋められている状態で立っていますが、元は道ばたに横とか平らに寝た状態であったそうです。これを聞いて合点がいきました。弁慶はその石に上からなぎなたの柄をついたのだ、と。今の状態だと横からついたことになってしまいます。また、御幣は馬瀬の村の東西南北に魔除けで置かれているものだそうです。

モニュメントは目立ちますが、そこから少し離れた林の中の石に今からおよそ800年余り前の強者の痕跡が伝承されているのが何ともうれしい話ではないでしょうか。

8. 加東の風景―三草山古戦場かなし池あたり

2011年11月30日



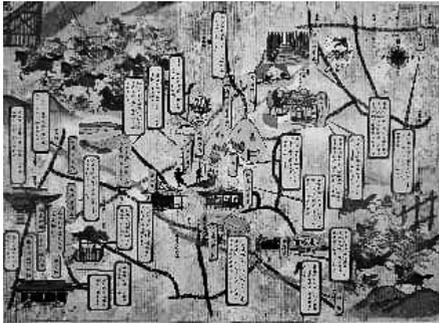
源平合戦の一ノ谷の合戦の前哨戦として知られる三草山合戦(1184)の古戦場、三草山を加東市下三草の田圃の中から

望んだ写真です。手前に圃場整備が行われ、きれいに区画された田圃が広がっていますが、義経の奇襲によって敗れた平氏がこのあたりまで逃げてきてきて、侍女らが悲しみのうちに池のほとりで水をのんで喉をうるおしたと伝えられる「かなし池」があった

辺りです。私は、丹波の山道から播磨の平野への出口に堂々たる姿で横たわる独立の山、三草山の姿が好きです。今日もいい姿が望めました。

9. 加東市の義経伝説が一目で

2012年03月12日



しばらく投稿をさぼってしまいました。投稿は早朝のいわば、「行」のようにやっているのですが、ここしばらくその時間がとれませんでした。

さて、先週の土曜日、やしろ歴史民俗研究会の役員会に出席しました。その折りに、メンバーの方から一枚のパンフレットをいただきました。

「丹波道を駆け抜ける 義経伝説～加東と京都～」と書いてあり、鎧武士姿の義経と仁王立ちする弁慶が山道（義経道）の写真に描かれています。開いてみると、加東市を北東から南西に横切る京街道（丹波道を軸として点在する義経伝説の地と伝説が紹介してあります。

丹波から順に紹介すると

不来坂（こぬさか、このさか）篠山市
只越峠（ただごえとうげ）篠山市
清水寺・・・弁慶の碁盤、大塔（跡）
御所谷（平家谷）

弁慶の力石（弁慶が薙刀を突いた跡）

三草山（三草山合戦）

平家本陣跡（ 々 ）

いくさ野・悲し池（逃げる平家の女性が水を飲んだ）

薬師堂

宝蔵寺（喜田）

百旗立（源氏が百本の白旗を立てた場所の地名）

義経お手植えの松（山氏神社）

佐保神社

下川・源氏橋・源ヶ坂（源氏にちなんだ地名）

東実の佐保神社

弁慶の投桜（弁慶が投げた桜の枝がやがて大木に）

朝光寺

掬鹿寺（一ノ谷に向かう源氏）

渡瀬（三木市）

となります。

岩、石、木、地名などに源平にちなんだ伝承が残っています。車で回ってもよし、ウォーキングを楽しんでもよし。これからがよい季節です。ぜひ、義経伝説を訪ねて加東市にお越し下さい。

10. 掬鹿寺—古寺と義経道

2012年06月29日

加東市天神の一之宮神社の前の道をさらに山の方に向かって緩やかな坂道を上っていくと、掬鹿寺（はしかじ）にたどり着きます。

掬鹿寺は、伝えられるところでは、推古帝2年（594）に聖徳太子によって創立されたとされています。聖徳太子が諸国を巡



り仏教の講義を行うために当地に立ち寄られたとき、傷を負って死にそうになっていた白い鹿を救うために薬師如来に祈られたところたちどころに傷は癒え元気になって感謝しながら立ち去ったことから、

薬師如来の靈威に感じて太子自ら如来像を彫って安置され、これが掎鹿寺のもとになったとされています。のちに僧行基が堂塔を修復し、山号を白鹿山、寺号を掎鹿寺として栄えました。

また、掎鹿寺の脇から山中に通じる道は、源平合戦の三草山合戦の折りに、平氏を破った義経らが一ノ谷に向かって駆け抜けた道で「義経道」と呼ばれています。深閑とした境内、そして、古道に立つと時空を超えて古代の信仰のこころ、兵士の息づかいが聞こえてきそうです。

11. 滝野の伝説（1） 姫滝伝説

2006年07月29日

姫滝伝説（1）



滝野に伝わる伝説の一つに「姫滝伝説」があります。加古川の名勝「鬮龍灘」は有名ですが、その下手、新町と上滝野を結ぶ「滝見橋」から少し下ったところに、岩場があります。（写真）

闘龍灘に比べるとだいぶ小さな岩場ですが、加古川の流れはここで狭まり、小さな滝となって落ちています。人々はこの小さな滝を「姫滝」とよんでいるのです。

「小さい」ことを「姫」と言い換える先人の言葉のつかい方には奥ゆかしさを感じます。しかし、「姫滝」には単なる小さいという意味だけではなく、「姫様の悲しい物語」があるのです。紹介しましょう。

姫滝伝説

昔、鳴尾山に城があり、その城主には可愛い姫がいて、毎日笑い声の絶えない楽しい日々を送っていました。

しかし、ある時、戦いが起こり、城は敵に攻められ、火に包まれました。姫は「熱い、熱い」と泣きながら城を逃げ出したので、「泣尾山」と呼ばれるようになったそうです。

姫は家来に守られて、山の岩穴に身を隠し、戦いがおさまるのを待ちました。

そうこうしていると、近くの山が火を噴き、どろどろに溶けた溶岩が流れ出してきました。幸い、姫の隠れていた岩穴には溶岩は流れてこなかったので助かりました。

しばらくして、姫は喉が渴いたので、岩穴を抜け出し、近くを流れる加古川のほとりまでやってきました。水辺に近づこうと岩を歩いていると、表面は冷えて固まっていたのですが、まだ溶岩は完全に固まっておらず、姫の足は岩にめり込んでしまいました。姫はあまりの熱さに耐えかねて、「熱い、熱い」と叫びながら小さな滝に身を投げて死んでしまいました。

それから人々は、その小さな滝を「姫滝」と呼ぶようになったそうです。

以上が伝説です。伝説の舞台、城のあったのは鳴尾山（なきおやま・なきやま）だとされています。この山は滝野と西脇の境にあり、山の東側はわずかな平地をJR加古川線、旧国道175号線が走り、すぐそばを加古川が流れています。

そして姫が身を投げて死んだのが、そこからだいぶ下流の姫滝なのです。姫滝の岩場には、姫の足あとが今も残っているといわれています。

さて、実際に姫滝をさぐってみました。続きは次回・・・。

12. 姫滝伝説をさぐる (2)

2006年07月30日

伝説を追って



滝野に伝わる「姫滝伝説」は前回に紹介した通りです。姫滝は、鬨龍灘の下手にかかる滝見橋から約100メートルほど下流にある岩場で、小さな滝になっています。伝説を裏付けるものとして、岩

場に、姫の小さな足跡が残っているといわれています。さっそく、さぐってみましょう。

まず、この伝説は、何らかの史実に基づくものなのか、が気にかかります。事実としてあるものは、鳴尾山（泣尾山）と姫滝（岩場）の二つです。時代も、城も、城主である武士も特定されているわけではありません。いったい、城主は誰だつたのでしょうか。一説に赤松氏重であったといいますが、定かではありません。また、

伝説の中に、「近くの山が火を噴いた」という話が入っています。これは火山が噴火、そして溶岩が川まで流れ出したということですが、そんな記録はありません。



鬮流灘をはじめ、この地域の加古川に露出している岩は、一見するとまるで溶岩が流れて固まったようにも見えます。しかし、岩石に詳しい人の話によれば、溶岩ではないということです。

鳴尾山から姫滝までは直線距離でもおよそ2キロはあります。姫はどうしてすぐ近くの水辺に行かず、この遠い岩場まで来たのか。これも納得がいきません。

とにかく、この伝説には疑問となることが多過ぎるようです。ただ、伝説の裏付けとなっている姫の小さな足跡は本当にあるのか、どうかということです。

実際に姫滝に行ってみました。水量の少ない日を選んで、姫滝の岩場に行ってみると、確かに「小さな足あと」のような穴があるのです。しかも一つや二つではありません。無数というほどではありませんが、見つけるのに苦労はいらぬほどあるのです。やはり、本当だったか・・・。

滝の近くの新町のお年寄りの方に聞いてみました。すると、こんなお話がきけました。

この穴は、「姫の足あと」ではなく、「馬の蹄のあと」が残っているんだ。小さい頃に新町の舟着場の少し南の岩場で泳いでいたが、「蹄のあと」は姫滝の大きな岩場ではなく、その辺りの岩の

上にあった。

昔、五峰山で戦いがあり、川の東岸まで来た武士が馬に乗ったまま、西岸（上滝野）へ一気に飛び越えた時、馬が力いっぱい足を踏みしめたので岩に蹄の型がついた、と聞いている。「姫の足あと」の話については記憶がない・・・。

「姫の足あと」ではなく、「馬の蹄のあと」だなんて。姫滝伝説が吹き飛んでしまいます。穴をもう一度よく見てみると、たしかに「馬の蹄のあと」のようにも見えます。これなら無数にあってもおかしくありません。

地元の方が「姫の足あと」を知らないのに、姫滝伝説があるとは・・・。謎は深まるばかりです。

写真は岩場の穴です。「姫の足あと」に見えますか？それとも「馬の蹄のあと」に見えますか？

13. 姫滝伝説 (3) もう一つの「姫滝伝説」

2006年07月31日

板波の「姫滝」伝説



左の写真をみてください。姫滝伝説で、城があったとされる鳴尾山のすぐ北側を流れる野間川の岩場です。

ちょうど渇水期で、川底がそっくり見渡せます。こんな川底見たことありますか？まるで、溶岩が流れ出し、冷えてそのまま固まったように、岩盤がむきだしになっています。

写真のちょうど真ん中あたりには、大きな裂け目ができ、水の流が落ちこむ小さな滝になっています。地元、板波（西脇市）の人々は、この滝を「姫滝」と呼んでいるのです。

板波の人に姫滝の話聞いてみました。

そのいわれは、愛宕神社が祭ってある山の上に、昔、城があり、その城の姫様がこの滝に落ちて死んだというのです。これって、まさに姫滝伝説ではありませんか。川底を覆う巨大な岩盤は、まるで溶岩が流れ出して冷えて固まったように見えます。伝説の通りです。滝つぼも結構深そうに見えます。

滝野の「姫滝伝説」、板波の「姫滝伝説」。二つの姫滝伝説が鳴尾山をはさんで、北の野間川と南の加古川にあるのです。

姫滝伝説の謎は深まるばかりです。

14. 滝野の伝説—お菊虫— (1)

2006年08月01日

お菊虫の伝説

下滝野には、「お菊虫」の伝説があります。これがまた興味深い伝説なのです。まずは紹介しましょう。

お菊虫の伝説

昔、主人の家宝の皿を隠され、殺されそうになったお菊さんは、逃げ出して下滝野の庄屋の屋敷にかくまわれました。しかし、庄屋が姫路城へ密告したので、つかまえられてお城に連れていかれてしまいました。

村人たちは庄屋のひどい仕打ちを非難して、その屋敷を「お菊屋敷」と呼びました。数年後、庄屋に娘が生まれ、庄屋夫婦はたいそう可愛がりました。しかし、娘は病気のために知恵が遅れていました。村人たちはお菊のうらみだとうわさしあったのでした。

庄屋はなんとか娘を治そうといろいろな手をつくしたのですが、結局治りませんでした。その悲しみのせいで、家はだんだん貧乏になり、両親はついにこの世を去ってしまいました。

娘はそののちも長生きしましたが、娘が死んだ頃、お菊屋敷の木に、人がしばられたようなかっこうで虫がたくさんぶら下がったのです。

人々は役人に後ろ手にしばられて行ったお菊さんを思い出して、この虫を「お菊虫」と呼んだのでした。

参考『北播磨の伝説』

お菊さんといえば、「播州皿屋敷」、「番町皿屋敷」などの話に登場する女中の「お菊さん」であることは間違いありません。

ただ、舞台が播州姫路だったり、江戸の番町だったりしますが、姫路城の中にはお菊さんが身を投げて死んだ井戸もあります。

「一枚、二枚、三枚、・・・」と何度数えても九枚しかありません。小さい頃は怪談話としてお菊さんの恨めしい声に恐怖を感じたものです。

さて、そんな有名なお菊さんが、滝野の言い伝えの主人公になっているとは・・・。

播州皿屋敷の話は姫路が舞台。お菊さんが下滝野まで逃げてきたとしてもおかしくありません。また、庄屋がかわいそうな女性をかくまうこともありそうなことです。

ところが、姫路の殿様から「おふれ」が回ってきて、庄屋はお

菊を役人に突き出してしまいます。江戸時代、下滝野は姫路藩の支配下にあったので、けっしておかしくない話です。

お菊はかわいそうに、後ろ手に縛られて役人に引っ立てられていきました。そこからは、昔話のストーリーにぴったり合ってきます。庄屋には不幸が重なります。娘が病で知能の発達が遅れ、家は傾き貧乏に、そして両親は亡くなる。その後娘は長生きをしたようですが、娘が死んだ頃、屋敷に奇妙な虫が大発生し、その虫の形が後ろ手にしばられたお菊さんそっくりだつたことから、人々はお菊のうらみだと噂し、この虫をお菊虫と呼んだというものです。

どんな虫か興味が湧いてきますね。ある人はみの虫じゃないか、といいます。しかし、みの虫が「後ろ手に縛られた娘」の姿に見えるかどうか、ちょっと無理があるような気がします。ではいったい……。

15. お菊虫伝説の真相は……

2006年08月02日

播州皿屋敷の話とは……



前回、播州皿屋敷の話云々と書きましたが、その話を知らないという方のために、少し紹介します。

姫路城が造られる前の頃、その地を支配していた城主の家来が城の乗っ取りを企てたのです。そのことを知った女中の「お菊」は企てがあることを知

らせ、城主の危機を救いました。乗っ取りをたくらんだ家来は、「お菊」に仕返しをするため、家宝の皿を一枚隠し、その責任をお菊になすりつけて殺し、井戸に投げ込んだのです。

それからは、夜ごとに井戸の中から皿の枚数を数えるお菊の悲しそうな声が聞こえたといえます。

～お菊虫の正体は～

さて、お菊さんについてはまあお分かりいただいたと思います。問題は、「お菊虫」とは何なのか、です。一説には「みの虫」のようなどがあります。しかし、どうもすっきりしません。

調べてみますと、江戸時代の中頃（1759年）に播州地方でジャコウアゲハが異常発生したらしいのです。時代も地域も符合しますね。ジャコウアゲハのさなぎは、見ようによっては、着物姿の女性が木にしばられているようにも見えます。人々はこれを播州皿屋敷の話につなげて「お菊虫」と呼んだのではないのでしょうか。

下滝野の庄屋屋敷の庭にこのジャコウアゲハのさなぎが大発生し、お菊虫の伝説が生まれた、のではないのでしょうか。

～お菊虫は蝶になった？～

滝野町老人クラブ連合会編「たきの・つたえぐさ」第二集には、下滝野の長谷川純子さんの「お菊虫について」の話が収録されています。

伝承の内容は、お菊の悲しみが虫と化したというもので、だいたいストーリーは同じです。近所のお年寄りの「お菊虫は蝶になり、口の辺りに赤い紅をさして飛んでいる蝶をよくみかけた」と

いう話も紹介されています。

これは「お菊虫」とよばれた虫が、実はジャコウアゲハのさなぎであったという説と符合するのです。「口の辺りに赤い紅」云々がお菊さんの悲しい身の上を思う人々の気持ちがこもっているように思われます。

お菊虫の言い伝えは、下滝野だけではなく、他にもあるようです。

17. 滝野の伝説—穂積の乳池伝説— (1)

2006年08月02日

乳池伝説

加東市穂積（旧滝野町）に、「乳池伝説」が伝わっています。まず、その伝説を紹介しましょう。



大昔のこと、毎朝この池から数十羽の鳩がとびたちました。ふしぎに思った村びとがこっそり見ていると、鳩たちは池の水を口にふくんではとんでゆきます。

ふと気がつきますと、池の水が乳のように白くにごっているではありませんか。鳩たちは日岡山（加古川市）まで飛んでゆき、神功皇后さまの子ども（応神天皇）に飲ませているのでした。皇后さまに乳が出なかったからです。その後、この池の水は、乳の出のよくない母親たちにききめがあるとよろこばれました。かつては、乳房の絵をかいた絵馬がたくさん奉納されていました。

滝野町『そこが知りたい滝野の歴史』より

穂積といえば、「播磨国風土記」（8世紀はじめ）に出てくる穂積の里を今に伝える古い地名です。

穂積の里は旧社町と滝野町にまたがる広い地域であったと考えられています。その古い穂積に神功皇后の伝説が伝わっているとは・・・。

神功皇后といえば、三韓征伐で知られる第14代仲哀天皇の皇后であり、15代応神天皇の母です。今から千数百年も前のことですが、征伐中に応神天皇がお生まれになり、鳩は乳のかわりに泉の水を運んでいた、という伝説です。

写真は、乳池のある一角を写したものです。「池」という名から、もっと大きなため池を想像していたのですが、実際にはこの一角の中にある小さな泉のことだったのです。生い繁る草をかきわけて入ってみると、真ん中あたりにくぼんだところがありました。しかし、水はありませんでした。

この一角に祠があり、中には色あせた絵馬が入っていました。訪れたのは17年の5月頃だったと思いますが、だれもお参りしているような感じはありませんでした。

さて、この小さな泉と祠にまつわる乳池伝説をもう少しさぐってみたいと思います。次回・・・。

18. 乳池伝説 (2) 加西にも・・・

2006年08月04日

乳池さんを調べる

平成17年の初夏、滝野東小学校の6年生2人と乳池さんを調べに出掛けました。泉と祠を調べたあと、近くに住んでおられる方に「乳池さん」について聞いてみました。すると、こんなお話が聞けました。

戦後、粉ミルクが普及するまでは、赤ちゃんにやるお乳が出な



い人や出にくい人にとって、「乳」は切実な問題でした。乳池さんの泉に行って水を汲み、その水でご飯を炊いて食べると乳がよく出るとか、その水でお粥をつくり、汁を赤ちゃんに飲ませたとか……。あるいは、乳池さんの祠にお祈りをして乳がでるようにお願いしたとか。とにかく、乳池さんの言い伝えは地域の人々の間で確かに生きていました。

乳池さんが人々から忘れられたのは、やはりミルクの普及が影響しているようです。乳が出ない、という切実な問題が解消し、神様に祈る必要がなくなってしまったからでしょう。

この乳池の言い伝えとよく似た話が、隣の加西市（谷町）にあり、「乳の井」の言い伝えとして伝わっています。話の内容は穂積の乳池さんとほとんど同じで、鳩が泉の水を口にふくんで、応神天皇のお乳として運んでいた、というものです。

加西と滝野に同じような伝説が……。ひよっとしたら他にもあるかもしれません。写真は穂積の乳池のほとりにある祠です。

19. 乳池さん無惨

2008年03月11日

乳池さんの祠が無惨に破壊

9日、加東市穂積の乳池さんの祠が何者かによって破壊され、無惨な状態になっていることを知りました。昨日（10日）の夕方、乳池を訪れてみると、祠はすでにそこになく、打ち砕かれたコンクリートや石の破片が、祠があった周辺に並べられていました。

地元の人の話によると、先週末に破壊されていることに気付いたということで、先週の間は何者かがハンマーのような物で打ち砕いたようだ、ということでした。

もし、そうだとすれば、一体どうしてこのようなことをしたのか、まったく信じられません。

この乳池さんは、その伝説の古さからすれば、加東市の歴史遺産の一つに挙げてもおかしくないものです。滝野町が編集した『そこが知りたい滝野の歴史』に取り上げられていますし、滝野東小学校の児童が編集した「未来に伝えたいふるさと滝野の歴史遺産」の中でも取り上げられています。乳池さん、そして伝説については、18年6月にこの「ふるさと加東の歴史再発見」で紹介していますが、こうした事態が起きている今、もう一度伝説を紹介し、その歴史的文化的な価値を見直してみたいと思います。(省略)

この乳池伝説については、17年に滝野東小学校の6年生児童と一緒に調べに行きました。地元の高齢者の方にも聞き取りをし、ミルクがなかった戦後間もない頃までは、この乳池の泉の水を利用していたということを知り驚いたものです。

誰がいったいなぜこのようなことをしたのか。歴史や文化、伝統の破壊は自己の存在そのものの否定でもあります。子ども達が「未来に伝えたい」と願った思いを破壊するこのような行為を私は許せません。

20. 光明寺合戦

2006年08月10日

足利尊氏や高師直らが・・・

五峰山の山頂、光明寺本堂の裏に「光明寺合戦本陣跡」と刻ま



れた大きな石碑があります（写真）。

光明寺合戦とは、今から670年
余り前、五峰山を舞台に足利尊氏と
弟直義（ただよし）方の軍勢がくり
ひろげた戦いのことです。

足利尊氏といえば、室町幕府の将
軍すなわち武家の棟梁ですが、実際
の幕府政治は弟の直義が担当し、兄
弟二頭立ての政治が行われていまし
た。その二人が戦ったのは、尊氏の執事、高師直（こうのもろな
お）と直義の権力争いが原因だったようです。

五峰山の本陣跡というのは、光明寺にたてこもった直義方の軍
勢の本陣が置かれた場所で、これを攻めた尊氏と高師直の軍勢は
引尾山、そして鳴尾山に陣を置いたとされています。

太平記には尊氏勢は一万、直義方は五千と書いてあり、戦いは
立てこもる直義方の石塔頼房らの陣を尊氏、師直の軍勢が激しく
攻めたたと伝えられています。実際にどの程度の戦いがあった
のかは定かではありませんが、直義方の援軍が迫り、尊氏勢は陣
を引き払っています。戦いは10日余りだったようです。

五峰山には駐車場から光明寺に登る道の各所に光明寺合戦の立
て札があり、合戦の説明が書いてあります。

21. 光明寺合戦の伝説

2006年08月11日

白旗伝説

光明寺合戦にまつわる伝説を紹介しましょう。光明寺の境内に



は、町の観光協会が設置した合戦の案内立て札があちこちにあります。その一つに、白旗の伝説を紹介したものがあります。

光明寺合戦では、足利直義方の石塔頼房らの立てこもった光明寺城（五峰山にある寺の建物などをそのまま城として使った）を足利尊氏、高師直の軍勢は激しく攻めたてましたが、城方の抵抗も強く、寄せ手も攻めあぐんでいました。

そんな中、空の向こうから怪しげな雲がわきたったかと思うと、風に流されて飛んできました。その下に鳥の大群がいて、その中から一枚の白い旗が風に流されながら飛んできました。

両軍の兵は、八幡大菩薩が加護して下さるものだと、自分たちの陣営に落ちてくるようにと手を挙げて取ろうとしました。旗は城方の上を上下に流れながら、やがて、寄せ手の上に飛んできました。兵は祈りました。そしてとうとう高師直のもとに落ちてきたのです。兵はこれで勝利間違いないと喜びました。

白旗は反古（いらなくなった紙）をつないだもので、その裏に二首の歌が書かれていました。

吉野山峯の嵐のはげしさに高き梢の花ぞ散りゆく

限りあれば秋も暮れぬと武蔵野の草はみながら霜枯れにけり
人々の喜びもつかの間。これらの歌の不吉な内容を噂しあいました。「高き梢」の高きは高家をさし、それが散りゆく・・・、「武蔵野の」は武蔵野守である高師直が、枯れる・・・といういずれも高師直方の不吉な運命を暗示しているということだったのです。

写真は本陣跡から引尾山へ続く尾根づたいの山道です。

22. 光明寺合戦の伝説 (2)

2006年08月12日

三本杉と井戸



光明寺に立てこもった足利直義方の武将には石塔、上杉、そして愛曾伊勢守らがいました。激しい戦いが続いたあるとき、愛曾伊勢守に仕える童兵が突然、神がかり状態になって、3メートルほど飛び上がって叫びました。

「われに伊勢大明神が乗りうつって、この城を守るために三本杉の上に居られる。寄手（足利尊氏方のこと）がいかに大勢であっても城は落ちぬ。高師直らは七日のうちに滅ぶであらう。ああ、熱い熱い。熱をさまさねば」といって、「関伽井」（あかい）の中に飛び込みました。あまりの熱さに井戸の水が湯になってしまうほどでした。城方の兵士たちはこの話を聞いて勝利を信じるようになりました。

さて、白旗伝説とともに光明寺合戦にまつわる三本杉の伝説というのがこれです。光明寺には、この伝説を今に伝える「関伽井」の井戸と「三本杉」があります。

写真はその大杉です。夕方、一人で光明寺を訪れ、伝説の井戸と参道の大杉辺りを歩いていると、何か怪しい雰囲気包まれてきました。

私自身、小学5年の時に「太平記」（少年少女向）をわくわく

しながら読んだのですが、南朝方をよく書いてあるためか、尊氏や高師直については悪者の印象を持っていました。光明寺合戦の伝説でも、高師直はやはり悪者になってるんだなあと思いましたね。

23. 光明寺合戦の伝説 (3)

2006年08月13日

山鳩の夢



光明寺合戦にまつわる伝説をもう一つ。山鳩の霊夢伝説を紹介しましょう。

尊氏方の赤松則祐は五峯山の南の八幡山に陣を置いていました。

愛曾伊勢守の童兵が神がかりになって伊勢大明神のお告げを叫んだという話を聞いて、赤松則祐も意気が上がらなかったのです。

そんなとき、息子の朝範が胃を枕にしてまどろんでいて夢をみました。尊氏方の一万余りの軍勢が城の堀に火を放ったところ、八幡山と金峯山から数千羽の山鳩が飛来して、翼に水を浸してその火を消そうとするのでした。

朝範はこの夢のことを父則祐に話しました。すると、則祐は「これはこの城を攻め落とすことは難しいと思っていたが、神の護りがあったのか」と言いました。

ちょうどその頃、美作（岡山県）から敵が攻めてくるという知らせが入り、赤松則祐は陣を捨てて本拠地の白旗城に帰ってしまいました。

山鳩伝説ですが、鳩は八幡の使いであり、八幡山は山城国の男山八幡、金峯山は大和国吉野ということで、ともに戦いの神に通じることから、「神明の加護」があるということになります。

写真は光明寺の仁王門です。光明寺合戦でもっとも激しい戦いのあったのが仁王堂（仁王門）の前だったということになっています。しかし、合戦当時の仁王堂は山の南斜面にあり、今の場所とは違っています。当時の参道が南斜面だったのです。

23. 大正14年の新聞より—上中の杜の話

2006年09月09日



大正14年5月21日付の神戸又新日報（こうべゆうしんにっぽう）にこんな記事が出ているので紹介しましょう。

上中地区の西の田圃の中にこんもりと木が繁った小さな杜がある。昔からあったものだけに、その周囲を耕すお百姓さんにとっては迷惑でもむやみにさわるわけにはいかなかった。

しかし、毎年木が繁って稲の収穫にも悪い影響が出るので、とうとう我慢ならず「今年こそ枝を切って陰ができぬようにしよう」と心に決めた。

そして、ヨキやオノで作業にとりかかった。そのとき、すぐそばをお遍路が通りかかり、こうつぶやいた。

「もしもしお百姓、その木を伐ったら命がなくなるぞ」と。

びっくりした百姓は、

「えらいことだ。自分で自分の首をきるところだった」とあわてて作業をやめた。それからは、杉の木を植えたり、お祭りをするなどの騒ぎを演じたのであった。

それから十日もたたないうちに、誰かが、この杜に観世音菩薩と不動明王像をまつた。

この噂はたちまちのうちに広がり、「ここに願をかければどんな眼病でも腫物でもすぐに治る」という話が人々に伝わった。

それからというものは、毎日三百人からの参詣者が詰めかけ、遠くは但馬からも参詣者があったという。

社警察では放っておかず、これは人心を惑わす迷信であるとして解散を命じたとある。

この記事を読んだとき、旧国道175号線沿いのこんもりした杜が思いうかんだのですが、みなさんもご存知だと思いますが、さてどうなのでしょう。

24. 景色が変わった—小さな祠が見える

2011年01月19日



中国自動車道滝野社インターの近く、旧175号線を走っていると、車の窓から見える景色がしばらく前から変わっています。道沿いの田圃の中にあつた小さな杜が伐採され、見通しがよくなっています。

木が2本ほど残されていますが、小さい頃から見慣れた杜がなくなり、向こうの景色が見えるようになっています。

その伐採された杜の中にぼつねんと小さな石の祠がありました。丸裸にされたような感じで立っている祠が通る度に目にとまります。あの藪の中に何があるんだろう、という「謎」の部分がある日突然明らかになってしまったわけですから驚きました。まさに「神棚の扉を開けてみると・・・」の心境です。もちろん、この祠に何が祀られているのか知りませんが、とにかく景色が劇的に変わったことは確かです。

25. 嬉野開墾の話

2006年11月17日

西瓜畑とキツネ



昭和56年（1981）頃、昭和池からの用水と嬉野台地の開拓について調べましたが、そのときに聞いた開拓時代の苦勞話を紹介しましょう。

嬉野台地は松の生い茂る赤土の不毛の台地といわれていました。その台地に開拓農家として入植して開墾をされた方の話だと、毎日毎日松の木を伐り倒し根を掘り出す作業が続いたそうです。松の根元近くの幹を切り、上の方にロープをかけて傾斜の低い方に引き倒すのです。残った切り株は根を切って掘り出します。

こうして不毛の台地は耕され畑に生まれ変わりました。畑では西瓜が栽培されました。ところが、そろそろ収穫だという頃になると、キツネが出てきてツルをかみ切って器用に西瓜をころがして巣にもって帰るのでした。キツネはかしこくて、はじめに偵

察係が一匹出てきて人がいないことを確かめ、そのあとに一族数匹が出てくるそうです。困った農家の人々はすいか畑に罾をしかけてまちうけました。すると、ある日小ぎつねがかかったのです。そこで、見せしめに畑に死んだ小ぎつねを置いておいたそうです。これでキツネは姿をあらわさないはずでした。

ところが、ある朝、畑に出た農家の人はずびっくりしました。収穫直前のすべての西瓜のツルがかみきられているではありませんか。もう出荷できません。これはきっと小ぎつねを殺されたキツネの仕返しだと思った、ということでした。

この話を聞いた当時、夜になると嬉野ではキツネがギャーギャーと鳴く声がよく聞こえました。狐谷という地名の通り、キツネがたくさんいたのです。

キツネは人をだますといわれます。こんな話を聞きました。キツネと出会ったとき、自分よりキツネが高い場所に居て目が合うと、そのときに人はだまされてしまう、ということでした。そんな時は目を合わせないことです。

写真は嬉野開墾記念碑です。県立教育研修所の南、人家が途切れた田圃の中、用水路の側に立っています。

26. 神戸石（かんべいし） — 加東市穂積

2008年03月16日

神戸石（かんべいし）

加東市穂積地区に神戸石（かんべいし）とよばれる伝説の石があると聞いていました。用事で穂積地区を通る度に気を付けていたのですが、なかなか見つかりません。それもそのはず、神戸石は私が想像していたよりも小さな石で、集落の道路の電柱の脇に



そっと置いてあるような感じの石だったので。

神戸石にまつわる話とは次のようなものです。（『語りつぎたいふるさと滝野』より要約）

昔、穂積村におそろしく力の強い男がいて、力くらべをしては挑戦者を負かしていました。姫路や加古川まで出かけて行ってこの男に勝つ者はいませんでした。力が余ってどうしようもないこの男はどうとう大川（加古川）と力くらべをすることにし、流れの激しいところに入り、戸板を流れに立てて押し返しました。すると、流れが逆流し、どうとう大川との力くらべにも勝ってしまいました。そこで、川原にあった重さおよそ300キロの大きな石をかついで村に持ち帰ってきました。

この男の名字が神戸（かんべ）といったので、この石が「かんべ石」とよばれたのでした。

という話で、各地にある力石の一つでは、といわれています。こんな話ですからさぞかし神戸石は大きいものという先入観ができてあがってしまい、見過ごしてしまっていたわけです。

ある日、その神戸石の近くの方からお話を聞くことができました。神戸石は半分が地下に埋まっており、したがって地上に出ているのは半分だったので。小さいと感じたはずです。本来は高さが約1メートルぐらいあるそうです。

27. 加東遺産—安国寺と足利義教の首塚①

2008年06月30日



6月中旬、梅雨の合間の晴れた朝、安国寺（加東市新定）へ行ってみました。

平日のまだ朝だというのに駐車場にはバスが一台止まっていました。加東市（旧東条町）の友好都市シェラン市（米国ワシントン州）からの訪問団一行が見学を訪れていたのです。山門をくぐり庭に入ると、ちょうど一行が本堂の拝観を終えて出てきたところでした。

私は寺の裏にある足利義教の首塚に向かいました。本堂の裏には蓮池があり、その畔のこんもりと一段高いところに首塚があります。階段を上っていくと塀で囲まれた一画があり、苔で覆われたその中央に宝篋印塔（ほうきょういんとう）が祀られています。宝篋印塔とは鎌倉時代から造られるようになった供養塔のことです。

そこへシェラン市の一行がやってきました。引率の方からここに將軍の首が埋められて祀られていると説明されると、目を丸くして驚きながら、「ではボディは？」という質問を返していました。引率の方もこの質問には少し戸惑っているように見えました。これも文化の違いでしょうか。首を切ってその首だけを京都からこの離れた地に運んできて祀ることがよく理解できていないようでした。

一行の若者は「ショーゲン」の首塚よりも蓮池のカエルに興味があったようで、蓮の葉の上のカエルを見つけてははしゃいでいました。足利義教も自分の死後550余年もあとに青い目の少年

少女がこうして自分の供養塔を訪れるとは夢にも思わなかったでしょう。

さて、安国寺は「加東遺産10選」の一つに選ばれています。加東遺産のキャッチフレーズは「世界に一つ！」ですが、「安国寺」はよく知られているように室町幕府を開いた足利尊氏が名僧夢窓国師の勧めによって、北条氏を弔い国の安定を祈って一ヶ国一寺、全国60余州に建立しようとした寺の一つです。寺名は臨済宗東溪山安国寺。開祖は京都東福寺管長、固山一鞏禪師で、暦応2年（1339）に建立されたと伝えられています。開山当時は安国寺の付近に24の塔頭があったといわれています。現在の本堂は明治29年（1896）に再建されています。

28. 加東遺産—安国寺と足利義教の首塚②

2008年07月01日

足利義教の首塚



真)。

將軍足利義教の首塚がなぜ安国寺にあるのでしょうか。

足利義教は三代將軍足利義満の子で、兄の義持が四代將軍になったために、当時の慣例で仏門に入り天台座主になっていました。しかし、五代將軍義量（義持の子）が早く死に、そのあとしばら

く将軍代行として政治を取り仕切っていた義持も跡継ぎを決めな
いまま死んでしまったので、幕府の有力な大名が集まって、くじ
引きで六代将軍を決め、その結果、義円（義教の当時の名）に決
まったのです。こうして義円は還俗し、六代将軍義教になったと
いうわけです。

六代将軍義教は、幕府の権力を強めるために有力守護大名の家
督相続に強引に介入したり比叡山と対立したりして独裁的強権的
な政治を行いました。

幕府の有力守護大名だった赤松満祐はこうした義教の動きを警
戒して、嘉吉元年（1441）6月24日、京の自邸に義教を招
いて宴を開き、ころあいをみて突然襲いかかって首をはねてしま
ったのです。赤松満祐は自害するつもりでしたが、幕府の動きが
なかったので邸に火をつけ、領国の播磨に引き上げてしまいました。
これが「嘉吉の乱」です。

赤松満祐は将軍義教の首を持って播磨へ引き上げ、その途中、
加東郡河合郷新部村堀殿城（現在の小野市）で葬送の準備をして、
東条川をさかのぼって安国寺に向かいました。

7月4日、安国寺では播州から僧侶百人が集められ、武士数百
人が警護するなか法要が営まれたそうです。

赤松満祐はそののち、城山城（現たつの市新宮町）にたてこも
り、幕府の山名軍と戦いましたが9月10日に切腹しました。

29. 関西電力社営業所の歌碑

2011年04月24日

加東市社の市街地のほぼ中央に社のランドマーク、関西電力社
営業所のタワーが高くそびえています。営業所は近頃増築され外



装も美しくリニューアルされました。その正面玄関の脇に歌碑が置かれています。刻まれている歌は、古く播磨風土記の時代の応神天皇の御歌です。歌碑の脇に解説が立てられているので紹介します。

この歌碑は播磨風土記（和銅六年頃）に記載された大変古い歌です。

この風土記によりますと応神天皇が当地を巡行され小目野（現在社町野村字小部野）にお泊まりになった時お詠みになった歌です

歌 愛くしき小目野の小竹葉に
霞ふり霜ふるとも
な枯れそね小目の小竹葉

訳 美しい小目の笹葉に霞が降り霜が
降っても枯れるよ小目の笹葉

今から千二百五十年余りも昔に編さんされた風土記にこんな素晴らしい歌をもった郷土にどんなにか誇りに思い今後豊かな町づくりにこの歌碑が少しでも役立てばと記念して建立しました
なお歌碑の揮毫は歌人藤原優先生によるものです

「小目野」は現加東市野村の小部野のことだとされています。
加古川の東岸、風土記には穂積里のところに出てきます。解説文

にあるとおり、郷土の古い歴史を物語るこの歌をいつまでも伝える歌碑を大切にしたいと思います。

30. 多田池の伝説

2011年04月18日



加東市藤田地区には、木梨神社、小山寺をはじめ、逆川など古い歴史や特色ある自然が残っています。また、このブログでも紹介した「大とんど」など、地域の伝統や文化が大切に継承されています。

なかでも今日紹介する多田池伝説は謎に満ちており、興味津々の伝説です。藤田地区には昔、多田池という大きな池があり、この池に棲んでいた大蛇退治の伝説があり、その痕跡として、逆川や蛇ころびなどの地名も残っています。

この話は小さい頃から聞いて知っていましたが、大蛇の大きさや池がどこにあったんだろうとか、謎は残ったままでした。

今回、4月10日に三草ふれあい広場主催のわくわく探検が藤田地区で行われました。木梨神社で宮司さんのお話を聞いたとき、神社に宝物として保存されている大きな木の樋の一部が公開されました。そして、池があった場所や、堤があった位置などを教えていただくことができました。「池は本当にあったんだ。」謎の一つが解けたような新鮮な喜びがわいてきました。驚いたのは、堤が、木梨神社のあたりから、藤田地区の集落の東端をなぞり、南の台地につながる大きな谷をせき止めるものだった、ということ

です。今は県道、そして中国縦貫道が東西に通り、さらに千鳥川が流れているので、そうした大きな堤があったとはとても想像できませんが、竹藪や小高いところが残っているので、それらをイメージの中でつないでいくと、巨大な堤が見えてきました。しかし、そうなると、この池はとてつもなく大きな池になってしまいます。千鳥側のさらに上流、東隣の米田地区は池の底になってしまいます。そんな大きな池が本当にあったのか、という新たな疑問もわいてきました。

また、この多田池がつくられたのはいつのことなのかということも知りたくなります。多田池の名は築造した多田満仲から付けられています。多田満仲は摂津の川西あたりを本拠とする多田源氏の源となった武将で10世紀に活躍した人物です。摂津の国の国司として土地の開発を行ったことで知られていますから、池をつくったということは考えられるのですが、この地を領地としていたのでしょうか。

4月10日、見せていただいた木の樋の一部は、池の築造から数百年経った江戸時代に元の池の底にあたる田の土の中から掘り出されたものであるという。池が築かれた昔はこれだけの木の樋の元になる大木が周辺に生えていたのだらうということです。

それにしても、多田池のことはもっと詳しく調べてみたくなりました。

31. 多田池の大蛇伝説

2011年04月23日

前回、加東市藤田に伝わる多田池（藤田池）の伝説と掘り出された木樋を紹介しましたが、今日はこの池に伝わる「大蛇伝説」

を紹介します。

伝説の内容は、多田池に大蛇が棲んで人を食べるというので怖れられていましたが、藤田三郎太夫行安という武士がこの大蛇を退治した、というものです。この大蛇は、その百年余り前に西国巡礼の旅の人が摂津の毘陽池を通りがかったときに、一人の若い女性から播磨国の福田郷にある多田満仲が築いた大池のある村の者に届けてほしいと託された文箱の中にいた一匹の蛇が池に入っていたもので、やがて大蛇になって人を食べるようになったわけです。

この伝説を裏付けるものとして、藤田三郎が大蛇に射た矢の先が木梨神社に宝物とされていたり、射かけられた大蛇がのたうちまわった場所は草木も生えず「蛇ころび」とよばれていたり、大蛇がいつも寝て枕にしている場所を「蛇枕」とよんでいたりにあります。また、藤田三郎太夫の屋敷跡とされる広い平らな場所からはかつて矢の根も出てきたといえます。現在の藤田地区の名はこの藤田三郎太夫行安の名を付けたものです。また、木梨神社には、藤田三郎太夫行安を神と祀った三郎太夫神社が建てられています。その他にも、大蛇が堤を藪った時に一気に水が流れ出し、そのままでは下流の家や田畑が流される危険があったのですが、不思議なことに水は急に逆さまに流れてその難を逃れたと伝えられています。その流れのあとは、そのまま川となり、逆川とよばれている、といったことなども伝えられています。

中学時代にこの逆川を下流から歩いてさかのぼったことがあります。兩岸は高く切り立ち、竹が生い茂る薄暗い川の中を勇気を出して歩いてさかのぼっていきました。途中、上流から流れののって一匹の蛇が泳ぎながら流れてきた時には心臓が止まりそうで

した。大蛇伝説の逆川で蛇！今でもその時の恐怖感、光景は鮮やかによみがえってきます。

32. 曾我の塩坪—地名の由来？

2016年03月28日



加東市の北端、曾我地区の地名の由来について、『加東郡誌』（大正12年刊）は、曾我井（そがい）の略で、もとは清泉の意味から出た地名としています。地区に「塩坪」と呼ばれる場所があり、いわ

の間から湧く泉は古来、どんな日照りでも涸れたことがないといわれていました。また、伊勢参りの時には、必ずこの泉の水を汲んで身を清めてから出発することになっていたと記しています。写真は塩坪の辺りの現在の風景です。

以前、その塩坪を探したことがありました。しかし、どこかよく分からずにそのままになっていましたが、先日、地区の方と吉馬川を見て歩いたときに、吉馬川に合流する川の岩床あたりが塩坪だと教えてもらいました。ただし、河川改修をしているので、昔とは変わっているとも聞きました。塩坪の名の通り、塩分を含む泉が湧いていたそうで、地中深く井戸を掘っても塩分のある水が出たこともあるということでした。

曾我の地名については、古代の豪族の蘇我氏が開拓した土地から出たものとする説や地名学的には、「そが」は砂地、坂を意味し、加古川の河岸段丘の地形から出たもの（『語りつぎたいふるさと

滝野』) などがあります。竹内姓が多いのも蘇我氏の祖である武内宿禰(たけうちのすくね)に由来するともいわれています。

一つの地区に伝わる伝承や伝説は本当に奥が深く興味深いものですね。

33. 清水寺のすごさ①

2011年05月23日

5月9日のブログで紹介した「清水寺誌」(昭和32年発行)には、清水寺の縁起や大正の大火からの再建、赤松氏範討死の話などが掲載されています。

清水寺は西国25番札所として知られ、多くの参拝客が訪れる天台宗の名刹ですが、その縁起について、あらためてこの「清水寺誌」に記されている内容を紹介します。

今、パワースポットが人気をよんでいます、清水寺は仙人開基の日本最初の観音霊場でありますから、まさに元祖パワースポットといえます。また、その靈験にあやかるべく、日本歴史上、天皇や武将などが堂宇の建立に名を連ねています。

開基は播磨地方の多くの寺の開基で知られる法道仙人、推古天皇の勅願により根本中堂が創建され、聖武天皇の勅により大講堂が建立されたと伝えられています。また、大塔は平清盛の母、祇園女御が清盛出産のときに武運長久を祈願して建立され、常行堂は後白河法皇によって、また、阿弥陀堂は源頼朝によって建立されたと伝えられています。さらに蝦夷征伐で知られる坂上田村麿は毎月参籠し、刀を奉納しています。

法道仙人がチベットから中国、朝鮮を経て日本に飛来し、播州丹波摂津三国の境の峰に住んだのが景行天皇の頃、すなわち

1900年ほど前のことです。あるとき、仙人が祈っていると、自然と峰が裂け、土の中から大石が出現して、その石に「南無観世音菩薩」と刻まれていた。仙人は大喜びし、再びこの大石を元



通りに埋めて、観音靈験の地とした、ということです。これが日本最初の観音靈場とされる話です。すごいですね。

写真は根本中堂から大塔を望んだものです。昭和10年代のもので。 つづく。

34. 清水寺②一山と寺の名の由来

2011年05月25日

昨日に続いて、清水寺（加東市平木）の「清水寺誌」（昭和32年刊）から、寺の縁起を紹介します。

今から約1900年前のころ、大陸から飛来した法道仙人がこの峰に降り住み、祈ったところ、「真無観世音菩薩」と刻まれた大石が出現し、この地が日本最初の観音靈場となった、というところまでを紹介しました。

まず、御嶽山（みたけさん）の名前の由来ですが、ある時、仙人が景行天皇にこの地に仏閣を造ることをお許し下さるようお願いをしたところ、天皇はただちにこの峰四方四里を仙人に与えられ、それでこの峰を御嶽山（みたけさん）と呼ぶようになったということです。

また、清水寺の寺号の由来については、次のような話が伝わっています。

仙人がこの峰に住み始めたものの高い山の上ゆえ水を引くわけにもいかず、仙人は常に山霊水神に祈っていたところ、忽然と清水がわき出し、日照りでも水位は下がらず、大雨でも増えないという不思議な霊水を得ることができました。欽明天皇の時代に清水寺と名付けられ、その後も冷泉は湧き続けているというものです。

35. 清水寺—弁慶の碁盤

2011年07月07日

また清水寺の話題を一つ。清水寺が日本最初の観音霊場として、天皇や将軍などが堂塔を建立するなど信仰が厚かったことはこれまで紹介してきました。それだけでもすごいと思いますが、この寺にはすごい宝物があるのです。

弁慶の碁盤もその一つです。弁慶は清水寺で僧を相手に囲碁をよくしたらしく、負けた口惜しさに自分の黒石を碁盤に押し込んだといわれています。弁慶の怪力にちなんだ伝承は数多いと思いますが、実際にその碁盤を見たことがあるのです。古い碁盤の隅の方に黒石が押し込まれたように碁盤の中にめりこんでいるのです。とても人間業だとは思えませんが、弁慶の超人性がこの碁石一つで感じられます。

教師時代に社会科の歴史の授業で地元の郷土史の先生をゲストにお招きしたことがあります。その折りに教室に持ち込んでこられて見せていただいたのです。

36. 清水寺—南朝忠臣赤松氏範物語

2011年06月02日



清水寺への自動車登山道路をほぼ登りきり、山門前の駐車場に入ろうとする所に、1本の石柱が立っています。

標柱には、「史蹟 南朝忠臣赤松氏範父子一族憤死・・・」と刻まれており、

下部は土中に埋まっています。読めませんが、側面には「昭和六年九月二日建立 兵・・・」と刻まれていて、やはり下部は「兵」しか見えませんが「兵庫県」と刻まれているのではないかと思います。そんな石柱が岩がむき出しの尾根筋に立っているのです。

南朝忠臣赤松氏範父子一族憤死の地。石柱から尾根づたいに林の中を少し歩くと、赤松氏範の墓にたどりつきます。石碑は新しく建てかえられていますので、歴史の古さを実感するというものではありませんが、今から625年前に南朝への忠義を全うし、一族とともにこの地で自害した赤松氏範の忠誠は今に伝えられています。

赤松氏範の墓（写真）については、これまでにもこの歴史ブログで紹介してきましたが、赤松氏範と清水坂の合戦についての説明を再掲します。

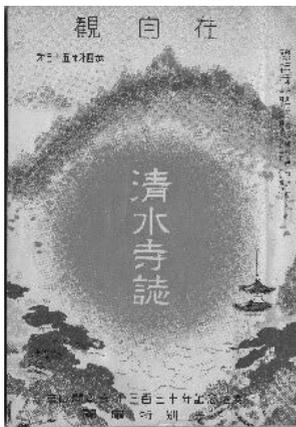
赤松氏範は14世紀南北朝時代の人で、播磨の豪族、赤松円心の子です。赤松円心は、はじめ南朝方についていましたが、のちに北朝の足利方につきます。兄弟4人のうち、氏範一人が南朝について忠義を尽くしました。

足利義満が三代将軍となり、南朝の勢力はおとろえはじめました。氏範は1386年、最後の戦いに挑むべく、京の幕府を襲いましたが、幕府勢に押し返され、播磨の清水寺に立てこもりました。これを攻めたのは山名の軍勢でした。さらに山名勢が去ってからは細川勢が攻めました。

氏範はよく戦いましたが、何せ味方は少数、幕府軍は大軍とあって、兵糧もなくなり、遂に覚悟を決めて、寺の北東の峯に一族郎党を集め、自刃をして果てたのです。これが、清水坂の合戦とよばれる戦いです。

37. 清水坂の合戦—南朝忠臣赤松氏範

2011年06月06日



「清水寺誌」(昭和32年刊)に福原会下山人(ふくはらえげさんじん)による「清水史蹟赤松氏範」が掲載されています。福原会下山人は明治3年(1870)篠山町生まれの郷土史研究者。その山人が書かれたものを同誌に再録したとあります。前文には次のように書かれています。

大正二年の夏八月二日、山火延焼して堂塔伽藍一字をも遺さず烏有に帰した際、御嶽の東嶺霜台の尾の史蹟、南朝忠臣赤松氏範墓石の断礎に、晚鴉空しく群がるを痛嘆して、山人のものされしを、ここに再録してこれを衆人に知らしめ、忠魂慰留の助とも致したい。

私は子どもの頃から「太平記」の少年向けの本を繰り返し読ん

でいました。楠木正成の赤坂千早城での奮戦にわくわくし、新田義貞の鎌倉攻めをはじめ、児島高德、名和長年、足利尊氏、高師直、後醍醐天皇といった登場人物の名も覚えてしまっていました。何度読んでも本当におもしろい話でした。楠木正成、正行親子の別れの場面、正行の四条畷の戦いでの壮烈な最期などは挿絵も目に焼き付いています。そんな太平記に出てくる南朝の忠臣たちの一人、赤松氏範の最後の地が清水寺だと知ったときの驚き、興奮、衝撃はものすごいものでした。小学生の頃、父に連れられ清水寺に泊まり、翌朝、子坊さんの後ろを歩いて生い茂った笹をかき分けて赤松氏範、一族の墓に案内されました。読んでいた太平記には赤松氏範の名は出てきませんでしたが、ここに南朝の忠臣の墓があり、その墓石の表面が剥がれて古さを感じたことを覚えています。

～南朝忠臣赤松氏範―清水坂の戦い～ 2011年06月29日

しばらくぶりの投稿です。清水寺（加東市平木）の赤松氏範についての話の途中で投稿が止まっていましたが、復活します。

少年の頃、「太平記」のヒーロー楠木正成の縦横無尽の活躍に心をおどらせていましたが、赤松氏範が立てこもった清水寺での戦い、清水坂合戦（きよみずさかのかつせん）の話も楠木正成の千早、赤坂の戦いのようで、身近なところでそんな合戦があったことにあらためてびっくりしています。「清水坂合戦」の話は次のとおりです。

赤松氏範は南朝方の武将として忠義を尽くしていましたが、南朝の勢力がしだいに弱まっていくなかで、最後の戦をという覚

悟で京都に攻め入り、將軍の命をめざして夜討ちをかけて奮戦したのですが果たせず、丹波から播磨へと退きました。

氏範は「賀茂郷なる御嶽山清水寺は観音応現の伽藍なれば、この山にて敵を引き受け、いさぎよく討死せんもの」と呼びかけ、一族郎党百四十余騎が大講堂を本陣にして足利の討手を待ちました。

一方、京都ではこの氏範の動きに対して足利勢の武將が評議し、このままにしておいては、氏範に味方する者があちこちで兵を挙げるかもしれないということで、討手を送ることに決まり、山名氏清が名乗りを挙げました。

清水寺では、この報せを受けた氏範は一族郎党を集めて「山名氏清なら好敵手。面白し。打ち破って、朝敵どもの目を驚かせよう」と氣勢をあげて待ち受けていました。山名の勢力は千五百余騎。丹波から押し寄せ、山の麓に着くと鬨の声（ときの声）をあげて山に火をかけ、投げ松明に火をつけ、火矢を打とうとしましたが、氏範はそうしたことに備えて峯のある水を切り落として防ぎました。山の下から射る矢は生い茂った木にさえぎられましたが、山の上から射る赤松勢の矢は逆落としのように山名勢を襲いました。そのうち、坂の途中まで攻め登った山名勢と赤松勢との激しい戦いになりました。このとき、「伽藍を焼こうとした仏敵山名を許すまじ」と清水寺九十八坊の衆徒も甲冑を身につけて戦いました。こうして、小勢ながら山名が繰り出す兵を赤松勢が押し返すもどす激しい戦いが三度にわたって繰り広げられました。山名勢は赤松勢の思わぬ強さに対して急に攻めるよりじっくりと攻める方に戦法を変えなければならぬと考えていたところへ、河内国で楠木、和田の一族が蜂起するという報せがとどきました。山名氏清

はちょうど播磨国に入っていた細川頼元にあとを頼んで京都に引き返しました。 つづく

～南朝忠臣赤松氏範－細川との戦い～ 2011年06月30日

清水寺に立てこもった赤松氏範を攻め切れず、山名氏清が京都に軍勢を引いたあと、かわって細川頼元の三百余騎が勢いこんで攻めてきました。

赤松勢は少数ながらこれを防ぎ、細川勢は鴨川（加東市鴨川）まで退き、赤松勢は大講堂へと引き返しました。これを口惜しがった細川頼元は今度は八百余騎をもって激しく攻め上り、とうとう山門まで攻め寄りました。これを待ちかまえていた赤松勢は大石、大木を雨あられの如く投げ落としたので、細川勢は数百の兵が押しつぶされました。さらに赤松孫五郎（氏範の子）は大石を抱えて山門の屋根にのぼり、その大石を細川勢に投げつけました。これをみた細川勢は「人間業にあらず」と怖れたのでした。

赤松氏範は三十余騎をしたがえて細川勢に切り込み、細川頼元をめざしました。細川勢はこの赤松氏範の勢いに押され、鴨川まで退くと、孫五郎が二十騎余りを率いて山中から細川勢を襲いました。細川勢はたまらず三草山まで退き、三草山に登って陣を立て直し、追ってくる赤松勢に備えましたが、氏範は深追いせず、清水寺に引き戻って敵が再び寄せてくるのを待ちました。 つづく

～南朝忠臣赤松氏範－最後の戦い～ 2011年07月01日

清水寺に立てこもった赤松勢が手強く、細川勢が攻め落とせないで、京都、津の国、そして、播磨口から援軍が送られることに決まりました。

氏範はこれを聞いて、「これまで足利勢とこれだけ花々しい戦いをしてきたのでもう思い残すことはない。討手の中には播州の赤松勢も向かってくるだろう。そうすると同じ血をあらう戦いとなる。しかも三方を塞がれては兵糧もつきる。これまで敵は我らを大軍と思い間違えていたいたからこそ、一騎も討たれずにきたが、この上は鴨川の細川の陣へ夜討ちをかけて、いさぎよく腹かき切って清水の土とならん」と一族郎党の覚悟をきめたのです。

元中3年（1386）9月1日夜、氏範と一族郎党は最後の戦いと決め、鴨川の細川の陣に夜討ちをかけました。細川勢はもうすぐ援軍も到着するだろうと、その夜は何の用心もせず、みんな百姓の家に入って寝ていました。赤松勢は、土を焼いて作った爆裂弾に火をつけて家の中に投げ込むと同時に鬨の声をあげて攻め入りました。細川勢は大混乱。赤松勢は思う存分に敵を切りまくりました。大軍が攻めてきたと思った細川軍はただひたすら逃げるばかりでした。赤松勢は「最早これ以上罪をつくるな」と山上に引き上げました。これが赤松氏範の最後の戦いになるのです。
つづく

～南朝忠臣赤松氏範の最後～

2011年07月02日

赤松勢は鴨川で細川軍を思う存分切りまくり山上に引き上げました。しかし、境内ではご本尊に恐れがあると、良の方へ引き去り、最後の酒宴を開きました。平らな岩の上に氏範が腰掛け、4人の息子を左右に立たせ、一族郎党137人が車座になって、樽のかがみをぬき、酒を汲みかわしました。

氏範は、寺僧を招いて籠城以来の礼を述べ、今こそ最後ぞと腹を十文字に掻き切ると、息子たちも切腹し、郎党もさしちがえた

り、腹を切ったり、首に刀をかけたりして思い思いに続きました。

こうして赤松氏範は、一族でただ一人南朝への忠義を尽くし、最後まで心変わりなく、山名、細川の大军を引き受け、再三の戦いでひけを取らず、敵を討ちやぶりながら味方を失わず、心静かに自害し果てたのでした。

清水寺の使僧が細川の本陣に赤松主従一人残らず今朝自害し、山には敵は一人もいないと知らせました。細川勢はこれも赤松のわなかかもしれないと警戒の声も出ましたが、検分に行かねば臆病といわれる、と細川頼元が先頭に立って山にのぼり検分しました。赤松の自害を確かめた細川頼元は、氏範父子5人と郎党137人という小勢だったことに驚き、その勇猛な戦いぶりを天晴れと賛嘆しました。

寺の衆徒は氏範はじめ郎党を葬りたいと申し出ましたが、細川勢からは「憎き敵なれば、首を切って獄門にさらすべきだ」との声があがりました。しかし、細川頼元はこれを押しとどめるように氏範を武士の手本と称え、許しました。清水寺では赤松父子と郎党の死骸を葬り、懇ろに弔いました。

以上が南朝忠臣赤松氏範の最後にいたる清水寺での戦いの話でした。あらためて、清水寺が太平記の時代のすごい戦いの舞台だったんだなということに驚きました。もう一度、清水寺に登り、赤松氏範父子、一族郎党の墓にまいりたいと思いました。

38. 戦国時代の歴史を伝える依藤野の墓

2011年07月03日

加東市の中央部に広がる嬉野台地。この台地を東西に貫く県



道を社から東条に向かって走っていると、兵教大前の交叉点を過ぎ、自動車教習所を右手に見ながら道路は大きく右に左にカーブをしながら東条谷に下る長い坂道に入ります。その直前のカーブの右手に2

基の墓石があります。

これが冷泉為勝と依藤太郎左衛門の墓です。嬉野台地の東の一帯は依藤野とよばれています。これは、15世紀から16世紀にかけて東条谷を支配していた土豪の依藤太郎左衛門がこの地で討死したことから付いた地名だといわれています。

依藤氏は小沢城（加東市小沢）、小田城（小野市小田）を本拠とし、東条川流域を支配する土豪でしたが、嘉吉の乱（1441）で將軍足利義教が殺されてから、播磨は不安定な状況になり、各地でこうした土豪が勢力を張り合っていました。

16世紀の前半頃には、三木を支配していた別所氏が勢力を広げ、依藤氏は敵対していましたが、天正6年（1578）に別所長治が細川荘（三木市）の冷泉為勝を攻めたときに、依藤太郎左衛門は兵を率いて別所氏と戦い、戦さに敗れてこの依藤野の地で死んだということです。

道路脇に車を止めて撮影しました。今から430年余り前、この地にそんな歴史があったことを伝えてくれる墓碑です。

39. 伝説のくすのき塚—加東市古家

2012年01月27日



東条ダムを左手に見ながら
県道小野藍本線を大川瀬方面
(東) に向かって走ると古家
(ふるけ) の集落に入ります。
秋津富士方面の標識が出てい
る所を左へ入り、北の山の方
への道をしばらく行くと、道

の脇に石碑のようなものが目に入りました。一角には石燈籠も立
っており、その石が祀られているように見えます。これが、あの
伝説のくすのき塚かと、車を降りて見てみました。

くすのき塚とは、太平記で知られる「湊川の戦い」で敗れた楠
木一族の残党がこの地までたどり着き隠れ住んだと伝えられてい
ます。この塚は、鎧や兜、武器を地中に隠したとされ、地中は空
洞になっていて、力を入れて足踏みをするのが一んを響くと言わ
れています。古家はその歴史を中世にさかのぼる古い歴史の集落
です。昨年未だに公民館に寄っておられた地区役員さんからもそ
うした話を聞いたばかりです。道の脇の田圃の中にあるこのくす
のき塚の伝説が数百年前の記憶をよみがえらせてくれる。その歴
史の厚みに圧倒されます。

40. 桜橋の桜が満開—馬瀬

2012年04月17日

加東市馬瀬の国道372号沿いに馬瀬公民館があります。その
向かいに架かる小さな橋を跨ぐように生えている桜の古木があり、



15日の日曜日にはちょうど満開でした。

桜橋とよばれるこの橋の桜の由来はこうです。

地元の方の話によると、幕末か明治のはじめの頃、村の人が山から山桜の幼木を抜いてきて橋のたもとに植えたそうです。しばらく経った頃、村の若者が幹を途中からきってしまったのですが、そこから枝が三本に分かれて、川をまたぐように横に伸びていったそうです。やがて幹は太くなり、大人が一抱えするほどの大木になりました。今は国道がついて根元はコンクリートで固められ、窮屈な場所になっています。そして、枝も一本だけが残っています。

41. 大深滝（おぶかのたき）

2013年12月03日



昨日は加東市松沢の大深山東福寺の弁財天祭りと護摩焚き、火渡りを紹介しましたが、今日は、その東福寺の滝を紹介します。

大深谷（おぶかのたき）と呼ばれている滝は本堂に向かって右の山から落ちている滝で、水量は水がしたたり落ちる程度です。地元の方に水源は？と尋ねると山から湧いてきたもんでしょう、ということでした。昔は冬にな

ると氷柱（つらら）が下がり、それをわらに包んで持って帰った、とも話されていました。

伝承では、今から1125年前の仁和4年（888）に東福寺が消失した時に御本尊が滝壺に入ってその後上がってこられた、ということ。そこで、この滝の水は万病を治す効果があると伝えられているようです。参拝の方が「いぼが取れるんです」と体験を話して下さいました。仁和4年は仁和寺建立の年で、その前年には仁和地震と呼ばれている大地震、今その発生が危惧されている東海・東南海・南海地震です。大阪湾に巨大津波が押し寄せたという記録があるそうです。

42. 三草山城の研究に歴史ロマンー北播磨城郭研究会

2016年04月25日



24日（日）、加東市上三草のやしろ国際学習塾中会議室で北播磨城郭研究会30周年記念講演会が開催されました。

会場には城郭・歴史研究に関心をもつ多くの人が出席し、藤原孝三さんの研究発表に耳を傾けました。会場正面には、北播磨などの山城の想定図が何枚も掲げられ、藤原さんは講演前のフリートークで三草山城はじめこれらの山城の特徴などを紹介されました。

今回は同会30周年の記念ということで、立ち上げに関わった元神戸新聞記者の藤田さんが挨拶に立ち、発会の経緯などを紹介

されました。また、三草山城の発表を前に、これに繋がる話として、「家紋の由来と戦国武将の家紋」と題し、日本家紋研究会理事の田中豊茂さんが講演を行いました。家紋の発祥から説き起こし、戦国武将によって活用され、さまざまなデザインが生まれ普及した家紋について分かり易く解説されました。

続いて、藤原孝三さんが三草山城について研究調査の成果を発表されました。源平合戦の古戦場として知られる三草山ですが、それは京と播磨、西国を結ぶ京街道をにらむ位置にあり、播磨国への入口に位置していることから軍事的にも重要な地点であったということに起因しています。三草山の山上には山城の遺構があり、実地調査、文献調査、聞き取り調査などを重ねて、その研究成果をまとめられたものです。山上には、尾根に沿って「郭」（くるわ）とよばれる平面が幾段もあり、土塁や石積み、水場、堅堀など山城の遺構と想定される部分があり、図に示されていました。

南北朝時代に山城は造られ、その後戦国時代に本格的に改造されたようだとのことでしたが、講演を聴きながら好奇心というか関心が一気にたかまってくるのを感じました。中学生の頃から三草山にはよく登りましたし、山上からの眺望は抜群であることもよく知っていましたが、山上に山城があったなどとは知りませんでした。石垣の跡がある、とか、砦があった、といった話は聞いたことがありましたが、話だけのことと思っていました。はじめは京街道の見張りの役目、やがては押さえる役目に変わり、山上から山麓へと移ったとも聞きました。麓にある馬瀬や鴨川の地名は古く、鎌倉時代にはあったということであり、源平合戦の一ノ谷合戦の前哨戦だった三草合戦で平家が陣を張った位置や義経が急襲した平家の陣の位置なども想定され、納得のいく話を聴くこ

とができました。

三草山はふるさと加東のシンボルです。この歴史ブログでもその美しい山の姿を紹介してきましたが、その山上に山城があったという研究に驚き、強烈な衝撃を受けました。まさに歴史ロマンがまた広がっていくのを実感します。

43. 鹿野の冷泉—加東市下久米

2018年04月08日



7日（土）、三草ふれあい広場の第9回ワクワク探検の出発を見送るために加東市下久米にある鹿野冷泉近くにある三草山登山道駐車場に行きました。

鹿野冷泉を訪れるのは久しぶりで、大学生の頃、九州出身の友人が遊びにやってきた時に一緒に朝光寺への道を歩いたことがあり、写真はその時のものです（左が私）。今から40年ほど前のことです。

さて、冷泉は今も水を湛え、時折りボコボコと水泡が湧き上がっています。屋根はありませんが、池の周囲は囲いが設けられ、小さな祠がありました。

この冷泉の由来、伝説について記した資料（ふれあい広場配布、冷泉に掲げられた解説板の文）を紹介します。

朝光寺は、白雉二年（651）、天竺（インド）からトライした法道仙人の開基によると伝えられています。

法華山一乗寺で修行していた仙人は、毎朝、東方の峰に瑞光が天をさすのを見て、そこには必ず霊物があると思い、一日光を追

ってこの地を訪れました。その時、頭に冠をつけ、あざやかな服を着た容姿非凡な一人の翁があらわれ、「あなたが来るのを長い間待っていました。この山には霊木があって光を放っています。この木で仏像を彫り、寺を建立してお祀りしなさい。私は仏法をお護りいたしましょう」と話しました。仙人は不思議に思って名を尋ねますと、その翁は「私は住吉明神です」と答えました。さらに住吉明神は「私の言葉が真実である証拠に、この地から塩水が湧き出ますよ」と告げますと、翁の姿はかき消すように消えてしまいました。すると、傍らの池からは小さな泡とともに塩水が湧き出しました。これが今の鹿野冷泉です。法道仙人は早速山中に入り、霊木を見つけ、一刀三礼しながら像長五尺三寸の千手十一面観世音菩薩を彫り、寺を建て本尊として祀り、傍らに住吉明神を祀りました。

朝光寺の縁起をもとにした話ですが、明治時代中頃には、この地に温泉場が設けられ療養地として訪れる人も多かったとのことや県による分析や効能などが『加東郡誌』に記されています。

※写真は大学生の頃、友人と冷泉を訪れた時のものです。左が私です。



補. 竹藪の中に道標—窪田地区の旧道分かれ道に

2018年06月27日



26日(火)、加東市窪田地区の竹藪の中に道標があるので見に来ないか、という連絡をいただき、県庁からの帰りにわくわくしながら向かいました。

千鳥川に架かる平安橋から左岸の堤防を数十メートル下流に歩き、堤防下の田圃へ下りる細い道を歩いていくと、上り坂にさしかかったところで道は左右に分かれ、正面に竹藪がありました。

知人が「あの竹の下」と指さす先に道標の上部が見えました。竹藪の草を刈ったら出てきた、ということでしたが、案内してくれた知人は以前から存在を知っていたらしいのですが、地区の人でも知らない人が多いということでした。

草をかきわけて見てみると、正面には「右 をの□□・・・ たかさご□□・・・」左側面には「左 やしろ□□・・・」、右側面には「すぐ 志んま□□・・・」と刻まれていました。分かれ道の右に行けば、加古川下流の小野、高砂方面、左に行けば、窪田、社方面ということになり、小野・高砂方面から来ると直進すれば新町方面ということでしょう。下部が地中に埋もれて全体をつかむことができませんでしたが、まだ下に字があるのではという感じでした。

昔のことをよくご存知の地区の方も来られ、この道は旧道で、堤防ができる前は北側を流れる千鳥側の対岸の穂積地区に通じる板橋があり、さらに北野、新町へと通じていたと教えていただき

ました。以前に対岸の穂積の八幡神社の境内にある大きな道標をこの歴史ブログで紹介したことがあります。昔はこの道が加古川左岸を高砂まで通じる大事な道だったのではないのでしょうか。

さらに幕末に起こった加古川筋一揆もこの道を下ったのではないかと話しておられました。市内各地に道標がありますが、圃場整備や道路改良などで元に場所から移されたものが少なくない中、旧道の、しかもまさに分かれ道に立つ道標。少しは動かされたかもしれませんが、ほぼこの場所に建てられたものでしょう。建立年や建立者はわかりませんが、貴重な歴史遺物です。よく今日まで遺っていたものです。大切に保存し、未来に伝えていきたいものです。

※後日談

2019年02月27日



このブログで紹介した、加東市窪田地区の竹藪の中に道標の続報です。窪田地区内の旧道の分かれ道の竹藪の中にあつた道

標の根元をさらに掘り下げてみた、という報せがあつたのは昨年の11月の頃だつたと思います。その後、その時の写真をいただきました。

掘り下げられた写真を見ると、相当深くまで埋まっていたことがわかります。正面には「右 をの□□・・・ たかさご□□・・・」しか読めなかったのですが、埋まっていた部分には、「きたざいけ」「あかし」の文字がきざまれていました。右側面の「すぐ 志んま□□・・・」の下に「たか□□」と刻まれていました。この道標は、加古川下流の小野、高砂方面と社、大阪方面への分かれ道

だったということが分かりました。

令和元年～2年の活動記録

令和元年6月～令和2年5月までの政治活動記録 —議会活動ブログ「百聞百見」より

1. 東文連総会、滝野中オープンスクール、聖火リレーが 加東を走る!

2019年06月02日



1日(土)、8時30分過ぎに滝野中学校へ。今日はオープンスクールが行われ、1年生から3年生の授業を参観した。附属中時代の同僚の先生や教え子、教育実習で私が指導教官を務めた先生など、懐かしい先生の授業も参観させてもらった。英語、数学、理科、国語等々中学校の授業は久しぶりだった。生徒は元気よく学習をしていた。

午後は県立嬉野台生涯教育センターで行われた、東播磨文化団体連合会の令和元年度の総会に出席し、ご挨拶を申し上げた。緑に包まれた同センターは創立40周年を迎える。

ところで、来年の東京オリンピックの聖火リレーの日程、都道府県の通過都市が発表された。兵庫県は5月24、25日の2日間。なんと加東市をリレーが通過することになった。24日、豊岡市 → 朝来市 → 宍粟市 → 加東市 → 小野市 → 加古川市 → 姫

路市（姫路城三の丸広場）のコース。詳細は分からないが、北播磨県民局から市役所へのコースとか。オリンピック聖火が加東を走る。今からわくわくする。

2. 酒米研究交流館で山田錦をテーマにうれしの生涯大学院生が研修

2019年06月12日



11日（火）、今日から4期目、そして、令和の新任期が開始した。

登校見守りに立ってから事務所に寄り、加東市沢部にある兵庫県立農林水産技術総合

センターの酒米試験地へ向かった。

今日は県議選直後の4月に依頼を受けていた「うれしの学園生涯大学大学院」の2学年の自主企画講座の講師を務めた。

テーマが「世界に向けて発信—山田錦」だったので、4月に竣工した酒米研究交流館で行うことにし、研修室で約1時間にわたり、兵庫県議会における山田錦に関する質問や答弁、主要農作物種子生産条例の意義などを中心に講演した。研修には、県東播土地改良区の職員も参加し、山田錦の里を潤す東条川疏水についてアピールした。

質疑に続いて、池上主任による交流館内の資料やちょうど田植えが終わったまかりの試験地の田圃の見学を行った。大学院生の皆さんは、山田錦をテーマに勉強を重ねており、次回は姫路市内の酒蔵見学を計画しているということだった。

3. 本会議(一般質問日)、セパ交流戦で母校の後輩を応援

2019年06月20日

19日(水)、9時30分過ぎに登庁。10時本会議が開かれた。今日は一般質問の初日。昼の時間に関西広域連合議会事務局からの説明会が行われ、今後のスケジュールや役職、質問などについて確認を行った。年間4回の本会議や委員会、調査など10数回出席することになった。

夜は、甲子園球場で、セパ交流戦の阪神・楽天戦を観戦した。社高校出身の阪神近本、楽天辰巳のドラフト1位の両選手を応援しようと、社高校尚友同窓会、野球部OB会が主催して観戦バスツアーを企画したもので、応援幕を掲げて2人の選手を応援した。近本は打点1、辰巳は勝ち越しのヒットと、活躍してくれた。20日も応援バスが出る。



4. 関西広域連合議会に出席

2019年06月23日

22日(土)、今日は関西広域連合議会の全員協議会が大阪で開かれ出席した。6月議会で関西広域連合議会議員に選出され、今日が最初の会議だった。



大阪市内の本部の会議室に広域連合を構成する府県政令市から選出された39人（今日は欠席もあったが）が出席し、議会役員の選出や7月臨時会の議事などを協議した。その後、懇親会が行われ、議員、

本部事務局幹部と挨拶を交わすなど交流した。

広域連合議会は、年4回の本会議、全員協議会、全員の総務常任委員会と産業環境と防災医療の2つの常任委員会がある。次回の7月臨時会は7月7日に兵庫県議会で開かれることになっている。

5. 加瀬英明氏の講演—日本会議兵庫北播磨支部総会

2019年06月24日



23日（日）、今日は日本会議兵庫北播磨支部の令和元年度の総会と記念講演会が加東市社福祉センターで行われた。

北播磨支部は平成24年12月8日（大東亜戦争開戦記念日）に日本のへそ西脇市で産声をあげ、翌25年4月28日（主権回復の日）に第1回総会を行った。それから回を重ねて7回目、令和元年の総会を開催することになった。

総会では、支部長（藤本百男）の挨拶に続き、来賓を代表して、

安田正義加東市長、内藤兵衛県議から祝辞をいただいた。総会には、来賓として、大豊康臣、村岡真夕子県議会議員、小紫泰良加東市議会議長をはじめ、西脇市、加東市、加西市、小野市の市議会議員、かだ裕之参議院兵庫選挙区第3支部長夫人に出席いただいた。

総会議事後、午後2時から記念講演会が開催された。講師は外交評論家、日本会議代表委員・東京都本部会長の加瀬英明氏。「憲法改正で日本はよくなる」の演題の下、90分間お話しいただいた。加瀬氏は昭和11年生まれの82歳だが、その豊富な経験と人脈をもとに幅広く執筆、講演活動を行っておられ、今回は念願が叶い、東京から遙々北播磨の地にお越しいただくことができた。

加瀬先生は、冒頭、「令和は危機の時代」と、今回の御代替わりで改めて浮かび上がった、象徴天皇制、女性天皇・女系天皇、男系の維持、大嘗祭の意義などをめぐる課題を指摘しながら、天皇の神聖性を守ることの重要性を話された。また、今回の米国のトランプ大統領の来日で安倍首相と大統領が5月27日に自衛艦「かが」にそろって乗艦し、そのあと、大統領が米艦「ワズプ」に乗り移ったことにふれ、5月27日は日本海海戦勝利を祝う「海軍記念日」だったことや、帝国海軍の空母「加賀」は真珠湾攻撃に出撃したこと、ワズプはガダルカナル攻防戦で日本のイ19号潜水艦が沈没させた米艦艇の名であったエピソードも紹介された。今後の日米同盟について、大統領選挙の候補者の考え方に注意を払う必要性にもふれられた。また、日本国憲法について、まず、前文の日本語の文法の誤りを指摘しながら、原文が英語で書かれている現憲法の成立過程、GHQの占領目的、ポツダ

ム宣言などにふれながら、サンフランシスコ講和条約成立直後に憲法改正を行っておくべきだったと、それをやらなかった吉田茂首相の間違いを批判し、そのご70年余りも賞味期限切れの憲法の下で過ごしてきたことによる問題、特に自衛隊の現状についてさまざまな指摘をされた。前文以外にも24条、20条にふれ、個人主義の行き過ぎ、信教の自由のはきちがえ等による日本人が大切に伝えてきた美德や家族の絆、神道行事などが破壊されてきたことも指摘された。締めくくりに、日本の心を守り伝えていくために、まずは自衛隊の9条明記を一步として憲法改正を実現していくことの大切さを述べられた。

質疑応答では、伊能忠敬、二宮尊徳、渋沢栄一などの先人を挙げ、寺子屋で学んだ人たちが偉大な業績をあげていることを指摘し、現在の「お受験」によるエリートコースを歩もうとする、「合わせる人生」では事を為すことはできない、との思いを述べられた。

講演後、感激して控室を訪ねて来られたご婦人に、「今日は皆さんとの出会いを楽しみに来たのです」と笑顔で答えられた先生のご姿勢に深い感銘と勇気をいただいた。

6. 自衛隊員募集相談員会 万葉集をテーマにやしる歴史民研が研修会

2019年06月30日

29日(土)、陸上自衛隊青野原駐屯地で、自衛隊員募集相談員東播連合会の総会が行われ、北播磨選出の県議らと出席した。陸上自衛隊はマンパワーが要。しかし、隊員募集はきびしい状況にある。国民の生命と安全を守るために日夜きびしい訓練や災害救援で出動している自衛隊員への国民の信頼と期待は高い。しか



し、隊員が定員に達しないような現状では、いざという時に実力を発揮できないということも考えられる。国会でも隊員募集への協力体制が問題になったが、行政、相談員会などが協力していくことが必要だ。兵庫県議会では自民党議員が防衛議員連盟を結成し自衛隊への支援を続けてきている。新議会では藤原昭一議員（小野市）が会長に就任し、挨拶の中

でも自衛隊への応援をしっかりとやっていくとの決意を述べた。

午後、やしろ歴史民俗研究会の研修会が行われた。今日は林茂代先生による万葉集の講演を聴いた。令和の出典である万葉集への関心が高まっているなか、万葉集の特色や時代毎の代表的な歌人、歌を丁寧に解説してくださった。久しぶりに古典の勉強をし、その豊かな情（こころ）と表現に引き込まれてしまった。



7. 社高校生活科学科生徒と東条川疏水を巡る

2019年07月06日

5日（金）、参院選の2日目。12時、県立社高校へ。生活科学科の2、3年の生徒15名と東条川疏水や関連の施設を巡る企画に参加した。県加古川流域土地改良事務所、北播磨県民局と社高校がバスツアーと食による地域活性化に取り組むために企画し



たもので、東条湖、鴨川ダム、安政池、曾根サイフォン、六ヶ井円筒分水施設をはじめ、誉田の彩（小野市）、県酒米研究交流館などを巡り研修を行った。期末テストを終えた午後の時間、生徒らは東条湖の湖面を船で遊覧体験をしながら、地域の貴重な資源である東条川疏水の源、東条湖の絶景を楽しんだ。

（写真は鴨川ダム堤体内部の監査廊）

8. 関西広域連合議会で一般質問に登壇

2019年07月08日



7日（日）、今日は関西広域連合議会の臨時会が兵庫県議会で開かれた。6月定例県議会で関西広域連合議会議員に選出され、6月22日に大阪の本部で全員協議会、そして今日の臨時会だった。

12時30分、3号館の7階大会議室で全員協議会が開かれ、午前中に行われた広域連合委員会の報告や

本会議の議事等を協議した。

午後1時、本会議場で臨時議会が開かれた。諸般の報告に続いて、議長、副議長選挙が行われ、議長に菅谷寛志議員（京都府）が、副議長に大橋一功議員（大阪府）が選出された。その後、井

戸敏三連合長が9年目を迎えた広域連合の取り組みなど提案説明、続いて、一般質問が行われた。

今日は13名の議員が質問に立ち、私は5番目に登壇した。質問は2問。海洋プラスチックごみ問題への広域的な取組、大阪関西万博に向けた観光戦略について質した。それぞれ、三日月委員（滋賀県知事）、西脇委員（京都府知事）の答弁があった。休憩2回をはさみ、質疑が終わったのは午後6時30分頃だった。



質疑を通して、防災、観光、環境など関西広域連合が果たす役割、広域連合として地方分権を今後どう進めるかなどについて、現状や課題の認識を深めることができた。

9. 嬉野台生涯教育センター40周年

2019年07月10日



9日（火）、今日は加東市下久米にある県立嬉野台生涯教育センターの創立40周年記念式典が行われた。同センターの講堂には県、いきがい創造協会、生涯大学学生、友の会会員、県議会議員、地元市町長、兵庫教育大学や教育

機関などから多くの関係者が出席して40周年を祝った。

有本所長は挨拶の中で歴史をふり返りながら、新時代の生涯教育センターの役割などについて語った。藤井ひさゆき衆議院議員に続いて、私が出席の北播磨選出県会議員を代表してお祝いを申し上げた。

10. 西国三十三所観音霊場日本遺産認定で井戸知事に報告—播州清水寺

2019年07月11日



10日(水)、昼前に登庁。午後1時前、加東市平木の播州清水寺の清水谷善英住職と同寺慈門院の清水谷善誠住職が来庁。1時から井戸知事を表敬訪問し、西国

三十三所観音霊場日本遺産認定の報告を行った。

今回は県内4ヶ寺を代表しての表敬訪問で、お二人に同行し、井戸知事と清水寺や観光などについて懇談した。井戸知事は由緒や寺宝などについて熱心に耳を傾け、ぜひ一度歩いて登ってみたいと語るとともに、近くの国宝を合わせて巡る観光コースを考えることが大切と指摘した。兵庫県内には8件の日本遺産があり、これは全国で一番多い。井戸知事は県内の日本遺産認定書を全部そろえて県庁玄関に掲げたいとも語った。

11. 淡路島で日本会議兵庫20回総会―山田蓉氏が記念講演

2019年07月16日



15日(月)、日本会議兵庫の第20回記念総会・講演会が南あわじ市で行われ出席した。

県本部の総会は各支部の持ち回りで開催されるようになり、これまで西脇市(北播磨)、姫路市(中・西播磨)

で開催されてきたが、20回の記念総会は国生みの島、淡路島の南端、南あわじ市(淡路支部)で開催されることになり、北播磨からバスを出して北播磨の会員と神戸湊川神社で乗り込んだ会員合わせて44名で淡路島へと向かった。

総会の前に、伊弉諾神宮(淡路市)に正式参拝。続いて、若人の広場(南あわじ市)で献花を行った。午後2時、総会は大鳴門橋が望めるホテルニューアワジ・プラザアワジシマで行われた。三木英一会長の挨拶に続き、来賓の県議会、市議会議員らを代表して、山本敏信県議、永田秀一県議が挨拶に立った。総会では、憲法改正の実現、男系継承の皇統を守る活動の展開を内容とした活動方針や宣言が決議された。

続いて行われた記念講演では、元宮内庁掌典職掌典次長の山田蓉(たかし)氏が「御代替わりと宮中祭祀」の題で、皇位継承の諸儀・祭典、特に神器継承、大嘗祭について詳しく話された。また、大嘗祭と地元淡路との関わりにも触れられ、普段知ることの

ない皇室に伝わる儀式や祭祀について認識を新たにすることになった。山田先生への謝辞を申し上げた。

総会・講演会後の懇親会では、守本南あわじ市長さんはじめ会員の皆さんと交流を深めることができた。

12. 産業労働常任委員会 エメックス国際セミナー

2019年07月18日



17日(水)、9時30分過ぎに登庁。10時30分から産業労働常任委員会が開かれた。今日は閉会中の調査事件として、「産業・労働・観光・国際施策の総合的な推進について」調査した。具体的

には、「ひょうご経済・雇用活性化プラン」の推進について、当局から説明を受け質疑が行われた。観光分野について、大阪や京都に比べて訪日客が少ない兵庫の観光への提言を含めた質問が多く出された。私からは、西国三十三所観音霊場の日本遺産認定を受け、丹波から播磨へかけての新たな観光ルートづくりなど、文化財、巡礼などの体験をもとにした観光振興を進めるべきと要望した。12時30分閉会。

午後1時30分から神戸市内のホテルで行われたエメックス国際セミナーに出席した。井戸知事の挨拶のあと、閉鎖性海域の水質、ゴミ、海域管理などをテーマとした日本、アメリカ、イギリスなどの学者の講演を聴いた。

13. 警察常任委員会が管内調査で加東警察署に

2019年07月31日



30日（火）、午後1時前、加東市社の加東警察署へ。警察常任委員会が管内調査で東播・淡路地区の各警察署・施設を訪れ調査を行い、その第1日目に加東警察署を訪れ、加東署と小野

署の調査が行われた。

私は地元議員として出席し挨拶を申し上げた。去年は警察常任委員として加東署で調査を行う筈だったが、台風接近のために中止となった。今年は猛暑の中となったが、ようこそ加東署へという思いだった。廣地加東警察署長から署状概況に続いて、2署の重点取組が報告されたあと、質疑が行われた。高齢者の免許返納や自転車施錠運動など地道な取組が成果を挙げつつあることなどが指摘された。

調査を終え、外に出ると猛烈な暑さが体にまとわりついた。熱中症対策が必要だ。

14. 国際ソロプチミスト北播磨30周年を祝い、さかなクンが講演

2019年08月04日

3日（土）午後、やしる国際学習塾へ。今日は国際ソロプチミスト北播磨の認証30周年の記念事業として「親子で学び楽しむサマーフェスティバル・さかなクンのぎよぎよっとびっくりおさかな教室 in 加東」が開催された。L.O.Cホールは関係者と抽



選で選ばれた親子らで満席になった。

まず、記念セレモニーが行われ、フラダンス、加東市出身の音楽家、大槻法子さんの歌のアトラクション、中村かよ子会長が挨拶し、播磨中央公園、生涯教育センター、社高校などへの標柱の寄付をはじめ、30年間の奉仕活動についてふり返った。

お待ちかねのさかなクンの講演は、さかなクイズ、質問コーナーの2部構成で会場の子供達も大盛り上がりだった。さかなクンが書くさかなの絵と解説に引き込まれてしまった。さかなクンは今問題となっているプラゴミなどにも触れ、今、すぐできること、レジ袋をマイバッグに、あるいはストローなども子供から答えを引き出していた。子供の質問も鋭く、「海のさかなはなぜ塩辛くないのか」にも絵を書きながら丁寧におもしろく説明していた。夏休みの子供達に素晴らしいプレゼントになった。

15. 農業農村を守る活動発表会

2019年08月05日



4日（日）、今日も猛暑の一日だった。

午後1時、小野市うるおい交流館エクラホールで開かれた県東播磨・北播磨県民局、東条川疏水ネットワーク博物

館会議主催の「多面的機能支払交付金地域活動発表会」に出席した。農業人口の減少するなか、田圃や池、水路などの農業施設を地域全体の宝として守っていこうという趣旨のもと、各地域で計画を立て取組が進められている。優良地区の表彰や事例発表、農水省担当者の特別講演などが行われた。

オープニングには、加東市西戸地区の皆さんが地域の伝統文化、秋津百石踊りを披露した。雨乞い踊りとして伝えられてきたもので、毎年秋津住吉神社に奉納されている。続いて、神戸芸術工科大学の谷口文保准教授による講演が行われ、東条川疏水ネットワーク博物館の取り組みなどを通して、農業と農村文化、芸術との関わり、可能性について話された。農業とアートは新鮮な視点だった。

16. 産業労働常任委の東播淡路地区管内調査 小野市で委員会の地域開催

2019年08月08日



6日(火)、7日(水)の2日間、県議会産業労働常任委員会の管内調査が東播淡路地区で行われた。また、7日には、常任委員会の地域開催が、初めて北播磨で行われた。

管内調査は、県議会の閉会中に県内各地を訪れ、各委員会が県民局や現場で所管する事柄について調査し県政の参考とするもので、年に4回行われる。産業労働委員会は第1回目に東播淡路

地区の調査を行った。主な調査地と内容は次の通り。

6日(火)：(株)神戸工業試験場(工業材料の受託試験)、東播磨県民局、(株)燻寿堂(線香・室内香の製造販売)、淡路県民局

7日(水)：(株)カコテクノス小野工場(鉄道車両用・変電所設備制御機器の開発・製造)、北播磨県民局、常任委員会(小野市エクラ)

訪れた企業は、ひょうごオンリーワン企業などを受賞する優良企業で、国内シェアも大きく、ものづくり兵庫を代表する企業だった。感銘を受けたのは、神戸工業試験場の試験片供養塔だった。試験に使用されるだけの役割の金属片を供養するその精神が企業の柱になっていることを実感した。また、カコテクノスでは、神戸電鉄の車輛を展示し、普段は見えないところに使用されているさまざまな制御装置を間近にみることができるよう工夫されていた。止めることを通じて鉄道、電力インフラの安全安心を支えているとの企業の誇りが伝わってきた。

県民局での事務調査では、高校生の地元企業への就職などの状況、対策などについて質問した。



小野市交流会館エクラで開催された産業労働常任委員会
は、議会改革の一環として3
年前から行っている地域開催
で、県議会の地方出張開催と
もいうべきもの。北播磨地域

では初めての開催となった。閉会中の継続調査事件として「中小企業の経営支援と商店街の活性化」を議題にし、当局の説明と質疑が行われた。傍聴席には地元の議員さんや商工会、商店連合会

などの関係者の顔も見られた。私からは、商店街ファンづくり応援事業について質問した。社商店連合会では、商店街の賑わいづくりとして「社おにわ亭」を開催しており、こうした取り組みを継続しながら、新たな展開、商店街の姿を模索していくことが必要だと指摘した。

17. 関西広域連合議会の全員協議会に出席

2019年08月23日



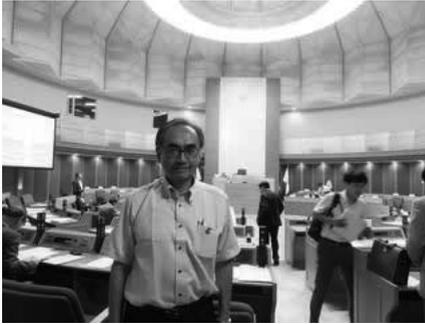
22日（木）、10時30分過ぎ、雨が降る中、中国道の高速バスで大阪へ。今日は関西広域連合議会の全員協議会が行われた。

協議会は、広域連合の本部がある大阪府立国際会議

場の11階会議室で行われ、第4期広域計画の策定に向けた意見交換、8月の末に開かれる定例会に提出される予定の議案説明などが行われた。9年目を迎える広域連合の現状や課題を踏まえ、今後の人口減少時代の中での広域連合のあり方などについて、策定委員との意見交換が行われた。ドクターヘリ、防災など広域連合が見える形で果たしてきた役割、広域観光、農業、交通インフラ整備、人口流出の歯止めなど、「関西」の課題について各分野からの提言が行われた。会議が終わり、高速バスで加東に帰り着いたのは午後6時だった。

18. 堺市で関西広域連合議会定例会、管内調査

2019年08月31日



29日(木)、30日(金)の2日間にわたって、関西広域連合議会の8月定例会と管内調査が大阪府堺市で行われた。

29日、12時30分から堺市議会の委員会室で全員協議会が、1時から本会議場で本会議が開かれた。議案が上程され、井戸連合長が提案説明を行った。議案は30年度決算認定、令和元年度補正予算の2件。続いて一般質問が行われ、14名の議員が質問に立った。質問が終わったのは午後6時を回っていた。補正予算案は可決。決算は総務常任委員会に付託された。夜は、連合委員と議員の懇親会に出席し、交流を深めることができた。

30日は、堺市内で管内調査を行った。ダイキン工業株式会社の堺製作所臨海工場、J-GREEN堺(堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター)、さかい利晶の杜、堺市博物館・仁徳天皇陵古墳を調査した。博物館では、世界遺産に認定されたばかりの百舌鳥・古市古墳群の特別展を見学し、その価値について認識をあらたにした。

19. 井戸知事に令和2年度の重要政策提言

2019年09月04日

3日(火)、朝から県庁に向かった。今日は井戸知事に対して、来年度の県の重要政策提言を行う。9時過ぎに登庁。9時40



分から自民党県議団政調理事会で簡単な打ち合わせを行い、10時から約1時間にわたり、要望と意見交換を行った。

内藤幹事長の挨拶、春名政調会長の趣旨説明に続き、県議団の7部会でまとめた提言

47項目について、各部会長から説明を行った。私は総務部会長として地域創生戦略など6項目について説明した。意見交換では、人口の自然増・社会増対策について本腰を入れた対策を打つ必要があることを申し上げた。

20. 総務常任委員会が北播磨県民局、酒米研究交流館を調査

2019年09月06日



5日（木）、午後1時過ぎ、加東市沢部にある県酒米試験地へ。総務常任委員会が東播淡路地区の管内調査で訪れるため、藤原昭一議員（小野市）とともに地元議員として出席した。説明を受けたのち、今年4月に竣工した研究交流館の各施設、稲穂が出ている圃場など

を見学した。

委員会は、その後、県社総合庁舎に移動し、北播磨県民局で事務調査を行った。ここでも地元議員として出席した。濱西局長、



川北県民交流室長、小野県税事務所長から説明を受けたのち、委員から質問が行われた。企業誘致、県税収入、男女共同参画、地域再生大作戦などについて、現状や課題の質問が熱心に行われた。

21. 北播磨の「農」の現場、普及員との意見交換

2019年09月11日



10日(火)、今日は北播磨地域普及事業推進懇談会が行われた。北播磨選出の5名の議員とセンターの普及員の懇談会で、午前中に現場視察、昼食を取りながら説明と懇談を行った。



訪れたのは、三木市の現場。平井山観光ぶどう園では昨年の台風被害からの復旧状況、富岡営農組合では、山田錦栽培田での田植機を活用した溝切りによる排水対策、「山田錦の館」では、企業組合「彩雲」の取り組みについて調査を行った。

センターに戻り、普及員と一緒に彩雲のお弁当をいただきながら、センターの取り組み、各分野の

現状などの説明と意見交換を行った。農と食の王国北播磨の農業を技術面から支える普及員の皆さんから、現場での声を聞くことができた。

22. 但馬・丹波地域へ産業労働常任委で調査

2019年09月14日



11日(水)から13日(金)の3日間、県議会産業労働常任委員会の管内調査で但馬、丹波地域を訪れた。今回は、行きは伊丹空港からコウノトリ但馬空港への空路が選ばれた。新しく投入された飛行機の乗り心地は静かで快適だった。

40分ほどの短い空の旅だったが、ちょうど加東市の上空を飛び、眼下に三草山と山麓の昭和池が見えたのは感動だった。



調査で訪れたは次の通り。

【11日(水)】①但馬空港で全但バス株式会社の取り組み、②香住港で「かすみ海上タクシー事業協同組合」の取り組み、③但馬県民局(豊岡市)で事務調査

【12日(木)】④谷常製菓(養父市)の伝統の和菓子製造と新ブランドの開発、⑤城崎温泉協会で観光振興の取り組み、⑥オフテクス(株)豊岡工場でコンタクトレンズのケア商品の開発

【13日(金)】⑦住友ゴム工業(株)市島工場(丹波市)で、ゴ



ルフボールの製造、開発研究施設、⑧丹波県民局で事務調査、⑨篠山城大書院(丹波篠山市)でインバウンド対策など

12, 13の両日は雨のあとで一気に涼しくなり、朝は肌寒さを感じるほどだった。人口減少、若者の域外流出の止まらない但馬、丹波地域で頑張っている優良企業の現場を訪れ、その努力を直に見ることができた。また、自然、文化、歴史の豊かな但馬・丹波の観光振興の取り組みについても現状と課題を知ることができた。空から、海から、但馬丹波の良さを満喫し、最後の篠山城大書院では酒井市長自ら、来年のNHK大河ドラマ(明智光秀)の宣伝もあり期待が高まった。今後の県政に活かしていきたい。

13日の夜は、加東市社の明治館で行われた社地区・連合区の防災研修会に町内会長として出席した。元県職員で防災のエキスパートの長谷川和正氏による「被害の少ない地域における防災のあり方」について、地震への備え、ハザードマップの見方、生き残るための家族の話し合いなど豊富な体験に基づいた話を聞くことができた。

23. 関西広域連合議会(京都)に出席

2019年09月15日

14日(土)、快晴の下、加東市立の3中学校で体育大会(祭)が行われた。9時、滝野中学校の開会式に出席した。元気一杯の入場行進に体育大会に臨む生徒の漲るやる気を見た。そのあと、社中学校、東条中学校を回り、演技を参観し応援した。

11時前には、高速道路で京都市に向かう。今日は午後から京都府議会で関西広域連合議会の産業環境常任委員会が開かれる。中国道、新名神は快適だったが、名神高槻ICから京都南までは渋滞でノロノロ運転。しかし、11時前には京都府議会に到着した。



産業環境常任委員会の委員長は石川憲幸議員が、委員には、しの木和良議員と私の二人が兵庫県議会から出ている。西脇京都府知事、三日月滋賀県知事ら担当委員が出席した。今日の調査事件は、広域

観光・スポーツ振興、広域環境保全計画、カワウ広域管理計画についてであった。府県を越えて移動し、ねぐらをつくるカワウ対策については、地元の内水面業者関係者からも要望を受けている。コロニーに張るビニルテープも効果はあるが、風などで飛んでしまうという話も聞いている。カワウの数は減っていない。

委員会のあと、京都府議会本会議場を見学した。また、旧本館も見学できた。旧本館は現在も使用されており、教育委員会の文化財室もあった。まさに文化財の中での仕事ができるとは。

24. 北播政経懇話会で金澤副知事が講演

2019年09月21日

20日（金）、昨日に続いて、今日も友好団体との意見交換会が行われた。

夜は県立フラワーセンター（加西市）で行われた北播政経懇話会例会に出席した。ゲスト講師は金澤和夫副知事。兵庫県の地



域創生戦略について北播磨の取り組みを含めて講演を行った。懇談会では、出席者と県政課題について懇談することができた。金澤副知事の講演で紹介された播磨中央公園にサイクルステーションの計画（9月議会補正予算案予定）、東条川疏水、酒米研究交流センター、県立大学など県の取り組みが話題になった。

25. 山田錦乾杯まつり賑わう

2019年09月24日



23日（月）秋分の日。夜半の強風も朝には弱まっていた。暴風警報は発令中だったが、玄関に国旗を掲げることのできるほど治まっていた。朝のうちに彼岸の墓参りを済ませた。だが、予定されていた山田錦探訪ウォークは中止との連絡が入った。残念だが仕方がない。

11時頃、山田錦乾杯まつり会場の社中央公園ステラパークへ。会場はすでに多くの人出で賑わっていた。全国から加東市産山田錦を使って日本酒を造っている19の蔵元が参加し、各ブースでは大吟醸や純米酒などのおいしい酒を楽しむことができる。また、地元山国地区の肉めしをはじめグルメも人気で、友人グループや

家族連れなど各テーブルで「乾杯！」の声が上がっていた。

12時30分には鏡割りが行われ、ゲストの吉田類氏も参加。さらに盛り上がった。7回目を迎える乾杯まつり。回を重ねる毎に人気が高まり、酒米の王様山田錦の主産地に不可欠のイベントになってきたことを実感した。

会場では、地元加東市唯一の酒蔵の神結酒造から順にブースを回って日本酒を楽しんだ。赤穂市から奥藤商事さんも初参加。「忠臣蔵」繋がり縁の深い赤穂と加東に新たな日本酒の縁ができた。毎年顔なじみの蔵元を回りながら笑顔で挨拶と一杯ができる、そこが乾杯まつりの魅力でもある。

26. 社小学校で総合学習のゲストティーチャー

2019年10月11日



10日（木）、10時過ぎには加東市立社小学校へ。今日は3時間目に、6年生の総合学習のゲストティーチャーを務める。10時40分から45分間、「身近な戦争時代の記憶」

をテーマに子供達に写真や資料を使って話した。平成19年生まれの子供達にとって、戦争や平和といったことを考えるのは簡単ではない。地域や学校に残る戦争時代のもの、資料を使って考えるきっかけづくりを心がけた。

27. 地域安全兵庫県民大会、学ぶ高齢者の東・北播磨大会

2019年10月12日



11日（金）、9時30分には加東市下滝野の滝野文化会館へ。第34回東・北播磨学ぶ高齢者大会が行われ、出席した。各市町の高齢者大学や県地方高齢者大学で学ぶ高齢者の作品展や高齢者の主張、童謡唱歌の発表などが行われた。高齢者の主張では、加東市の草壁さんと神戸さんの2人も生きがいづくりについて自分の体験談を披露した。

12時過ぎには県庁へ。さっそく自民党県連と打合せ、人事委員会や教育委員会の説明を受けたり、県庁加東クラブの打合せなども行った。

午後1時30分、県公館で行われた地域安全兵庫県民大会に出席した。県下各地から防犯協会ら関係者が出席し、防犯功労者・協会が表彰された。本年度、加東市の長濱秀仁さんと藤原清二さんが防犯栄誉銀賞を受賞された。

28. 自民党兵庫県連政経パーティー

2019年10月21日

20日（日）、今日は午前は加東市内で諸行事に、午後は神戸市内のホテルで開催された自民党兵庫県連政経文化パーティーに出席した。

9時、加東市河高の滝野総合運動公園スカイピア体育館で行わ



れた加東市家庭バレーボール連盟の選手権大会開会式に出席。

10時には加東市新町の敬老のつどい、10時30分、北野地区の敬老会に出席し、お祝いを申し上げた。75歳

以上の皆さんの元気な笑顔が満ちていた。



11時、河高の交流会館へ。コスモスまつりが行われ、地区の皆さんがラーメンやおにぎり、ゆで卵などの店でおもてなし。テントには訪れた家族連れや人々が歌などで楽しんだ。社町駅付近のコスモス畑は例年

より面積が小さいが秋の日射しに赤や白のコスモスの大輪が輝いていた。



午後は、加東市支部の皆さんと神戸市へ。ポートピアホテルで開催された兵庫県連政経文化パーティーに出席した。私は県連政調会長として司会を務めた。会場は千数百名の出席者で立錫の余地も内ほど盛況だった。党本部からは二階俊博幹事長が出席し、国土強靱化の推進を強調。また西村康稔経済再生担当大臣は教育無償化などを挨拶の中で強調した。井戸知事、久元神戸市長ら

来賓の挨拶、県選出衆参国会議員、県会議員、神戸市会議員はじめ自民党地方議員も出席した。加東市からは安田市長、小紫市議会議長、高瀬市議会議員も出席し、井戸知事、西村大臣らと交歓した。

29. 345回定例会が閉会 自民党県議団に日本遺産の会誕生

2019年10月26日

25日（金）、10時頃登庁し、10時30分から自民党県議団総会、11時に本会議が開かれた。

まず、新任者（長尾真氏・人事委員会委員）の紹介など諸報告があり、次に、平成30年度決算議案23件が一括上程され、山口晋平決算特別委員長から委員会の審査結果報告が行われた。討論ののち、表決が行われ、賛成多数で可決した。続いて、請願が一括上程され、委員会審査結果が報告され、討論、表決が行われ、私学助成の拡充を求める意見書など2件が可決された。続いて、会派発議の意見書案が一括上程され、防災・減災・国土強靱化緊急対策事業等の事業期間延長を求める意見書はじめ8件が可決された。こうして、9月24日の開会以来32日間にわたった第345回定例県議会は閉会した。

本会議終了後、自民党県議団日本遺産の会の設立総会が開かれ出席した。日本遺産の活用を通して地域活性化を行うことになっている。続いて兵庫県議会スポーツ振興議連の管外調査の説明会が行われた。

6時前には西の空に夕焼けが見えた。事務所前に貼り出したワールドマスタースゲームズのポスターを隣の学習塾に来ていた子

供達が珍しそうに見ていた。関東では台風21号の影響で災害級の大雨が降っている。

30. ふれあいの祭典・北播磨の農と食 加東市秋のフェスティバル

2019年10月27日



26日(土)、まだ朝のうちは空に雲が低く垂れていた。今日は、「ふれあいの祭典・北播磨の農と食のフェスティバル」が三木の防災公園で、加東市秋のフェスティバルがやしろステラパークで開催される。

9時30分、三木防災公園へ。広大な広場に県下各地、北播磨各地からの特産物や食のブースが並び、特設ステージでは10時から神戸芸工大生による播州織ファッションショーのオープニングに続いて、開会式が行われた。加治佐実行委員長(兵庫教育大学長)、井戸知事、長岡県議会議長が挨拶。北播磨のエリアでは、特産の酒米山田錦・日本酒館を中心に社高校は



じめ北播磨の県立高校のブースが並んで行列ができていた。新聞にも紹介されたピザは1時間待ちという人気ぶりだった。東条川疏水ネットワーク博物館のブースでは隣のマルヤナギ小倉屋さんと一緒に記念撮影。加東市産のもちむぎを使用した社高

校性と一緒に開発した新商品も人気だった。加東市を拠点に活動するパワーリフティングではベンチプレスも体験した。

昼過ぎには、加東市社のステラパークへ。菊花展と各団体、グループなどのブースが並び、加東市の特産やおいしいものを満喫できるようになっていた。今年は、これまでとは会場内の配置が変わっていた。まず、菊花展を鑑賞。そして、おいしいものを求めてブースを回った。また、加東市商工会女性部の十二単体験や消防団の放水体験、エコ隊など恒例のブースも人気だった。お好み焼き、焼そば、たこ焼き、黒田庄コロッケ、クッキー、桃ジャム、播州ラーメン・・・を巡る。そして、隣接の市役所南駐車場では兵庫県釣針協同組合の釣り体験コーナーやLPガス協会のブースに。見守りでいつも出会う小学生が両親と一緒に釣りを楽しんでいた。

31. 全国戦没学徒追悼祭―「若人の広場」(南あわじ市)で

2019年10月31日



30日(水)、8時30分、淡路島に向けて出発。今日は、「若人の広場」(南あわじ市)で全国戦没学徒追悼祭が行われる。加東市から3名の方と一緒に出席した。

追悼祭は、毎年この「若人の広場」で全国の青年神職の方々によって10月21日(学徒出陣の日)に斎行されているが、今年は天皇陛下即位礼正殿の儀の関係で30日に行われたもの。大東亜戦争で学業半ばにして出



陣、勤労奉仕に出られ亡くなられた約20万人の学徒を慰霊する施設として建設された全国唯一の施設である「若人の広場」。阪神淡路大震災で施設が被害を受けて閉鎖されていたが、南あわじ市、兵庫県によって再整備された。

眼下に福良湾から鳴門大橋を見渡す大見山の空は広く晴れ渡り、第25回目の追悼祭が厳粛に斎行された。追悼する会の永田秀一会長（兵庫県議会議員）の挨拶、兵庫県知事（代理）の追悼文奉読などに続き、海上自衛隊の喇叭隊の吹奏や靖国神社仕女による神楽奉納、玉串奉奠などが行われた。仏教界、キリスト教関係者の読経、歌の奉唱も行われた。

若人の広場の整備に関しては特別の思いをもって県議会でも取り上げてきた。来年は戦後75年の節目の年を迎える。各地にある戦没者の慰霊施設の維持、保存に課題について真剣に取り組んでいかなければならない。

夜、加東市内で看護連盟の北播磨支部の皆さんと北播磨の看護についての意見交換会に出席した。各病院、高齢者施設などの看護、介護の現状や課題について話を聞き、意見を交換した。

32. 産業労働常任委員会管内調査

－阪神地区のものづくりや伝統産業

2019年11月02日

10月31日（木）から11月1日（金）の2日間、県議会産

業労働常任委員会の管内調査で阪神地区の県民局・県民センターでの事務調査、企業などものづくりの現場を訪れ、調査を行った。主な調査先は次の通り。

【31日】①神戸県民センター（新長田合同庁舎）神戸市長田区、②ひょうご産業活性化センター（ひょうご・神戸投資サポートセンター・ひょうご海外ビジネスセンター）神戸市中央区、③白鶴酒造（白鶴酒造資料館）神戸市東灘区、④阪神南県民センター（会場は尼崎商工会議所）尼崎市

【1日】⑤丸一興業（強化段ボール等製造）尼崎市杭瀬、⑥松谷化学工業（でん粉加工、食物繊維等製造）伊丹市北伊丹、⑦阪神北県民局（宝塚市）



新長田の神戸市と兵庫県の合同庁舎を訪れたのは初めてだった。貿易センタービルでも県、神戸市、国の機関が一つのフロアで仕事をしており連携しやすい環境が整っているようだった。灘五郷の白鶴酒造資料館では、伝統の酒造りの歴史、技を伝える努力と工夫に、また、ものづくりの現場、丸一興業では強化段ボールの開発とそれを使った新製品の数々に、松谷化学工業では食品開発を支える水溶性の食物繊維の研究努力の姿とともに企業精神、社風に感銘を受けた。阪神南県民センターでは商店街ファンづくり事業について、また北県民局ではスポーツサイクルによる観光振興の取り組みについて質問した。北播磨においても播磨中央公園にサイクルセン

ターの整備が行われることになっており、今後の参考にしたい。

33. 東条川疏水ボート探検や文化連盟祭など

2019年11月04日

3日(日)、今日は「文化の日」だ。もとは、「明治節」(明治天皇誕生日)。玄関に国旗を掲げる。



今日は滝野総合グラウンドで加東市ふれあい球技大会(ゲートボール・卓球・ペタンク)が、また、加東市文化連盟祭(滝野文化会館・滝野図書館・滝野公民館)や「東条川疏水ボートで探検」(兵庫県東播土地改良区・東条川疏水ネットワーク博物館)をはじめ、各地で敬老会、小学校でオープンスクールなどが行われ、朝から加東市を走り、出席したり、見学、鑑賞したりした。芸能発表会では、踊りやコーラス、大正琴、ブラスバンドなど、日頃の練習の成果の発表・交流が行われた。

※疏水ボート探検の歴史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

東条川疏水をボートで探検—小学生が体験で学ぶ疏水

3日(日)、加東市松沢の安政池の畔を流れる東条川疏水の幹線水路約800メートルの区間をゴムボートで下る「水路d e ボート体験」が行われ、加東市や小野市などの小学生約100





人が参加しました。

この取り組みは、水路を管理する兵庫県東播土地改良区が主催し、東条川疏水ネットワーク博物館会議や近畿農政局・水土里ネットワーク兵庫なせどが協力して行われたものです。

東条川疏水の役割や歴史を疏水をボートで下るといふ体験を通して学んでもらおうという趣旨で行われているもので、毎年人気が高まり、今年も募集をオーバーする申し込みがあったということです。

スタート地点で、疏水博士（兵庫教育大生のボランティア）から紙芝居形式で東条川疏水の写真などを見ながら勉強をしたあと、数人ずつボートに乗り込んでスタート。流れに任せながら水路を下り、ポイントで待ち構えるボランティアから出される疏水クイズに答えていきます。付き添いの保護者等は水路に沿って歩きながら子供達を励ます姿が見られました。ゆったりと、時には大きくカーブしながら水路は流れ、やがて、小野市方面と嬉野方面への分岐点、隧道の手前に設けられたゴール地点に到着。そのあと、安政池の堤体（高さ約30メートル）の上で、クイズの解答や写真展示などを見ながら体験をふり返りました。

11月23日は東条川疏水の日定められ、今年も行事が行われますが、これに先だって行われた疏水体験事業でした。大人でも体験したくなる疏水下り。みんなでこの地域の命の水の道の物語を未来にしっかり伝えていきたいと思う一日でした。

34. 井戸知事に来年度予算編成に対する申し入れ

2019年11月07日



6日(水)、9時過ぎには登庁し、10時からの令和2年度当初予算編成に対する知事申し入れに備えた。10時から申し入れが始まり、内藤幹事長から井戸知事に約270項目にわたる申し入れを手渡した。

春名政調会長が全体的な趣旨を述べ、続いて各部長がそれぞれの部会関係の申し入れを行った。私は総務部長として、7分野33項目の申し入れを行った。意見交換では、台風19号等による広域災害にふれ、ため池も含めて兵庫の台風災害の備えについて知事に要望した。知事も同じ認識だと答えた。

午後は12月議会の一般質問について準備を行った。11月は委員会調査や議連などの予定も多く、早めに準備を進めたい。

35. 井戸知事を迎え、北播磨地域づくり懇話会

2019年11月09日



8日(金)、10時、井戸知事を迎えて令和元年度の北播磨地域づくり懇話会が県社総合庁舎で行われた。北播磨県民局管内の5市1町の首長、議会議長、県議会議員が出席し、各市町の抱える課題や県との連携について

て意見を述べ、井戸知事が答える形式で行われた。西脇市から始まり、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町の順で、道路整備や防災、産業、観光振興などの取り組みと県への要望が出された。私からは、北播磨の観光振興について、サイクルロードの整備、日本遺産の活用などを提起した。井戸知事は「いぶし銀のような文化財、地域資源がある北播磨の魅力をどう発信していくかが課題」と答えた。約2時間の懇話会だったが、各市町の取り組みを通して北播磨全体の現状や課題を知り考えるよい機会だった。

36. 加東市金婚夫婦を祝う会—37組が出席

2019年11月10日



9日(土)、11時、加東市上三草のやしろ国際学習塾の3階大会議室で令和元年度加東市金婚夫婦を祝う会が行われ、昭和45年(1970)年に結婚された37組のご夫婦が出席された。その中には、

昨日のゴルフコンペに参加された方の顔や教え子のご両親、後援会でお世話になった方々などよく知った方々も少なくなかった。

昭和45年といえば、私が16歳、高校2年の年。安田市長が昭和45年の出来事をふり返りながら、父、藤本豊治が亡くなり町葬が行われたということにもふれて話をされた。そういえば、大阪万博や三島由起夫義挙など、いろんな出来事があった年だったことを思い出した。私は梅ジュースでの乾杯の音頭をとらせていただいた。式後、旧町毎に記念撮影を行った。

今日は、皇居前で御即位を祝う国民の祭典が行われ、明日は即位パレードが行われる。国民祭典のようすをテレビで視た。何度も繰り返される天皇陛下萬歳と日の丸の小旗の波がよかった。

37. 産業労働常任委員会管外調査、県庁加東クラブ

2019年11月16日

12日(火)夜、神戸市内で第4回県庁加東クラブの総会・懇親会が開催された。加東クラブは現在会員登録約100名。そのうち、今回は県庁職員はじめ加東市幹部職員、北播磨県民局幹部ら加東市に縁の深い59名が出席し、加東の元気をさらに高めていこうと、交流・懇親を深めた。

13日(水)から15日(金)までの3日間、県議会産業労働常任委員会の管外調査で、岐阜県・愛知県を訪れ、観光振興、地



場産業、新産業などの現場を調査した。主な訪問先は次の通り。

【13日】①高山市議会（海外戦略室の取り組み等）、(株)飛騨産業（地場産業の家具製造のブランド戦略等）

【14日】白川村役場（世界遺産を活かしたインバウンドの取り組み）、(株)タナック（新技術を活かした医療産業への挑戦）



【15日】豊田スタジアム（スタジアムの誘客の取り組み等）、三菱重工業(株)(MRJの開発、製造、航空機

産業の取り組み等)

今年度の委員会の特定テーマである観光振興について、高山では早い時期から戦略的に海外への誘客策をとっていること、北陸・飛騨・信州の広域観光の効果、また、白川郷での地域一体となった観光客の受け入れ体制づくり、豊田スタジアムのスポーツイベントを契機とした誘客の取り組みなどが今後の県政の参考となった。また、飛騨産業では、地場の杉、曲げの技術、若い職人が学ぶ「職人学舎」での人材育成に感銘を受けた。タナックでは、シリコンを材料とした医療用のシュミレーターの開発、研究、営業販売の取り組みに、そして、三菱重工業では、小型ジェット旅客機MRJの開発とその性能について、製造現場を見ながらさらに期待が膨らんだ。同社神戸造船所では機体等の製造を受け持っており、県が力を入れている航空機産業の発展にもつながり、参考になった。

38. 関西広域連合議会11月臨時会が大阪で

2019年11月22日



21日(木)、9時台の高速バスで大阪に向かった。今日は関西広域連合議会の11月臨時会が大阪市のリーガロイヤルNCBで開かれた。12時30分から全員協議会、午後1時から臨時会が開会した。

議案3件(関西広域連合会計年度任用職員の給与及び費用弁償等に関する条例他)が上程され、井戸敏三連合長が提案説明を

行った。その後、一般質問が始まり、午後6時30分頃まで約5時間にわたり14人の議員が質問を行った。質問は、広域防災、広域観光等、関東東北での広域災害やワールドマスタースゲームズ関西、大阪関西万博などに関わるものが多く、広域連合としての取り組みを質した。兵庫県からは和田議員と黒田議員が立ち、広域観光や環境、ものづくりなどについて質した。続いて、議案3件が可決、30年度決算認定の件を可決した。写真は、開会前の会場（2階松の間）。

大阪から帰りも高速バス。加東に戻ったのは午後9時を過ぎていた。

39. ため池対策で国へ要望活動－土地改良推進議連で

2019年11月23日



22日（金）、今日は、兵庫県議会自民党土地改良推進議員連盟（石川憲幸会長）の議員等と「ため池対策に関する支援の強化」を関係各省に要望活動を行った。

昼前に上京し、午後1時30分過ぎから、内閣府で西村康稔経済財政政策担当大臣を皮切りに財務省、農水省、総務省、県選出衆参議員に要望書を渡し、支援強化を要望した。東京は終日、冷たい雨が降り続き、傘をさしての府省間の移動だったが、総務省では、進藤金日子政務官に対しての要望で藤井ひさゆき衆議院議員が一緒に行っていただいた。要望活動を終え、加東に帰りついたのは夜中だった。

40. 天皇陛下御即位を祝う兵庫県民の集い 東条川疏水の日

2019年11月24日



23日(土)、勤労感謝の日、すなわち新嘗祭の日。今年は大嘗祭として行われた。玄関に国旗を掲げる。昨日とは違って変わり秋晴れとなった。

9時前に加東市岡本の東条とどろき荘へ。東条地域ミニ文化祭が開かれ、開会式でお祝いを申し上げた。芸能発表や作品展示、お茶席などが行われた。また、上田桑鳩書道展も同時開催され、



入賞、佳作作品が展示された。東条地域づくり協議会の主催で、文化団体や個人の日頃の活動の成果の発表と交流が目的で、今回で6回目を迎える。

午後1時から加東市上三草のやしる国際学習塾3階の大会議室で行われた東条川疏水ネットワーク博物館会議の総会・井戸端会議の開会式に出席しご挨拶を申し上げた。23日の今日は、東条川疏水の日でもあり、これまでの10年の取り組みをふり返り



ながら、これからの将来を見据えた活動を考えるのが今回の目的。疏水博物館の取り組みによって、疏水の歴史的文化的な価値が見出されてきた。次の世代にこの貴重な資源を継承し、さらに持続的な地域社会づくりの中での疏水の意義を考えたい。

午後2時30分過ぎには、県庁隣の兵庫県公館で行われた、天皇陛下御即位を祝う兵庫県民の集いに出席した。式典の部では、実行委員会の家次恒会長（県商工会議所連合会会頭）が式辞を、



続いて、名誉顧問の井戸知事や久元神戸市長、奉祝委員の谷公一衆議院議員が祝辞を述べた。宣言文が朗読され、加藤隆久顧問（生田神社名誉宮司）が萬歳を、日本会議兵庫会長の三木英一氏が閉会の辞を述べた。

午後4時45分から約1時間、式典参加者らで奉祝パレードを行った。賑わう通りでは一緒に萬歳をする人もあり奉祝ムードが盛り上がった。加東に戻ったのは午後7時前だった。

41. 県議会スポーツ振興議連の管外調査で オリンピック委員会などを訪問

2019年11月27日

25、26日の2日間にわたって、兵庫県議会スポーツ振興議員連盟で東京の日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会を訪問し、総合型スポーツクラブへの支援、アスリートの育成強化・セカンドキャリア等について調査を行った。また、橋本聖子五輪担当大臣を表敬訪問し、東京オリンピック・パラリンピック、ワ



ールドマスターズゲームズ等への取り組み、支援に関する申し入れを行った。

今回の管外調査には超党派の議連加盟議員のうち、19名が参加し、ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクウェアでの調査、武蔵野の森総合スポーツプラザの施設見学を行った。日本体育協会から日本スポーツ協会

となり、国民体育大会も国民スポーツ大会へと変わる。兵庫県が取り組んできたスポーツクラブ21の現状や課題と今後の支援や活性化、アスリートの育成強化や、セカンドキャリアの取り組みの中で、基盤となる人間力の育成に力を入れていることもよくわかった。

東京はフランシスコローマ教皇の来日や皇居の大嘗宮公開などで嚴重警備中が行われていた。1日目は20度を超え、2日目は10度を割る変化。26日(火)の午後3時には県庁に戻り、自民党議員団総会、警察部会、政調理事会と会議が続き、退庁したのは6時前だった。

夜、東京五輪の選手団の総監督に尾縣貢氏(日本オリンピック委員会常務理事・選手強化本部長)が就任したとのニュースが流れた。尾縣氏は加東市出身。ますます五輪が身近になった。

42. 皇室ゆかりの社寺巡り―自民党加東市支部の研修で

2019年11月30日

29日(金)、自民党加東市支部の移動研修で京都方面を訪れた。



朝は冷えたが、日中は快晴で、風もなく穏やかな好天に恵まれ、48名の参加者とともに皇室ゆかりの社寺を巡った。

まず、京都で最も古いとされる世界遺産の上賀茂神社に参拝。式年遷宮の工事が行われており、檜皮葺の美しい本殿の特別拝観も行うことができた。次に、2日前に天皇皇后両陛下が御即位の儀式を終え報告のため

に訪れられた御寺泉涌寺（みてらせんにゅうじ）を参拝した。仏殿などを拝観のあと、御座所を特別拝観し、玉座のある部屋や御座所庭園の見事な紅葉を満喫することができた。そのあと、境内の孝明天皇陵へも参拝した。

今年は御代替わりという国家的な節目の年だった。その年の締めくくりとして皇室にゆかりの深い社寺を巡ることができた充実の移動研修だった。

43. 本会議で一般質問に登壇

播磨看護専門学校や播磨中央公園、教育問題など

2019年12月10日

9日（月）、開会中の12月定例会の本会議で、一般質問に登壇した。右腕を三角巾で吊った姿での登壇となってしまった。

9日の質問者の最後。発言方式は、分割方式で、次の3項目6問について質した。

- 1 北播磨地域の看護師確保について（播磨看護専門学校の役割



についての県の認識と今後の支援について)

2 播磨中央公園の整備と地域活性化について

(1) サイクルステーションの整備と今後の活用について

(2) 播磨中央公園の今後の整備計画について

3 心豊かで自立する人づくりをめざす兵庫の教育について

(1) 教員の自覚、モラルの向上について

(2) 不登校対策について

(3) 「ふるさと兵庫 魅力発見！」の活用について



左手で原稿をめくりながら、メモは取れないという状況での質問には困ったが、終えることができた。

7日の土曜日の夜に行われた社3区の親善ボーリング大会で転倒し右手をついた時に手首の骨が折れた。救急車で大山病院に搬送され、当直の先生に手当をしていただいた。看護師さん、レントゲン技師さんらにお世話になりギブス

で固定していただいた。後日、手術をすることに。日曜日は一日自宅で静かに過ごし、9日の本会議に臨んだ。まさか、看護師確保に向けての質問をする直前に看護師さんにお世話になるとは思いもしなかった。感謝の思いをもって質問した。井戸知事からは、

播磨看護専門学校が北播磨地域の医療を支えてきた役割を評価している、これからも在宅医療体制の整備の中で看護師養成は重要課題であり播磨看護専門学校の果たす役割は大きいとの県の認識と、学校運営への支援、老朽化している校舎の建て替えなどの課題についても相談があれば乗っていくとの答弁があった。

右手が使えないので字は書けないし、パソコンも打てないが、左手で打ってみた。しばらくは元のようにはいかないだろう。

44. 関西広域連合議会産業環境常任委員会

2019年12月15日



14日（土）、朝のうちに加東市家原の観音寺の赤穂義士の墓碑にお参りをした。すでに境内では、奉賛会や家原地区の皆さんがくじ引きや甘酒で参拝者を接待しておられた。

そのあと、社発の高速バスで大阪へ。今日は関西広域連合議会の産業環境常任委員会が開かれた。調査事件として、広域産業振興と広域農林水産業振興について説明と質疑が行われた。関西経済の活性化や「おいしいKANSAI」などの取り組みが報告された。帰りも社着の高速バスに乗ることができた。社に住む私にとっては大阪と直結する便利な路線だ。今日も右腕を吊っての移動や会議だった。ちょうど一週間目だが、左手の動きも少し慣れてきた。

45. 産業労働常任委員会 社高校が地方創生大臣優秀賞受賞

2019年12月18日

新たな特産品で地域を元気に！



17日(火)、事務所スタッフの運転で10時前には登庁。10時30分から産業労働常任委員会が開かれた。今日は、閉会中の継続調査じけんとして、「新産業の創出と起業・創業の促進について」、

「戦略的な産業立地の促進について」を調査した。

委員会終了後は議員控室で当局から説明を受けたり、議員団執行部と自民党県連との合同会議に出席した。

5時過ぎには加東事務所へ。朗報が加田参議院議員から届いた。内閣府の「地方創生政策アイデアコンテスト2019」で県立社高校生活科学科3年が地方創生大臣優秀賞を受賞した。併せて、富士通総研賞も受賞。テーマは、「新たな特産品で地域を元気に！」。食品メーカーのマルヤナギ小倉屋と連携し、加東市産のもち麦を使った新賞品を開発し加東市の元気を創りだしたことが評価されたもの。若浦校長に電話すると、そのことを学校HPの校長ブログに投稿したと喜びの声。令和元年をしめくくる朗報だった。

46. 看護連盟との意見交換

2019年12月20日

19日(木)、手術の翌朝、麻酔も切れたのだろう、指の先ま

域連合」と題した講演を聴いた。山田氏は、関西広域連合の歩みと成果を示しながら、人口減少時代における地方自治の将来のあり方について関西広域連合が果たす役割を語った。その後、10年目を迎えている関西広域連合の9周年記念パーティーが開かれた。出席者らと関西広域連合の発足について議論した1期目の頃の話も出た。

骨折してから2週間と1日が経った。手術をして4日目の今日、ギブスも添え木も取った。むくみや痛みはあるが、ようやく覆っていたものがなくなり、治療も次の段階に入った。久しぶりに水道で洗った右手は実に心地よかった。大阪から社への直通高速バスで帰ることができ便利を再認識。しかし、右手は腫れ、痛みもでていた。まだまだこれからだ。

48. 消防団年末警戒始まる—30日まで3日間

2019年12月29日

28日(土)、今日も穏やかな冬の日が射す一日だった。午前中に大山病院で抜糸をしていただいた。右手首を骨折してから21日目、手術から10日目だった。前日に抜糸はちくりと痛みがあると聞かされていたが、まったく痛みはなかった。あと2ヶ月はかかると先生の言葉。箸を持つのはよいが、ドアノブを回すのはまだまだ。ましてや右手を使つての作業はだめだとのことだった。手首を回転させる動きができないので、箸は持てるが、ご飯を口に運べない。まだ左手で箸を使う。それでも少しずつ使っていかないと筋肉などが固くなってしまうそうなので、頑張ってみよう。

今日から事務所は閉まっているが、来客があり、相談を受ける。

書類の整理もしたりして過ごした。



夜9時、加東市消防団本部前で年末警戒発団式に出席した。各小隊から165名の団員が出席し、小松団長の訓示を受けた。市長、警察署長、議長、そして私が激励の言葉を述べた。30日までの3日間、午後

8時から午前1時まで詰所を拠点に各地域の警戒にあたる。

もう40年ほど前、消防団員だった頃の年末警戒を思い出した。団員不足と高齢化が進む消防団であるが、消防団こそ、地域の状況を熟知しており、火災や災害から地域を守る要となっている。例年に比べると寒さもそれほどではないような感じだったが、頑張っていたきたい。

49. 令和2年始動—初日の出、元朝式、初集会

2020年01月02日



令和2年（2020）の元旦。持寶院で除夜の鐘を撞き、佐保神社で新年を迎えた。参拝をすませ、参拝の皆さんと新年の挨拶を交わした。

仮眠をとって、午前5時には加西市笹倉公民館で行われた実践倫理宏正会の朝起会。元朝式に出席し新年のご挨拶を行

った。

7時20分、加東市山国の王子が池の堤で初日の出を拝む。素晴らしい初日の出だった。9時には、令和時代最初の地区初集会在加東市福吉地区で行われ出席して新年の挨拶を申し上げた。元旦から地区の初集会在もう一地区、午後1時から上田地区でも行われ同様にご挨拶を申し上げた。

ようやく我が家の正月の儀式が始まるのが午後2時前。神様、ご先祖様へのお参りをし、新年の挨拶をしてお節料理、という具合に正月がやってきた。こうした正月の流れが13年目となった。

50. 政務調査会始まるー令和2年度予算

2020年01月09日



8日(水)、今日から3日間の政務調査会が始まった。令和2年度当初予算について各部局から重要政策、要求額の説明を受け質疑を行うもの。

1日目の今日は、10時から企画県民部①、農政環境部(環境)、昼の休憩をはさんで、午後は1時45分から健康福祉部、県土整備部①と続き、終了したのは午後4時40分頃だった。

昼に日台議連、政務調査会終了後に健康福祉部会が行われ、県庁を出たのは6時前だった。

51. 関西広域連合議会—総務、産業環境常任委員会

2020年01月12日



11日（土）、10時から関西広域連合議会の総務常任委員会、産業環境常任委員会が大阪市の本部で開かれ出席した。総務常任委員会では、令和2年度の主要事業、第4

期広域計画案及び第2期関西創生戦略案について説明があり質疑が行われた。10年目を迎える関西広域連合のめざす地方分権についてをはじめ、ワールドマスターズゲームズ、大阪関西万博への取り組みなどについて活発な議論が行われた。引き続き、12時から産業環境常任委員会が開かれ、関西広域環境保全計画案、関西地域カワウ広域管理計画案について調査を行った。プラスチックごみ対策やカワウ対策の広域的な取り組みについて質疑が行われた。

関西広域連合長の井戸兵庫県知事は、ワールドマスターズゲームズに水泳で参加することを以前から表明しているが、今日は連合議会の議員にも出場を勧めた。お元気だ。

52. 東条川疏水、山田錦の里を巡る

2020年01月15日

14日（火）、今日は東京から遙々加東の地に、月刊誌の記者が東条川疏水、山田錦の里の取材に来られた。以前に別件で取材を受けた際に話題になった疏水と酒米の産地を改めて取材したいということだった。



事務所で概要を説明したあと、東条川疏水の鴨川ダムや昭和池、水路やサイフォンなどの各ポイント、県酒米試験地、山田錦生産農家、疏水流域の寺社などの文化財などを一日がかりで巡った。実際

に疏水の各施設を見学し、その壮大な水のネットワークと先人の知恵と努力に圧倒されたとの感想だった。いい記事になることを期待したい。

53. 産業労働常任委員会

―特定テーマの調査で溝畑氏が講演

2020年01月16日

15日(水)、10時30分から産業労働常任委員会が開かれた。今日は、令和2年度当初予算要求概要についての報告と、閉会中の継続調査事件の調査が行われた。

調査事件は「職業能力開発の推進について」で、私からは、「ひょうごの匠」の活動内容、実績などについて質問した。委員会はここで、一旦休憩に入り、午後は特定テーマの調査を行った。

午後2時から、大阪観光局理事長(元観光庁長官)の溝畑宏氏を講師に招き、「ゴールデンスポーツイヤーズ等を活かした観光振興について」の演題で、講演を聴いた。溝畑氏は、自身の経験を踏まえながら、大阪、関西の観光振興、兵庫県の可能性についてデータをもとに約1時間語った。質疑では、神戸空港の活用や広域での観光振興の要としての神戸の可能性について議論が深まった。

昼の時間に国際交流課から外国人共生モデル都市の取り組みについて説明を聞いた。また、午後3時から、自民党県議団内の県庁舎等再整備検討委員会が行われ、基本構想についての協議を行った。

54. 阪神・淡路大震災25年追悼式典、県庁で部会

2020年01月18日



17日（金）、阪神淡路大震災から25年。午前5時46分、神戸市東遊園地で祈りを捧げる人々のようすをテレビで視ながら25年前を思い出していた。今日

と同じように起きていたが、突然の激しい揺れ、外で、体を突き抜けていく南東からの衝撃波を何度も感じた。尋常ならざることが起きていることへの恐怖に包まれたことを今もよく覚えている。

今日は兵庫県公館で秋篠宮皇嗣殿下同妃殿下の御臨席の下、25年の追悼式典が行われた。遺族、国、県、市町、団体などの代表が出席し、犠牲となられた6400人余りの人々の冥福を祈るとともに防災・減災へのさらなる取り組みを決意した。式では、次の世代の決意表明も行われ、震災を風化させず、伝えることの大切さを強く感じた。写真は式が始まる前の式場中央の祭壇。

午後は、県庁で、自民党県議団の総務部会、文教部会、産業労働部会が行われた。総務部会では第二期地域創生戦略の素案、文教部会では、「親子ノート」の内容、産労部会では雇用活性化プログラムの変更について、それぞれ当局説明と質疑が行われた。

所用で予定を変更し夕方加東に戻る。今日は、「亡くなった人の分まで生きる」という言葉が心に残った一日だった。25年は人の一世代に近い長さだ。しかし、亡くなった方々の時間は止まったままだ。私たちはその方々の分まで、しっかり生き続け、教訓を忘れず、伝え、備えていかなければならない。

55. 農政環境常任委員会が 北播磨で酒米研究交流館などを調査

2020年01月22日



21日（火）、9時過ぎににぎわいプラザ内の加東市観光協会（加東市河高）に寄ってから、県酒米試験地（加東市沢部）へ。今日は県議会の農政環境常任委員会が東播淡路地区の管内調査の最初の調



査地としてこの施設を訪れ、地元議員として同僚議員と一緒に出席した。酒米試験地の倉庫兼作業場は昨年4月に93年ぶりに建て替えられ、新たに「酒米研究交流館」として動き始めた。「全国唯一の酒米専門の試験施設として、酒米生産者、酒造関係者はじめ小中高生らも見学

に訪れている。委員らは説明を受けた後、施設を見学し、質問を行っていた。委員会はその後、北播磨県民局（社総合庁舎）で事務調査を行った。

56. 滝野南小4年生が議場見学

2020年01月28日



27日（月）、9時半頃に登庁し、9時50分過ぎから、県議会本会議場を見学に訪れた加東市立滝野南小学校4年生32人を迎えた。本会議場で児童に対して議会の紹介を

交えながら挨拶した。児童は、県公館、県警本部、そして午後に神戸空港を見学する予定だと聞いたが、天気がよければよかったのになあ、と思うところだった。

昼に兵庫県宅地建物取引業協会の60周年記念式展に出席した。その後、県庁に戻り執務し、夜は神戸市内で行われた兵庫県看護連盟の新年互礼会に出席し、地元北播磨地区の出席者の皆さんと懇談を行った。

57. 産労常任委員会の管内調査で西播地区へ

2020年01月30日



28、29日の2日にわたり、県議会産業労働常任委員会の管内調査で西播地区を訪れた。今年度の管内調査（県内各地を4回にわけて行う調査）も今回の西播が最後となる。

主な調査先は次の通り。

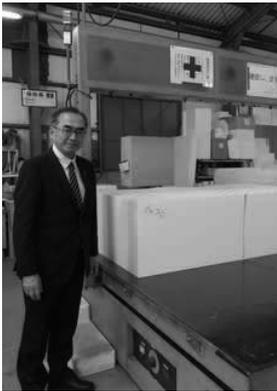
【28日（火）】兵庫県立大学金属新素材研究センター（姫路市）、サンアロイ工



業（株）、濱中製鎖工業（株）網干工場、中播磨県民センター

【29日（水）】極東産機（株）、揖保乃糸資料館「そうめんの里」、龍野コルク工業（株）、西播磨県民局

今回の調査では、平成30年に県立大に開設された研究センター



で最新の3Dプリンター設備、ひょうごオンリーワン企業を受賞したサンアロイ工業で超硬合金、濱中製鎖工業で国内唯一の鎖製造現場を、極東産機では、畳、内装など職人の技術をコンピュータ式機械を、発泡スチロール成型から医療分野へ新展開する龍野コルク工業などの西播

地区のものづくり産業を牽引する優良企業でその実際を、また、地場産業の手延べ素麺の資料館では、組合の取り組みを調査することができた。創業以来の伝統と積み重ねた技術などを基盤にしながら、新分野を切り拓きながら最先端のものづくりの最先端に挑戦する研究者、経営者の皆さんの意欲や郷土への愛が伝わってきた調査だった。

58. 加東公募美術展

2020年02月02日

2月1日（土）、10時過ぎに兵庫教育大学附属小学校へ。5年生の社会科の授業を参観した。社の市街の歴史を調べる中で、神社や寺はそのまの場所にあるのに、警察や郵便局は何度も移



転しているのはなぜかという問いに対する予想を立て、人口の変化、道路の変化から考えたことを話し合っていた。

昼頃、滝野図書館で行われている加東公募美術展へ。ギャラリー「伝」の絵画部門で

岸本詩音さん（加東市吉井）の「縞馬とわたし」が奨励賞を受賞したとのことで、ちょうど会場を訪れた詩音さんとおばあさんの尚美さんと喜びあった。詩音さんの作品は副議長時代に副議長長室に数点をお借りして飾らせてもらったこともあり、今回は5度目で初めての奨励賞で詩音さんも嬉しそうだった。（写真はいただいたハガキから転載）

59.「犯罪から自分を守ろう」ポスターコンクールで 社小3人が受賞

2020年02月07日

6日（木）、午後1時30分から、県公館で「令和元年度地域安全まちづくりセミナー」が開かれ出席した。井戸知事の挨拶



に続いて、ひょうご地域安全まちづくり活動表彰式が行われた。次の会議があったのでここで退出したが、このあと、第12回「犯罪から自分を守ろうポスターコンクール」の表彰式が行われ、同僚議員



にカメラを託しておいた。というのも、加東市立社小学校の児童3人が受賞するというすばらしい結果だったからだ。この原画をもとに2020のカレンダー（写真）が作製されているが、12ヶ月中の3ヶ月分は社小学校の児童作品ということになる。ポスターもいただいてきた。女性や子供が犯罪の被害者になることが多く、そうした危険から身を守ることがテーマになっている。式の前に受賞者席の児童におめでとうのお祝いを言ったが、本当に素晴らしい。

ニュースで拉致被害者の有本恵子さんのお母さんの嘉代子さんが亡くなったことを知った。さぞご無念であったろう。ご主人の明弘さんは「思いはあるが言葉がない」と涙をぬぐっておられた。お二人とは何度かお出会いはしたこともある。加東市にも来られたこともあった。恵子さんをはじめ拉致被害者の救出はもう時間がないと言われてからも時間のみが過ぎていく。有本さんは「もう神だのみです」と話しておられたが、救出は日本の国、国民、すなわち私たち自身の責任だ。ご冥福を祈りながら、その思いを強く持った。

60. 福田小4年生が県議会本会議場見学

2020年02月08日

7日（金）、今日は北方領土の日。学生時代、教員時代を通じて、北方領土返還運動や北方領土の歴史、地理などを教えてきた。北方領土交渉が続けられているが、固有の領土である4島が今なお



ロシアに不法占拠されたままである。教育を通じて、歴史の事実はしっかり伝えていかなければ、ロシアとの外交交渉に向かうことはできない。

昼に登庁。今日は加東市立福田小学校の4年生17名が県庁見学にやってきた。災害対策センターや警察本部を見学し、県議会本会議場を訪れた。議場で、議員席に座って説明を受けたあと、私から事前にいただいていた質問に答える形で議会のしくみや議員の活動についてお話しをした。最後に議長席で記念撮影を行った。

61. 加東市で稲田朋美氏が憲法改正講演会 — 自民党加東市支部

2020年02月09日



8日(土)、今日は、自由民主党加東市支部の公開講演会・総会が加東市社福祉センターで行われた。朝から準備・点検をし、昼前に会場に集合、準備を行った。昼過ぎには講師の稲田朋美氏(衆議院議員・自民党幹事長代行・元防衛大臣)が到着。会場には1時間前から来場者もあり、講演開始の午後1時には、会場一杯の約130名の出席者で埋まった。

13時、講演会が始まり、主催者・支部長として私が挨拶と講

演を行った。



師紹介を申し上げた。稲田氏は、弁護士として兵庫県三田市で生活したことや衆議院議員選挙への立候補の経緯などから、安倍首相の憲法改正に向けた取り組み、そして、憲法改正が必要な理由を日本を

取り巻く国際情勢を北朝鮮、中国などの動向から話された。また、今回の中東への自衛艦派遣の意義についても防衛大臣時代の経験談を交えながら説明され、自民党の提起している自衛隊の憲法明記をはじめとする4項目に加えて、女性活躍の時代、社会を切り拓いていくことの必要性を強調された。「伝統と創造」とは、皇室をいただく日本の伝統と文化を守りながら、社会の変化に対応して新たな時代を拓いていく創造であり、そのためにも憲法改正を進めようと締めくくられた。講演会には、支部党员はじめ党友の皆さん、そして、美しい日本の憲法をつくる県民の会や日本会議兵庫、ともみ組の皆さんも県下各地から駆け付けてこられた。

講演会終了後、支部総会が行われ、岩根正加東市副市長はじめ、自民党の衆参国會議員（代理）、加東市議會議員ら来賓の出席の下、令和2年の活動計画などが決定された。

62. 移動教育再生実行本部in兵庫

2020年02月11日

10日（月）、昼には県庁へ。午後2時から私学会館で、自民党の「移動教育再生実行本部in兵庫」が行われ、出席した。

この会議は、自民党の教育再生実行本部が、地方の教育関係



者の生の声を聞こうと石川県に続いて兵庫県で行ったもので、本部から馳浩本部長をはじめ、渡海紀三朗顧問、松本剛明副本部長、赤池誠章事務局長、大串正樹事務局次長が、県連から石川憲幸幹事長、藤本百男政調会長、内藤兵衛県議団幹事長の3人が出席した。

約2時間にわたり、教育委員会、管理職、事務職員、校長、教頭、私学、幼稚園、教職員などの各教育関係団体代表からこれまでの提言や提言にもとづく改革に対する現場の現状、課題などが出された。教員の働き方改革、定数改善、管理職や教員へのなり手不足、ICT普及の地域格差、大学入試改革と高校教育、特別支援教育など現場が抱える問題や要望などに対して、馳本部長ら出席の議員から、コメントとともにそうした声をもっとあげて届けてほしい、との意見もあり、今後の改革を進めていく上で有意義な会となった。

63. 建国記念の日ー奉祝式典・講演や加東で伝統の祭りにも

2020年02月12日

11日(火)、今日は建国記念の日、皇紀2680年の紀元節だ。早朝、玄関に国旗を掲げてからいつものコースを歩いた。少し霧がかかっており、天気がよくなりそうな予感がした。

9時30分過ぎに加東市河高の八幡神社の厄除け祭りへ。すでに多くの人々が参拝されていた。河高地区のレインボークラブの



皆さんにご挨拶、そして参拝。そのあと、神社の背後の山頂で行われている伝統の厄除け賽銭投げの行事を見た。

11時過ぎには、加東市上久米の東光寺へ。ここでも伝統の大日如来祭り、通称「大日ったん」が行われる。晴れ

上がった青空に幟がひるがえり、寺の前の田圃では午後行われる護摩焚きの準備が行われていた。本堂に参拝し、寺役員や消防団の皆さんと話し寺をあとにした。

午後1時前には、神戸へ。県庁隣の県民会館で行われた「建国記念の日を祝う集い」に出席した。まず、新田均氏（皇學館大学現代社会学部長）による「皇位継承を考える」と題した講演を聴いた。男系男子による皇位継承を歴代天皇の系譜や皇室典範などさまざまな観点から解説された。続いて、式典が行われ、皇統安泰堅持に向けた正しい議論を行うことを求めた決議が採択され、全員で「紀元節の歌」を歌った。終了後、祝日で賑わう三宮センター街などをパレードし、奉祝ムードを盛り上げた。



今年の建国記念の日は、去年の雪とうってかわって晴天となり、令和最初、皇紀2680年の紀元節を奉祝するにふさわしい一日となった。

64. 古森義久氏が講演－自民党各種友好団体政策セミナー

2020年02月15日



14日（金）、午後4時から神戸市内のホテルで開催された自由民主党兵庫県支部連合会の各種友好団体政策セミナーに出席した。セミナーの講師は古森義久氏（産経新聞ワシントン駐在客員特派員、麗澤大学特別教授）で、「緊

張高まる国際情勢と日本の選択」と題して講演された。古森氏は新型コロナウイルス対策について、アメリカと日本のとらえ方の違いから話を始められ、今の国際情勢が戦後最大の危機を迎えていること、グローバリズムの後退と主権国家の誇示、米中対立、朝鮮半島、日本への影響と立場、そして、日本の独立と主権を守るためにも憲法改正が必要と締めくくられた。

今、日本を取り巻く世界情勢は、国の存亡の危機といえる状況だという認識が日本人にもっと必要だと思った。引き続いて行われた懇親会では、出席の皆さんの声を聞く機会となった。働き方改革、教育改革など大きな改革が次々と実施されつつあるが、現場での影響や国民の声をもっとしっかり聞いていくことが民主主義のあり方ではないか、とのきびしい声も聞かせていただいた。

65. 関西広域連合議会、加東市高齢者大学閉講式

2020年02月16日

15日（土）、午前9時30分から加東市高齢者大学の閉講式が滝野文化会館で行われご挨拶を申し上げます。いつもは兵庫教育



大学の講堂で行われるので危うく間違いそうになった。

そのあと、高速バスで大阪へ。午後1時30分から関西広域連合議会の全員協議会が行われた。

3月1日に本会議が行われるので、提出議案説明などが行われた。また、新型コロナウイルス対策についての報告も行われた。和歌山県など構成府県の中でも感染者が出ており、それぞれの対策がまとめて報告された。3月議会では質問に登壇の予定だ。

大阪バスターミナルから社車庫行きのバスで帰ってきた。これはやはり便利だ。もう少し便数が増えればさらに便利になる。

66. 2月議会が開会し補正予算を可決、防衛議連総会も

2020年02月19日

18日（火）、第347回定例県議会が開会。これに先だって9時30分から自民党議員団総会が開かれた。10時から恒例となっている議場コンサートが行われた。岩村力氏指揮、兵庫芸術文化センター管弦楽団によってベートーヴェンの交響曲第5番、モーツァルトの歌劇「魔笛」序曲など4曲が演奏され、最後に「故郷」を全員で歌った。

11時本会議が開会。会期は3月25日までの37日間。「新しい兵庫挑戦予算」（井戸知事）一般会計1兆9956億円、特別会計1兆6866億円の令和2年度予算、条例などの議案が上程され知事が趣旨説明を行った。昼の休憩時、この日2度目の自民党議員団総会が開かれ、代表・一般質問要旨の発表と質疑が行われた。

午後1時30分本会議が再開され、令和元年度補正予算約514億の関係議案が上程され知事が提案説明を行ったのち、自民党副政調会長の大豊康臣議員をはじめ各会派代表による質疑、常任委員会での付託議案審査が行われた。再開された本会議で、委員長報告に続き、討論、表決が行われ、賛成多数で可決された。

夜、神戸市内で兵庫県議会防衛議員連盟総会が行われ、総会に続いて県防災監の早金孝氏が講演した。総会後の懇談会には陸上自衛隊幹部、兵庫県警察本部長ら警察幹部も出席し、兵庫の安全安心を守るため、連携を高めていくことを話し合った。また、新型コロナウイルス対策での自衛官の活躍についての話題も出た。

67. 兵庫県議会自民党酒米日本酒振興議連設立

2020年02月22日

21日（金）、10時30分自民党議員団総会、11時本会議。令和元年度2月最終補正予算案が追加上程され、井戸知事が提案説明、15分ほどで休会。補正予算案には新型コロナウイルス緊急対策などが含まれている。今日は短くて申し分けなかったが、加東市の友人が県議会を傍聴してくれた。

12時30分、兵庫県議会自民党酒米日本酒議員連盟の設立総会が開かれ、41名からなる議連が誕生した。兵庫が誇る酒米、



日本酒の生産振興、農業・農村の活性化、地域創生を応援していこうという趣旨の議連。総会では、私が会長に選任いただいた。

午後1時から関西広域連合連携協議会が開かれた。3月



議会の議案説明や新型コロナウイルス対策などの説明が行われた。

2時から来客があり、終わってから元町商店街で開催されている「元町バル」へ。酒米の王様「山田錦」の主産地、北播磨の酒蔵が参加し、元町で利き酒を、と毎年開いている。今年は、北播磨産の山田錦を使った名酒が全国から集められ、利き酒ができるという豪華さ。今年は昼間の11時から開店し、多くの人が名酒の利き酒を楽しんでいた。酒米日本酒振興議連の設立を祝して乾杯！といきたかったが、車の運転があり利き酒はできず残念。

68. 赤穂市で日本遺産「北前船寄港地」交流シンポジウム

2020年02月23日



22日（土）、朝から雨が降り始めた。今日は「竹島の日」。事務所の正面に「竹島」のポスターを掲げ続けている。何年か前に松江市での式典に出席したこともある。教師時代、竹島が日本の領土であることを歴史的事実にもとづいて教えてきた。韓国による不法占拠が続いているが、日本人としてこの島々が韓国の領土ではなく、日本の領土であることをしっかりと教え理解させておくことが大事なことだと

信じている。今年は韓国からの抗議団体が新型コロナを恐れて来日しなかったと報じられていた。

事務所でメッセージの作成などをし、昼前に赤穂市に向かった。午後1時から、市内のホテルで「ひょうご紀珠恵船寄港地交流シンポジウム」が開かれた。この会は、「坂越のまち並みを創る会」が主催し、日本遺産に認定された県内の北前船寄港地の関係者が出席した。私も兵庫県議会自民党議員団日本遺産の会の一員として同僚議員とともに出席した。主催者に続き、金澤和夫副知事(写真)や長岡壮壽県議会議長、山本敏信日本遺産の会会長、赤穂市長らが挨拶した。このあと、兵庫大学副学長の田端和彦氏が「歴史を観光に生かしたまちづくり」と題して基調講演を行った。観光を資源とし、資産へと価値の創造を行いまちづくりを行うことの意義を話された。

会場からの帰路、坂越の歴史的まち並みを見学した。江戸時代初期から続く奥藤酒造を訪れ(写真)、郷土資料館も見学した。小雨が降っていたが、まち並み見学の人もあり、日本酒の試飲に会話も弾んでいた。奥藤酒造には加東市産の山田錦が使われている。そんなつながりも嬉しい気分だった。

69. 関西広域連合議会3月議会で一般質問、2年度予算可決

2020年03月02日

3月1日(日)、今日は関西広域連合議会の3月定例議会が大阪市内で開かれ出席した。高速バスを使って大阪市へ向かうが高速道路も市内も車は少なくスムーズに到着。中之島の会場ビルへのバスも渋滞なく走った。いつもは賑わう日曜日の繁華街も新型コロナウイルスの感染予防で人出がなく、閑散としていた。

12時30分から全員協議会。午後1時から本会議が開かれた。



井戸知事ら連合委員から令和2年度当初予算案、各分野の施策など上程議案の説明が行われたのち、一般質問が始まった。

今日は14人の議員が質問に立ち、休憩をはさみながら午後6時過ぎまで質疑が続いた。私も10番目に登壇し、ジオパークを活用した広域周遊観光振興、エコツアー体験事業の成果と今後の展開の2問について質した。本年は関西広域連合が10年目を迎えることからこれまでの評価と今後の展開についての質問や新型コロナウイルス対策についての質問が多くみられた。

一般質問が終わり討論、採決が行われ、総額24億2834万円の令和2年度当初予算案が可決された。閉会したのは午後6時30分を過ぎていた。

70. 3. 11、コロナウイルス

2020年03月12日



11日(水)、3.11東日本大震災から9年の歳月が過ぎた。昨夜は震災関連の本を読みながら就寝した。

図書館への返却や入構証の更新手続きなどで兵庫教育大学に入構すると、本部玄関に弔旗が掲揚されていた。あら

ためて震災の犠牲者の冥福を祈った。

午後、東条湖畔でホテル経営をされている方と法道仙人伝説や播磨の国宝巡りの話をした。郷土史に詳しい方で、ご先祖の話や伝説も聞かせていただいた。

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。夕方には兵庫県内の感染者は31名と報じられていた。また、選抜高校野球の中止も発表された。北播磨医療センターの医師が感染し、小野市内の小中学校は12日から休校が決まった。大阪のライブハウスに続き、県内でも介護施設やこども園でクラスターの発生の可能性が報じられている。「今、この段階でできるだけ多くのことをやっておくことが大事」と専門家会議の代表が強調していたことをあらためて重く受け止めておきたい。

午後2時46分、現地で行われた追悼祭に大きな虹が出たらしい。私は官邸で行われた追悼式の中継に合わせて黙祷を行った。この危機を国民が結束して乗り越えていかなければならない。

71. 感染拡大の影響深刻化

2020年03月14日

13日（金）、今日も新型コロナウイルスの感染拡大、その影響が世界を駆け巡った。WHOのパンデミック発表、ニューヨーク株式市場の大暴落に続いて東京市場も。そして、東京オリンピックの開催をめぐり、延期、中止の発言が出始め、アテネで始まった聖火リレーがすぐ中止になった。国会では、新型コロナ特措法が成立した。

兵庫県でも50人を超える感染者が確認され、介護施設や病院などでのクラスターの発生の可能性も報じられている。学校の休業継続に加え、公的施設の利用中止なども続けられている。これまで3月末までの行事等の中止、延期の連絡だったが、4月行事

についても状況を踏まえ、そうした対処をとるという連絡も入り始めた。つい2週間前の3月はじめとはまったく違った状況になっている。そうしたなかでの日常生活の維持、経済活動の継続といった課題への対処が行われている。

72. 加東警察署が業務優秀賞受賞

2020年03月17日



16日(月)、朝、うっかりして登校見守りに立つのを忘れていた。今日は登校日だった。一緒に立っている女性が子供から預かったという花束を届けてくださった。卒業していく6年生からだという。まだ小学校に上がる前から知っている子がもう卒業かと思うと感慨一入だった。いつもの見守りスタイルに着替えて写真を撮った。



午後2時、加東警察署の廣地署長と2名の若手警察官が来所。令和元年中の警察業務の優秀賞の受賞報告と署の取り組みと成果の報告を受けた。この優秀賞は生活安全、交通など

各分野の業務での優秀賞の受賞を重ねて全体として贈られたもので、県下で2署が受賞したという。署状については、若手警察官から報告を受けた。若手警察官プロジェクトの一環ということだったが、かとう「ながら見守り隊」の基本コンセプトSFC、

防犯カメラの活用による窃盗事件の検挙事例、公然わいせつ犯の検挙など、分かりやすいプレゼンだった。廣地署長の下、加東警察署員が一丸となって加東4万市民の安全を守ってくれていることに心強さを感じた。

夜、加東市民病院で新型コロナウイルスの感染者が確認されたという情報が防災無線で流れた。市民病院では22日まで消毒のため、外来診療、入退院、面会などを停止する。詳しいことは分からないが、感染者は別の指定医療機関に転院しているという。また、院内感染ではないとも伝えていた。兵庫県下では介護施設など3ヶ所でクラスターが発生しており、毎日感染者数が拡大している。感染拡大を抑え込むことが今の最重要課題だ。※後日、この感染者は市外在住者とわかった。

73. 県議会本会議で令和2年度当初予算案を可決

2020年03月24日

23日(月)、9時前に登庁。9時30分から産業労働常任委員会、10時30分から自民党議員団総会、11時本会議と会議が続いた。

本会議では、春名予算特別委員長から委員会審査報告がなされ、続いて討論、表決が行われ賛成多数で令和2年度当初予算案が可決された。続いて、議員報酬削減について、自民、県民連合、公明の3会派案と維新の会案の2案が提出された。3会派案は今後も従来通り5%削減を続ける、というもので、維新案は15%削減を提案。討論が行われたが、日本共産党は両案に賛成を表明し、表決でも両案とも起立賛成した。表決では維新案は起立少数で否決され、3会派案が起立多数で可決された。

休憩再開の後、井戸知事から新型コロナウイルス関係の緊急対

策費の令和元年度補正予算案が追加提出され、質疑が行われ、議案が委員会に付託された。

本会議終了後、自民党議員団の県庁舎等再整備検討委員会に出席した。

74. 第347回定例県議会が閉会、政調懇話会も

2020年03月26日

25日（水）、9時30分頃登庁。10時30分から自民党議員団総会が行われ、11時に本会議が始まった。

本会議では23日に提出された令和元年度関係補正予算案を可決、続いて、井戸知事から提出された副知事、教育委員、収用委員任命の同意人事案を可決。続いて、松本議運委員長から提出された兵庫県議会基本条例の一部改正案を可決した。次に請願が一括上程され、委員会審査報告、討論に続いて表決が行われ、台湾のWHO年次総会オブザーバー参加を求める意見書案が採択された。一方、選択的夫婦別姓の導入へ一日も早い民法改正を求める意見書案は、総務常任委員会では自民党が過半数を割っているため、採択すべきものとされたが、本会議では自民党の反対で不採択と決した。続いて会派発議の意見書案「地籍調査の推進に関する意見書」など8本の意見書が可決された。

2月18日に開会した347回定例県議会は閉会した。この間、新型コロナウイルス感染症が兵庫県内で発生し、3週間余りで100名を超えるまでに拡大している。また、東京オリンピックの延期されることになり、経済、社会生活の危機的状況が続いている。今後、どのような事態が起きてくるかもしれないという緊張感をもちながら、県政の推進にあたっていかなければならない。

午後2時から全議員対象の県議会政調懇話会が開かれた。50

回目の今回は「地域代表について」のテーマで、東京大学大学院の金井利之教授の講演を聴いた。県議会では、議員定数等の見直しについてこのテーマで調査を続けており、その一環として今日の講演が行われた。人口要件だけでは人口の少ない地域の代表がいずれいなくなる。地域代表という場合の地域とは、「人」だけでよいのか、という疑問に対して、他の要素を考慮すべきではないのか、という疑問に対してさまざまな角度からの考察を聴くことができ、参考となった。

夜、東京都の感染拡大が報じられ、都知事による週末の外出自粛要請が出されたとのこと。緊張感が高まる。

75. 緊急事態宣言が出される—兵庫県も対象

2020年04月08日



7日（火）、朝、自転車で社小学校区のうち、家原、窪田、西垂水、鳥居の辺りを走った。7時30分からは新年度の始業式で登校する社小学校の子供達の見守りに立った。明日は入学式、そして、9日も登校し、そのあと、休校となる予定だそうだ。

今日、安倍首相が特措法に基づく緊急事態宣言を行うということで、朝から諸会議、国会などでの手続きが行われ、夕方に宣言が出された。午後7時からはい見を行い、国民に対して宣言を行った理由や協力を呼びかけた。7都府県がその対象範囲とされ、わが兵庫県もその対象となった。

3月1日に1人目の感染者が出てから1ヶ月と1週間で、すで

に200人を超えて増加が止まらない。この危機に対して、人に会わないという対処をとることで感染拡大を防ごうというものだ。しかし、必要最低限の社会経済生活は維持していかなければならない。そのための傷みをどう手当していくかについても対策が講じられようとしている。休業要請の対象業種に入ったときの具体的な相談もきている。まだ明日になってみないとわからないことも多い。

今日の事務所には、北播磨県民局の局長、土木事務所長、農林振興事務所長さんらが着任の挨拶に来られた。令和時代の輝ける北播磨づくりを牽引していただかねばならない方々である。ただ、今はコロナ対策の真っ最中であり、まずはその対処をお願いしたい。また、明日予定されていた県立社高校の入学式も来賓なしの規模縮小で行われるとの連絡や地区運動会中止の連絡などが入ってきた。

「自分も感染しているが症状が出ていない状態だ」という前提で行動することが、外出自粛はじめ手洗い、マスク、社会的距離の保持等の感染予防行動になる。宣言下の1ヶ月間、徹底しよう。

76. 産業労働常任委員会 臨時議会提出予定議案の説明等

2020年04月21日

20日(月)、朝まで雨が降っていた。事務所に寄ってから県庁に向かい、10時過ぎには県庁に着いた。

11時から自民党県議団総会が行われ、各会派代表者会議、議員運営委員会の報告、24日の臨時議会で提出予定の令和2年度4月補正予算(緊急経済対策)案等の説明が財政課より行われた。本会議場では、席の間隔を離すために臨時の議席が設けられることになっている。

昼食後、自民党県連本部と党本部への要望等について協議。午後1時30分から、産業労働常任委員会が開かれた。まず、新型コロナウイルスの影響による県内経済の現状と対応状況についての報告があり、続いて臨時議会提出予定議案の説明が行われた。報告に対する質疑では、危機的状況についての県の認識、現状把握について厳しい意見が出た。私からは、料飲店での期限付酒類小売業免許による酒類販売を通しての料飲店のテイクアウトの支援について質した。

今回の補正予算は、緊急事態宣言を踏まえて、兵庫県として対策を強化するために編成されたもので、感染拡大防止、地域産業・県民生活支援、収束後の元気づくりの3本柱になっている。総額は3916億円余。

午後4時頃退庁。空は晴れ、途中休憩した呑吐ダム湖畔から眺める景色は、新緑が美しく湖面に映えていた。コロナとの戦いをしていることがまるで嘘のような美しい眺めだった。

77. 臨時県議会、3916億円の補正予算を議決

2020年04月25日

24日（金）、9時過ぎには登庁。3号館の議会専用駐車場はすでに一杯で、2号館の駐車場に回る。今期は少し遅れるところなる。

9時30分から自民党議員団総会が行われた。10時、本会議が開会。今日の議席は、議員間の距離を取るために、議席通路や傍聴席前列に臨時の席を設けた。私は、通路の議席だったが、換気のために窓やドアを開放しており、冷えた空気が流れていた。

井戸知事が議案の提案説明を行い、続いて各会派代表が、感染拡大防止対策、経済・生活支援対策、収束後の回復対策からなる

緊急対策補正予算案についての質問を行った。議案が委員会に付託され、休憩。昼に2回目の議員団総会。午後1時30分から各常任委員会が行われた。

産業労働常任委員会では、休業要請に関して、100平米以下を対象外とすることなどについて、委員から厳しい現状や対策を求める意見などが出された。私からは、地域の事業所などの相談が集中している商工会への専門家、OB職員などの人的支援について、休業要請対象外の職種や100平米以下の学習塾などで、頑張っているところへのマスクや消毒液、防護服などの支援を積極的に行うべきといったことを要望した。産業労働常任委員会に付託された予算案は全員可決すべきものとされた。

午後3時20分頃、本会議が再開され、委員長報告ののち、表決が行われ補正予算案が可決された。

本会議終了後、自民党議員団の会計監査、打合せなどを行い退庁した。加東事務所に戻ったのは6時頃だった。今日も県内では20名を超える感染拡大が続いている。緊急事態宣言の外出自粛効果が顕著に出てくることを期待しているが、ここは人との接触8割減らしで耐えていかなければ。

78. 自民党議員団で知事にコロナ対策の緊急要望

2020年04月29日

28日(火)、今日は「主権回復の日」。昭和27年(1952)4月28日、サンフランシスコ講和条約が発効し、占領が終わり日本の主権が回復した日だ。私は翌年に生まれた。

今日は9時過ぎには登庁。10時から、新型コロナウイルス感染症対策に関する知事への緊急要望を行った。内藤兵衛幹事長、春名哲夫政調会長はじめ執行部と、7部会長で要望書を手渡し、



意見交換を行った。出席した金澤和夫副知事に対して、「力強い知事メッセージ及び正確な情報の発信」、「医療提供体制の充実、感染拡大の防止」、「企業等への事業継続支援について」、「休校に伴う学習環境の整備につ

いて」、「今後検討を行うべき事項」、「その他確認を求める事項」について、議員団に寄せられている県下各地、各種団体、県民の声を集約し、21項目、43点にわたって要望した。県議団では個々の議員から直接当局に問い合わせることを避け、執行部に集約してきているが、そうした声は現状の厳しさを伝えるもので、意見交換でもマスクや消毒液、医療や介護現場の置かれている状況などについて県の緊急を要する支援の必要性が出された。私からも企業や事業者からの相談窓口となっている商工会への人的支援、介護はじめ休むことができない現場でがんばっている人々へのさらなる強い支援等を要望した。金澤副知事は、そうした声をしっかり受け止め、対策を強化していくとの答弁があった。今後こうした場を設けていく必要がある。

午後は加東事務所で。連休明けの学校再開は難しく、5月末まで臨時休校は延長されそうだ。

79. 酒米生産、日本酒生産の窮状

2020年05月08日

7日（木）、今朝は空気が冷たかった。事務所に寄って9時過ぎには登庁。控室では、登庁してきた同僚議員らと自然に情報交

換になった。マスク、消毒液の不足の話題から、酒造会社がアルコールを使って消毒液を製造しているという話になり、問い合わせを行った。

酒米生産関係者から県議会自民党酒米日本酒振興議連に対して、緊急事態宣言下の外出自粛、飲食店等の休業要請の影響で日本酒の消費が激減し、その影響が酒米生産に及んでいるとの相談、陳情を受けた山田錦はじめ酒米の主産地であり、日本酒生産日本一の兵庫県にとって厳しい現状と今後の対策について意見交換を行った。

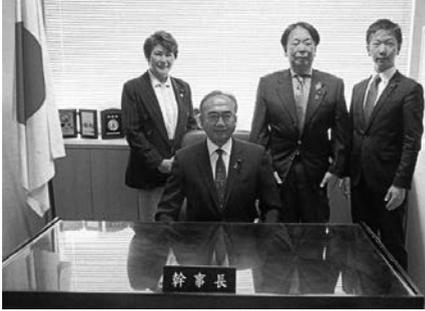
午後も県庁で整理や同僚議員との情報交換をし、2時過ぎには退庁。加東に戻り、事務所で事務整理や電話連絡などを行った。

今日はまぶしいほどの新緑と青空がきれいな一日だった。神戸からの帰りのルートは新緑に誘われて淡河への峠越え道を通った。峠からは、北播磨の丘陵や山々が遠くまで見渡せた。また、加東市の学園道路のヒラドツツジの街路樹が満開で美しい。今朝も県立社高校前の学園道路で校長先生がごみ拾いをしておられる姿を見た。県立高校はまだ休業中だが、一日も早くこの道路に生徒の元気な姿が見られることを祈るばかりだ。

80. 自民党県議団幹事長に就任、新執行部がスタート

2020年05月09日

8日（金）、9時過ぎには登庁。同僚議員や当局と相談。電話連絡も。11時から行われた自民党県議団総会で、議員団役員を選任が行われ、私が新幹事長に、水田裕一郎議員（姫路市）が就任した。新執行部のメンバーは、筆頭副幹事長に北浜みどり議員（神戸市東灘区）、副幹事長に吉岡たけし議員（神戸市垂水区）、中田慎也議員（伊丹市）、筆頭副政調会長に岡つよし議員（加古郡）、



副政調会長に戸井田ゆうすけ議員（姫路市）、奥谷謙一議員（神戸市北区）が就任した。コロナ緊急事態宣言下の執行部の船出となったが、旧執行部（内藤兵衛幹事長）に引き

続き、県議会最大会派である自民党県議団の幹事長として県議団の総力を結集し、このコロナとの戦いに打ち勝っていくことを誓った。

総会后、議員団内選挙管理委員会、昼食をはさんで、大部屋から幹事長室への引っ越し、旧執行部との引き継ぎ、新執行部の第1回会議を行った。

午後3時から県庁記者クラブで新執行部の発表、井戸知事、副知事への就任挨拶、他会派への挨拶回りを行った。井戸知事とはコロナ対策の現状や見通しについても懇談した。

その後は、幹事長室で当局説明や報告、政調会長室との打合せやコロナ対策についての協議などを行い、結局退庁したのは午後7時を回っていた。

マスクを付けての会話はなかなか苦しいものがある。同僚議員がこんなものがあると提供してくれたフェイスシールドを着用してみると、呼吸が楽で顔も見える。議員の地元のプリントメーカーが開発したもので、保育士さんにも好評という。



81. 知事に緊急要望

2020年05月13日



12日(火)、9時過ぎには登庁。11時30分から井戸知事に対して、コロナ対策について自民党議員団の緊急申し入れを行った。4月28日の要望に次いででの申し入れで、延長された緊急事態

宣言下での影響や宣言解除を見据えた対処等について、21項目の申し入れを行った。意見交換では、兵庫独自の解除基準、解除に向けては、県内各地域の感染者状況や業種などを考慮して段階的に解除を考えていくこと、専門的な知見をもとに県民がはっきりとわかるように明確に示すこと、2波に備えて、医療体制の充実をはかること、一人親への支援はじめ、延長によりさらに厳しい状況に追い込まれている企業や事業所への支援、家賃補助、困窮学生への支援、また、関西圏域での人の移動について、関西広域連合としての連携をとることなどなど多くの項目に話題が及んだ。

午後も幹事長室で執務。県議会文化振興議員連盟として、県下の芸術家や芸術団体などの活動機会が減少するなか、支援策についての緊急要望を行うことになり、事務局長として調整を行い、明日13日に石川憲幸会長(自民党丹波市)が代表して要望することになった。

退庁は午後5時過ぎ。加東に戻ると事務所にもいろいろ連絡が入っていた。

82. 自民議員団総会やコロナ対策調整会議

2020年05月23日



22日（金）、9時過ぎには登庁。さっそく午後の議員団総会などの会議に備えて執行部や事務局担当者との打合せ、登庁議員との情報交換などを行った。

昼前、自民議員団酒米日本酒振興議連で、酒米試食会が行われ、登庁議員や農政環境部など関係者が主食米との食べくらべに参加した。

外出自粛、営業自粛で日本酒の需要が激減し、蔵元では酒米を主食用として販売する動きも出ており、そうしたなか、酒米山田錦を炊き、おにぎりにして試食したもので、炊いたばかりの山田錦の味は予想外に美味だった。おいしい日本酒に変わる筈の酒米だが、現状では、食用としての消費も選択肢の一つ。

午後1時から、自民党議員団選挙管理委員会、総務幹事会、議員団総会と会議が続いた。総会では、議会役員候補の団内選挙が行われ、議長候補に原テツアキ議員（淡路市選挙区）、副議長候補に春名哲夫議員（宍粟市選挙区）、監査委員候補に北野実議員（姫路市選挙区）を選出した。また、常任委員会の構成など6月定例会に向けた団内の準備、議会としてのコロナ対策協力に関する協議などを行った。

午後4時から県議会コロナ対策調整会議が開かれた。緊急事態宣言解除となったこれからの県の対処方針の説明を受け、出席した各党派代表から質問が相次いだ。特に医療体制や検査体制の拡充、休業要請解除の範囲、移動・外出自粛要請の今後の見通しな

どについての質問が出された。

83. 井戸知事に緊急要望—自民党議員団

2020年05月26日



25日(月)、9時30分過ぎには登庁。10時から自民党県議団執行部会議。6月議会に向けた総会や代表質問案、午後の知事への緊急要望の打合せなどを行った。午前中は同僚議員との情

報交換や当局とのやりとりなどであったという間に時間が過ぎた。

午後2時30分から井戸知事への緊急要望を行った。新執行部として2度目の要望で、解除後、今後の医療体制の備えや経済・県民生活の回復、新しい生活様式等に向けた施策など33項目の要望を行った。意見交換では、抗原検査など病院での検査体制の拡充、県内観光の需要喚起、高校野球や総体中止の代替大会の開催などが話題にあがった。

夕方、5道都県の緊急事態宣言解除で全国の解除が宣言された。これから徐々に新しい生活様式での経済社会活動が広がっていく。学校やまだ休業要請の出ている業種についても6月1日には再開される見通しで、3密回避、マスク・消毒、換気を基本とした生活が続く。しかし、季節は夏を迎え、熱中症の心配がある。今年は例年より熱中症が多くなるとの予測もある。

県議会、関西広域連合議会での質問

第346回定例県議会(12月議会)での一般質問と答弁

令和元年12月9日

藤本百男議員

二日前に右手首を骨折いたしました。夜間救急で運ばれ、丁寧に対応していただきました。まさか9日の今日、看護師確保の質問をするという直前に実地というわけではありませんが、医師、看護師、そしてレントゲン技師、その他



の皆さんに本当に丁寧な対応をしていただいて、とりあえずはくっついておりますが、まだこれから手術をします。大変です。看護師確保について、看護師さんへの感謝、熱い思いを持って質問に入らせていただきます。

1. まず第一は、北播磨地域の看護師確保についてであります。

厚生労働省によると、令和7年、2025年に看護職員、看護師、准看護師、保健師、助産師が約6万人から27万人不足する推計が発表されています。兵庫県においても約3,700人から9,600人不足するとされています。

北播磨地域には、看護師養成機関として、事務組合立播磨看護専門学校、関西国際大学保健医療学部看護学科があり、また、民間看護専門学校の新設の動きも報じられているところです。

そうした状況下、北播磨地域の看護師養成を担う加東市、加西市、西脇市、多可町の3市1町による事務組合立播磨看護専門学校は、昭

和51年、当時の北播磨3市7町、西脇市、小野市、加西市、社町、滝野町、東条町、中町、加美町、八千代町、黒田庄町が共同設置して以来、三木市の加入や小野市、三木市の離脱を経ながら、これまで毎年定員35名、第1期生から第38期生まで約1,200名を超える卒業生を送り出してきております。その卒業生のうち、約84%が北播磨地域の医療機関等へ就職し、看護師として地域医療を支えています。

現在、県においては地域医療構想が進められており、患者、家族の意思を尊重しつつ、在宅医療が可能となるよう訪問看護ステーション等の在宅医療提供体制の整備が進められていく中、看護師の果たす役割は更に高まり、看護師の確保は最重要課題となっています。北播磨地域では高齢化率も高く、ひとり暮らしの高齢者等が安心して地域で住み続けるためには、24時間対応の訪問看護ステーションの整備促進が不可欠であり、これを実現していくためには、看護師がこの地域に住んで、看護に従事していることが最もふさわしいわけであります。

そうした点からいえば、播磨看護専門学校は、平成31年度入試では出願者87人中、地元高校の卒業生が67%を占めているのに加え、ふるさとで看護師として働くことを希望する社会人の再入学者も少なくなく、卒業後はこの地域に住んで看護に従事している割合が高いのが特徴であります。

現在、3市1町により運営されていますが、各市の補助額は平均して約3,000万円、県の補助額は昭和51年設置当初の2,300万円から平成11年までは概ね2,000万円、平成12年からは行革により20%減額され1,600万円となり、近年は1,160万円と県内就業率に応じた加算、いわゆる定着加算が100万円の合計1,260万円になっています。

設置から43年が経過し、校舎等は老朽化し建替の必要性があります。また、今後は講師陣や看護実習先の医療機関の確保等についても課題となる可能性もあります。

そこで、県の今後の看護師養成における播磨看護専門学校の役割についての認識と支援について、お伺いをいたします。

以下は、質問席にてお尋ねいたします。

井戸敏三知事

自由民主党議員団の藤本百男議員のご質問にお答えしたいと思います。ともあれ、大きな事故であったと拝察しますので、できるだけ早く完治されることをお祈りしております。

さて、北播磨地域の看護師確保についてであります。看護職員でございますけれども、令和7年、2025年には、3,700人から9,600人不足すると見込んでいるのでありますが、9,600人というのは、看護師さんが残業を全然しない、1年に20日間の休暇を取るという前提で計算した数字でありますので、9,600人も不足することはないのではないかとは思いますが、4,000人から5,000人ぐらい不足する事態にはなるということなのではないかと考えております。

その上に、新規就業者の確保に加えまして、高齢化の進展や医療ニーズの変化に伴い、需要が増加する訪問看護や介護保険サービスに従事する職員の確保が必要になってくると考えられます。

播磨看護専門学校は、直近5カ年平均で、入学者の88%が地元出身者、また26%が就業経験のある社会人等であります。地域での就業を望む若者等の学びの場としての役割を担ってきました。また、直近5カ年平均で、卒業生の96%が県内、83%が北播磨地域の医療機関等へ就業されておられます。そのような意味で、県、特に北播磨の地域医療に大きく貢献してきていると言えようかと存じます。

播磨看護専門学校の今後を考えると、建物の老朽化に加えまして、他の看護師養成所と同様に教員や実習場所の確保などの課題があります。県では、引き続き教育内容の充実や養成力の強化を支援してまいります。併せて、教員や実習指導者対象の講習会の開催によりまして、教員の質の維持・向上も支援してまいります。また、建替を検討される場合には、きっちり相談に応じていきたいと考えています。

高齢化の進展等により、先ほども触れましたが、看護師確保は重要な課題です。県としましては、播磨看護専門学校がこれまで果たしてきた北播磨地域の若者等の人材の育成への寄与、また、地域医療の確保などの役割が関西国際大学など、他の看護師養成機関との役割分担

のもとに継続して提供されるよう期待しているものでございます。

藤本百男議員

ありがとうございます。播磨看護専門学校についての県の積極的な評価と申しますか、認識を聞かせていただきました。今後とも学校運営、そして財政面についてもいろいろ積極的なご支援、よろしくお願いをしたいと思います。

2. 次の項目は、「播磨中央公園の整備と地域活性化」についてであります。

(1) その第1問は、サイクルステーションの整備と今後の活用についてであります。

9月補正予算で地域活性化拠点整備事業として、加東市にある県立播磨中央公園にサイクルステーションが整備されることになりました。この整備により、北播磨はもちろん、播磨中央自転車の終点であるいこいの村はりまがサイクルコースとして結ばれると、東播磨から北播磨の広いエリアでのロングライドが可能になります。また、県立播磨中央公園の玄関口ともなっているJR加古川線滝野駅を利用して、自転車をそのまま鉄道に持ち込めるサイクリトレインを走らせることができれば、播磨臨海の都市部から播磨内陸へのサイクリングコースに新たな選択肢が増えることになります。

県下では、ひょうごサイクリングモデルルートが策定され、アワイチ、コウノトリチャレンジライドルート、銀の馬車道・鉾石の道ルートなど八つのルートが造られ、これらのルート間の連携や近隣府県との広域連携も考えられており、サイクルツーリズムの更なる発展への期待が高まっているところです。

その中で、北播磨は鉄道やバスなどの公共交通のアクセスは決して便利な地だとは言えませんが、豊かな自然や国宝、日本遺産など歴史的文化的価値の高い名勝地も多く、また、鴨川ダムや昭和池を起点とする東条川疏水ネットワーク博物館の幹線水路、水路橋、サイフォン、

ため池などの各ポイント巡りや酒米の王様山田錦のふる里巡りなど、サイクリングによって可能となる新たな観光スポットの誕生も期待できます。

そこで、新たに整備される播磨中央公園のサイクルステーションが北播磨のみならず兵庫県のサイクルツーリズムの充実と地域活性化に寄与するものになっていくために円滑かつ効果的な整備、管理運営体制について、県としてどのように取り組んでいこうとしているのか、お伺いをいたします。

(2) この項の2問目は、播磨中央公園の今後の整備計画についてであります。

県立播磨中央公園は、加東市の北西部、播磨高野の呼び名で知られる光明寺のある五峰山の山麓、丘陵地に広がる公園で、緑と池、遊具や諸スポーツ施設、野外ステージなどがその中に点在し、県下有数の広さを持つ県立公園であります。

春は園内の千本桜の桜の園、秋にはバラ園のバラまつりと季節の花を楽しむ来園者でにぎわうほか、ふじいでんこうサイクルランドを訪れる家族連れ



や園内のロードレースコースでは加東市の伝の助マラソンなどの競技にも活用され、また、映画鋼の錬金術師のロケ地にもなったラクウシヨウの並木道は美しい紅葉で先日も神戸新聞の一面写真を飾った人気スポットでもあります。昨年度は年間約42万人余りの人が訪れ、県民に親しまれている都市公園であります。

一方、昭和53年8月の開設から41年が経過し、公園内の諸施設の老朽化、イノシシによる芝生広場の掘り起こし、鹿による花壇や草花の踏み荒らし被害が増えています。周辺の田んぼなどでもイノシシ被

害が出ていることから、囲い込みや捕獲を行っていただいておりますが、頭数は増えるばかりと聞いています。また、頻発する大雨や台風などによる樹木、土砂の流失などの被害も出ています。

野外ステージは、座席、芝生席も含めると1万5,000人が観覧できる立派な施設ですが、ステージ建屋の屋根などの老朽化や客席には屋根がないために天候に左右されるというリスクもあり、今も使用されているもののその頻度は減っているのが現状であります。

ちなみに、播磨中央公園の公式ホームページを開きますと、最新情報欄のところに、子どもの森の使用中止遊具及び通行禁止箇所についてということで子どもの小川ポンプ故障について、園内レストハウスの閉店についてなどの情報が挙がっています。特に子どもの森は、広い芝生の中で子供たちが遊具などでわんぱく遊びができる楽しい広場ですが、ローラー滑り台は使用禁止、ターザンロープ3本のうち2本が使用禁止、遊具から遊具へと移動する木製回廊は通行禁止となっており、幼児から、小学生など集団で訪れた子供たちが遊べる遊具がこのような状態では期待を裏切るものになっております。原因は老朽化と設置時期の安全基準が現在の基準に合わなくなっているためであります。

緑豊かな県立都市公園は、県民が直接ふれあうことのできる身近な自然環境を保持しており、健康づくりや環境学習、レクリエーションや癒やしなどの空間として、県民の生活の質の向上に大きな効果が期待されています。長い行財政構造改革の中、県立都市公園の予算は抑制されてきました。播磨中央公園の現状を見ると、使用が困難になっているテニスコートをサイクルステーションの整備によって再生することになり、大きな一歩が踏み出されたといえます。

J R加古川線、中国自動車道、国道175号などのアクセスのよさと周辺の観光名所とも近く、絶好の場所に位置する県立播磨中央公園が県民生活の質の向上の役割を果たしていくためには、大胆なりニューアル工事が必要だと考えますが、今後の整備について、お伺いをいたします。

井戸敏三知事

私から播磨中央公園の今後の整備計画についてお答えをいたします。播磨中央公園は、昭和53年に開園し、ピーク時には年間約47万人の来園者でにぎわいました。近年もサイクルランドを中心に約42万人の利用者が訪れており、北播磨を代表する都市公園です。

一方で、開園後41年を迎えたこの公園であります。開園時にオープンした野外ステージでひさしの劣化やコンクリートの剥離が見られております。また、トイレ等の施設でも老朽化が進んでいます。一部の遊具、ご指摘いただきましたが、安全柵のすき間の基準を満たさないなどから現在、使用を禁止しております。

これは、播磨中央公園だけではなく、ご指摘もありましたように県立公園全体の老朽化が進んでいるという実情がありますので、県立公園の再整備についての基本的な計画づくりを急ぐ必要があると考えております。

播磨中央公園の対策といたしましては、園内トイレの洋式化や設備内外装の更新を行う必要がありますし、使用禁止となっている遊具につきましては、利用状況を踏まえつつ、安全柵の取り換えなど、今年度より着手してまいります。

また、省エネに資する照明のLED化を推進しなければなりませんし、ご指摘の獣害対策であります。被害の多い芝生広場等を柵で囲うほか、猟友会と連携した箱わな等による捕獲も実施してまいります。

特に老朽化が著しい野外ステージであります。改修の検討もいたしますけれども、更に根本的に撤去して、新たな施設を整備することも視野に入れて検討したいと考えています。

また、公園の名所でありますバラ園の再整備も含めた公園全体のリノベーション計画の検討を進めてまいります。

今後ともリノベーションにより播磨中央公園が北播磨地域のみならず、県公園の代表として、文化、スポーツ、レクリエーションの核となる公園として愛され続けるように努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

出野上聡まちづくり部長

サイクルステーションの整備と今後の活用について、お答えいたします。

播磨中央公園は、これまでさまざまな自転車で遊べる広場や全長3キロのサイクルコースなどの施設が整備されている上、北播磨各市町の観光協会や県が推奨いたします自転車周遊ルートにも近接しております。

県では、こうした特色を生かし、利用者の健康増進はもちろん、交流人口の拡大を図るため、自転車を核とした施設整備を行うことといたしました。

具体的には、更衣室、トイレ、休憩スペースのほか、観光客が北播磨地域の名所を巡るためのレンタルサイクルコーナー、またツーリングなどを行う自転車愛好家のための組み立て整備スペース、更に観光協会などと連携し、サイクリングコース周辺の観光地等を紹介する情報提供スペースを備えたサイクルステーションを今年度中に整備いたします。

このステーションは、一つにはサイクル団体主催によるファミリーロードレース大会など、各種大会の起終点、二つには北播磨地域を自転車で巡り、地域の魅力を発見するスタンプラリーイベントの拠点、三つには地域内外から訪れるサイクリストが交流や親交を深める場などとして活用いたしまして、北播磨地域の多様な観光資源を生かした地域振興やサイクルツーリズムの推進に寄与してまいります。

サイクルステーションの利用促進を図ることによりまして、播磨中央公園がサイクルスポーツの拠点として地域活性化に一層資するよう努めてまいります。

藤本百男議員

知事からは、播磨中央公園の整備について、今年度からいろいろ取り組んでいただくというお話がありました。

野外ステージであります、もういっそのこと、やっぱり屋根があ

りませんので、天候によるリスクでやはりあそこでイベントを開くことが非常に皆さん危惧するということでもありますので、半円ドームぐらいのものを造っていただきますと、それぐらいのものを造っていただいたら、更に利用率が上がるのではないかというふうに思っております。



イノシシの害については、知事の一声で（周囲を）ぐるりと巻いていただきましたので、あれから播磨中央公園が県営のイノシシ飼育場になっていないというふうなことも証明できましたが、まだそれでも大きな被害が出ております。今後とも整備よろしくお願ひしたい。

サイクルステーションについては、造っていただくのはありがたいんですが、それが本当に今後とも効果的に運用されていくように、地元市との連携、あるいは観光協会との連携は大切ですが、県としてもその後の発信、その他、投資をしっかりとお願いしておきたい。

それでは、3項目の質問に入ります。

3. 心豊かで自立する人づくりを目指す兵庫の教育についてであります。

(1) その1問目は、教員の自覚、モラルの向上についてであります。

神戸市立東須磨小学校における教員間のいじめ事件をきっかけにして、他の学校現場でもいじめ被害を受けた教員が学校を休む、あるいは転勤を希望するなどの事例が相次いで報道されました。こうした一連の事件報道により、教員の人間性、学校内の人間関係、学校の組織、教育委員会と学校との関係の問題等が厳しく問われ、学校、教員、教育に対する社会、子供、そして保護者の信用が大きく揺いでおります。

県教育委員会関係者は、こうした教員間のいじめ事件に対して、教師としての自覚、モラルがないと指摘するとともに、教員自身がこうした教員同士のトラブル、ハラスメント等を報告しやすいような体制をつくる必要があると述べておられます。

しかし、そもそも教員は大学等で教職課程を学び、更に厳しい教員

採用試験という関門を突破し、その志や資質・能力等を評価されて、教員として子供たちの前に立っています。さらに採用された後は、経験・段階に応じた研修を重ねることにより、教員としての自覚や能力を高めているはずであります。にもかかわらず、こうした問題が起きているという現実をどう受け止めればよいのでしょうか。単にモラルがないと言っただけでは済まされない深刻な問題であります。

教員は子供の教育に携わることから、高い倫理性や豊かな人間性、使命感が求められます。そのため、教員はたゆまぬ自己の向上に努めることとされており、県教育委員会が行う研修にもそうした自己の人間性を高めるための内容が組みまれていることと考えますが、教師とは何か、望ましい教師像とは、といったことを教師自身が自己に問いかけ続けることで、教師としての使命感や誇りを高めていくことになるのは今も昔も変わりはないと考えます。聖職であることを捨て、労働者であることを強調してきた戦後の教師像の行き着いた結果が今回のような事件であったとすれば、厳しい反省が求められるところであると思います。

社会状況の急激な変化、子供の変化、親の変化、次々と打ち出される新しい教育等々、教員として身に付けるべき高い専門性や対応力など、教員に求められるものは多く、これに応じていくのは大変だということは理解できますが、その根の部分、根幹になる教師自身の豊かな人生観、人間観、教育観等を養うことこそが一番大切なことだと考えます。現代社会の各分野、企業、スポーツ、芸能等々、人間力の涵養を第一に人材育成に力を注いでいる中であって、子供の前に立つ教員こそ、それが最も求められると考えます。

時あたかも、加東市にある県立教育研修所の耐震工事がほぼ完成し、新しくなった施設で兵庫県の教員が研さんに励むことになっています。教育、教員への信頼を回復させ、兵庫の教育を更に向上させていくことになるとの期待を膨らませながら、今日も研修所の前を歩いて登庁したところです。

そこで、今回の事件を契機として、県教育委員会の行う研修におい

て教員の人間力等を高めるための研修を積極的に取り入れることが必要と考えますが、ご所見を伺います。

(2) その2は、不登校対策についてであります。

不登校の児童生徒の数は年々増え、平成30年度の文部科学省の調査では全国で小中学生の不登校生徒数は16万4,000人超となっています。兵庫県の公立学校においては、小学生1,873人、中学生5,736人、高等学校1,246人となっており、いずれも前年度に比べて大きく増加し、中学生は757人も増加しています。

こうした不登校児童生徒に対する対策、対応については、9月議会で我が会派の藤原昭一議員が質問し、教育委員会ではさまざまな取組を行っているとの答弁がありました。しかし、にもかかわらず不登校児童生徒の数は減るどころか増える一方であるという現状、これをまたどう受け止めればよいのでしょうか。

不登校の要因として、過去の新聞記事によると約10年前の平成19年頃には、学校での人間関係をうまくつくれないう、家庭の教育力の低下等で基本的な生活習慣が身につけていない、無気力で何となく登校しないといった子供が増加しているとともに、欠席を容認したり無理に行かせることはないといった親の意識の変化が挙げられていました。昨年度の文科省による児童生徒の問題行動調査においては、不安、無気力などが多く、学業の不振や人間関係などが挙げられています。

かつて、私が教員になってしばらく経った昭和50年代後半の頃、登校してこない児童・生徒を登校拒否という言い方をしておりました。そうした児童生徒に対する指導のあり方について、専門家のアドバイスなどを参考にしながら慎重に対応していた記憶があります。当初は、3日休んだら家庭訪問するなり、家の人に学校まで連れてきてもらうなり、強目の登校刺激をしていたように思います。そのうち、無理な登校刺激は不登校を長引かせることになるので、本人が登校しようという気になるまで辛抱強く待つといった対応に変わりました。さらに、保健室登校やスクールカウンセラーなどの導入により、担任の直接的

な関わりが薄くなったような感じがしていたことも記憶しております。いずれにせよ、そうした不登校に対する研究や実践の積み重ねにも関わらず、不登校の生徒は減るどころか、依然増え続けているのであります。

文部科学省では、本年10月に出した不登校児童生徒への支援のあり方についての通知の中で、これまでの学校に登校すること、すなわち学校復帰を目標とするものではなく、社会的自立を目指した指導の必要性を示しております。これは、平成27年に成立した普通教育機会確保法を背景としており、フリースクールなどの学校以外の学びの場を公が支援していこうとするものであります。

不登校の生徒への対応については、そうした児童生徒が学校以外の場や方法によって社会的自立を目指す支援が必要であると私も考えますが、その前に、まず学校の取組として大事なことは、児童生徒が学びの場としての学校に登校し、充実した学びや生活ができるようにしていくことだと考えるのであります。そして、不登校の兆しがある児童生徒を早期に発見し、学校として組織的に対応をしていくことが大切であり、学校の不登校対策、体制を整え、不登校になりかけている児童生徒に対する対応と指導によって不登校を出さない学校づくりを真剣に取り組んでいくことが大切だと考えます。

県教育委員会では、これまでもスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置、不登校担当教員の配置などを行い、不登校対策に取り組んできておられますが、これ以上不登校児童生徒を増やさないために、今後どのような学校づくり、学校の体制づくりを進めていこうとされるのか、お伺いをいたします。

(3) 最後の質問は、「ふるさと兵庫 魅力発見！」の活用についてであります。

平成31年4月から県下公立中学校に「ふるさと兵庫 魅力発見！」が配布され、総合的な学習の時間などで活用されております。この冊子は、兵庫県政150周年記念の事業の一つとして、教育委員会が兵庫

五国の歴史・伝統文化・産業・自然などの魅力を編さんしたもので、この1冊に、兵庫の魅力が満載されています。手にした中学生も楽しくふるさと兵庫の姿を知ることができるだろうと思っています。

かつて、私が中学校の社会科教師として勤めていたとき、地理的分野の学習で、身近な地域の兵庫県という単元を扱う際に、教科書には他府県の事例が掲載されているだけなので、兵庫県に関する学習を組み立てるには、資料探しや手製の資料づくりに随分苦労したことを思い出します。もし、この1冊があつたなら、生徒も興味・関心を持って楽しく学習できたのではないかとつくづく思うところであります。それほどよくできた冊子資料だと思うのであります。私の地元加東市に関するものでは、マスコットキャラクターのかとう伝の助くん、山田錦の主産地、播州針の産地、国宝朝光寺、鬮龍灘のアユ釣り解禁などが写真とともに取り上げられています。また、自ら調べを深めることができるように工夫されており、より深く調べをするためにインターネットで検索するためのQRコードもつけられています。県下の中学生がこの1冊の中にふるさと兵庫をいっぱい発見し、好きになってくれるものと期待が膨らんでおります。

この1冊で兵庫が好きになる。これは中学生だけが使うのはもったいなく、小学生高学年でも使えると思いますし、実は兵庫県民に読んでもらいたい必携の1冊であると思うわけであります。更に兵庫県以外の人にも兵庫県を知る必読の1冊として読んでもらいたいところです。道徳副読本ができたときも県民版を作成してはどうかと提案しましたが、実現しませんでした。

今回はぜひ、県民版を作り、多くの県民が手元に置いて活用してもらえようになればと思うのでありますがご所見をお伺いをいたします。



西上三鶴教育長

私から3問についてお答えします。

まず教員の自覚、モラルの向上についてであります。

教員は児童生徒の模範となる職業であり、ほとんどの教員は使命感と高い倫理観を持ち、豊かな人間性の涵養に努め、日々研究と修養に取り組んでいます。しかし、神戸の事案により、教員全体の信用が損なわれたことは遺憾であり、早期の信頼回復に向けての取組を期待しているところであります。

県教育委員会といたしましては、どのような職場にあっても何らかの人間関係のトラブルは避けられないとの前提のもと、教員へのモラルへの呼びかけだけでなく、ハラスメントへの理解を深める指針の策定やこのたびの女性活躍ハラスメント規正法の制定を踏まえた改定を行います。また、研修を行う一方で、教員間で問題が発生した場合には早期に解決できるよう、上司、同僚や相談窓口への相談を呼び掛けております。また万が一、事案がハラスメントと確認された場合には、厳正な処分を行うこととしております。いずれにしましても、管理職が中心となりまして、教員が相談しやすい風通しのよい職場づくりに取り組んでまいります。

また、教育に対する熱意ややりがいを持つ教員の採用がやはり重要でございます。このため、現在、選考試験におきましては、知識、授業を行う技能と合わせて人間性と資質を重視した面接を行っておりますが、この中で児童生徒にどう教育をしたいかとの思いとともに、教員を志す動機となった児童生徒に伝えたい実体験があるか、その内容も含めて確認をしていきたいと思っております。

なお、神戸市が今回の事案の背景を明らかにする中で県としても取り組むべきものがございましたら検討してまいりたいと思っております。

今後とも教員の人間性等を高める育成の取組を総合的に進めてまいります。

2点目は、不登校対策についてであります。

不登校児童生徒の増加の背景には、従来から言われております学業

不振、家庭の問題、無気力など生徒自身に関する問題に加えまして、1つとして、学校を休むことも必要とする学校の指導方針の変化、これはいわゆる皆勤賞の見直しとか廃止の動きがあるという新聞報道にあったのにも現れてきてまいりました。また、2点目として、インターネットを利用した新たな居場所の出現、3点目は、保護者の選択肢の多様化など、社会状況の変化もあり、増加の原因を特定するのは極めて難しい状況でございます。

今回、国から不登校対策の目標が学校復帰ではなく、社会的自立と示されましたが、学校は、社会的活動や自然体験活動、教科学習、スポーツ活動や芸術活動、そして集団活動を行うことを通じて、社会で自立的に生きる基礎を培っております。学校復帰することが将来的な社会復帰の近道だと考えております。平成30年度に不登校となった公立小中学生7,609人のうち48.7%に当たる3,705人が家庭訪問等を行うことで、登校、または登校に至らないものの好ましい変化が見られております。

このほか、学級担任のみでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどを活用して支援計画を立て、別室登校を促すとともに、新たな不登校を生じさせないため、児童生徒の学校内の居場所づくりや学習指導の工夫改善により、子供たちが通いたくなる魅力ある学校づくりに向けた取組を進めているところでございます。

今後は、このような取組に加えまして、今年度末に作成をいたします民間施設に対するガイドラインに基づき、フリースクールなどの民間施設を活用した不登校児童生徒への支援を図るなど、子供たち一人ひとりの状況に応じてきめ細やかに対応してまいります。

3点目は、「ふるさと兵庫 魅力発見！」の活用についてであります。

「ふるさと兵庫 魅力発見！」では、県議会からもさまざまなご意見をいただきながら作成をいたしました。身近にある自然、産業、伝統等について、単なる紹介だけではなく、その背景等も簡潔に解説することで、新たな発見や認識が生まれ、ふるさとのよさに改めて気づき、ふるさとへの愛着を感じられるようにしたところでございます。

各学校におきましては、1つとして、社会科で播州針や播州織など地場産業が地域に根差している背景や発展に向けた取組を学習する。また2点目として、修学旅行の事前学習で島田叡について調べたり、現地の方に兵庫のことを紹介する際に活用するなど、幅広い活用がなされており、このことから、「兵庫県の産業や歴史にさまざまな人がかかわっていることを初めて知った」などの感想が児童生徒から聞かれておりますし、休み時間等には進んで手に取って読書する生徒の姿が見られております。

県民向けには、県立図書館など県立施設をはじめ、市町立図書館、公民館など、県内153カ所で閲覧をすることができます。また、37カ所の図書館では、貸し出しも行われております。「できるだけ早く販売してもらいたい」、「どこに行けば手に入るのかな」どの問い合わせもありましたことから、更に多くの方に兵庫の魅力を感じてもらうことができますよう来年度中には県内書店での販売ができるよう現在準備を進めているところでございます。

今後とも中学生を初め、県民のふるさと兵庫への愛着が深められますよう、毎年度改定を行いながら、「ふるさと兵庫 魅力発見！」の更なる活用を図ってまいりたいと思います。県議会の先生方もぜひいろいろな場面で推薦をいただければというふうに思っております。

藤本百男議員

再質問を一ついたします。

教師の人間力、あるいは人間味、人生観、教師の人間力を高めるための研修をしてはどうかと、研修内容にそういう中身をもっと増やすべきではないかというのが私の質問の趣旨でございます。

ハラスメント対策とかいろいろ風通しのいい職場づくり、これも大事であります。それから採用試験において、そう



いう教師を採用することも大事であるけれども、教師がこの忙しい中で、やはり自分というものをもっと見詰め、そして教育愛とか、あるいは豊かな世界観とか人生観とか社会観とか歴史観とか、そういうものをじっくり養うことができるような枠を県教委がやっておられる年次研修なんかの中にしっかりととられたらどうかというふうな提案なのであります。

いろいろ退職校長なんかに聞いておきますと、そういうあんまり研修内容はないなというふうに聞いております。

そのことについて、ご答弁願います。

西上三鶴教育長

兵庫県におきましては、管理職には管理職、また一般の教員には一般の教員向けの資質向上指標、またそれに基づきましての研修計画というのを立てております。

この中でもハラスメントを含めた研修を行っているところではありますけれども、令和2年度のこの研修計画におきまして、今回のようなハラスメント対策にもつながる研修については、先般、この研修の協議会もありましたので、その中でこういった取組が必要かということを検討していただくようお願いしたところでございます。

来年度、そういった中で不足するものがあれば、新たに令和2年度の研修の中で取り組んでまいりたいと思っております。

引き続きのご指導、よろしく願いいたします。

藤本百男議員

どうもすれ違っているようでありますが、私はハラスメント対策をお聞きしているのではなくて、教員自身がもっと自己の内面を豊かにすることができるような内容を持った研修をこれからも積極的に取り入れていっていただきたいなという思いであります。

来年度の研修の中にぜひそういう内容を加えていっていただきたいというふうに思います。

もう一つコメントであります。不登校、これ以上不登校の子供を出さないようにするため、いろいろ質問の中でも言ってきました。過去いろいろ方法についても変遷もありましたが、なかなか効果が出ておらないというのが現状ではないかと思えます。そんな中でも、学校によっては不登校の子供を激減させた、あるいはないという学校もいるわけです。いじめと違って、これはしっかりと数字で出てまいります。そういった先進校、あるいはしっかりと取り組んでいる学校の実例等も参考にしながら、ぜひとも兵庫県では、不登校をこれ以上出さない、減らしていくんだというふうな真剣な取組をお願いをして、質問を終わります。

関西広域連合議会本会議での一般質問

6月臨時会

令和元年7月7日（兵庫）



兵庫県議会の藤本百男であります。関西広域連合議会での初めての質問の機会となりました。よろしくお願いいたします。

先月末、日本が初めての議長国となったG20大阪サミットが開催され、会場となった大阪のみならず、関西を世界に向けて発信する好機となりました。そのことは、関西広域連合にとっても有意義であったと受け止めています。

中でも、今回のG20では、深刻な汚染が問題となっている海洋プラスチックごみ問題に対して、その削減をめざす国際枠組みの創設が決まり、取り組みを始めることになったことは大きな意義があったと考えます。

そこで、この海洋プラスチックごみ問題に対する、広域的な取り組みと次なる大阪・関西万博に向けた観光戦略の2問についてお尋ねします。

まず第1問は、海洋プラスチックごみ問題に対する広域的な取組についてであります。

海洋プラスチックごみは、現在、全世界では年間数百万トンを超える量が、また、日本国内では年間2万～6万トンが流出していると推計されています。そのために、地球規模での環境汚染による生態系等への悪影響が懸念されているところです。

冒頭で申し上げたように、今回のG20大阪サミットにおいても議題の一つとなるなど、世界的に重要な課題と認識されています。政府も5月31日の関係閣僚会議において「海洋プラスチックごみ対策

アクションプラン」を策定するとともに、スーパーやコンビニなどのレジ袋を早ければ来年4月1日から有料化するために法整備の検討を始めるなど対策を急いでいるところです。

関西における海洋プラスチックごみの状況としては、陸で発生したプラスチックごみの一部が回収されずに、雨風に流されるなどしたものが、琵琶湖・淀川流域や大和川、加古川、吉野川等の主要な水系を通じて大阪湾・瀬戸内海に流出していると考えられています。

まずは、海への流出を抑制するため、3R運動（リデュース・リユース・リサイクル）をベースとした家庭・事業者からの分別回収の徹底や、ポイ捨て・不法投棄の防止のための普及啓発活動や地域における清掃活動に、積極的に取り組んでいくことが必要であると考えます。また、海へ流出してしまったプラスチックごみについて、海岸管理者や地元漁協等の協力を得ながら、漂着ごみ・海底ごみの回収・処理を行う体制を構築することも重要であります。

さらには、マイバッグやマイボトルの持参運動を促進するなど、レジ袋やペットボトルの発生を社会全体で抑制していくための機運を醸成することも必要ではないでしょうか。

海洋プラスチックごみ問題は、陸地から各水系を通じて海域に至るまで、排出経路が広範囲となっていることから、個々の地方自治体の取組だけでは十分でなく、自治体間や住民、事業者、業界団体等が連携・協力し、広域的な対応が必要と考えますが、ご所見をお伺いします。
第2問は、大阪・関西万博に向けた観光戦略についてであります。

大阪・関西万博が開催される2025年に向けて、今回のG20大阪サミット、そして、今秋のラグビーワールドカップ、来年の東京オリンピック・パラリンピック、21年のワールドマスターズゲームズ2021関西と、国際的なイベントが続き、世界中の人々が日本、関西に注目することになります。

多数の訪日観光客が期待できる、これらイベントを絶好の機会と捉え、関西のもつ豊かな歴史、文化、特産品、食などの魅力を世界に積極的にPRし、広域観光圏関西のブランド力を高めていく必要がある

と考えます。

関西広域を周遊する外国人旅行者について、その動態把握等を目的として、関西観光本部が昨年度に実施したマーケティング調査によりますと、大阪市・京都市に宿泊して、日帰りで他のエリアを訪問する周遊パターンが全体の41%と最も多く、次いで、大阪市・京都市のみの訪問が25%となっており、関西における外国人旅行者の多くが宿泊先として大阪市・京都市を選ぶ傾向が明らかとなっています。

こうした傾向に対して、外国人旅行者に関西を広く周遊し、かつ長く滞在してもらい、関西全体で観光・文化振興が図られるよう、戦略をしっかりと練る必要があると考えます。

関西には文化財保護法に基づき指定・登録等された国宝・重要文化財の約5割が集積しているほか、多数の世界遺産や日本遺産が点在しています。今朝も堺市の百舌鳥・古市古墳群の世界遺産決定というニュースが報じられました。

これら豊富な文化遺産をネットワーク化するとともに、ソフト・ハード両面の整備を進めることで、関西を周遊してもらうための新たな観光ルートを構築していかなければなりません。

例えば、本年5月に日本遺産に追加認定された「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」は、滋賀県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県にまたがる日本遺産ですが、外国人旅行者向けに、巡礼道の歴史・文化の掘り起こしを行うなど、広域的な周遊が図られるよう積極的な活用を図っていくべきではないでしょうか。ちなみに私の地元兵庫県加東市には25番霊場の播州清水寺があり、日本遺産認定によって、京都から丹波篠山市、加東市、加西市を経て、世界遺産のある姫路市につながる日本遺産世界遺産の道が新たに開けました。まさに府県をまたぐ巡礼、祈りの道であり、沿道には国宝や重要文化財なども多く存在しています。これらを結びつけ、新たな周遊ルートをつくっていくことが必要だと考えます。

また、日本遺産など外国人旅行者を魅了するコンテンツの育成に加え、観光案内板等の多言語化、無料公衆無線LANの整備、観光地に

おけるキャッシュレス対応、交通機関の共通チケットの拡充等、受け入れ体制の整備促進も図るべきと考えます。

そこで、大阪・関西万博を見据えた今後の観光戦略について、オール関西として具体的にどのような取組を進めていこうとされるのか、ご所見をお伺いします。

3月定例会

令和2年3月1日（大阪）



新型コロナウイルス肺炎感染症の拡大により、外国人観光客が激減し、観光地の景色がこれまでとは一変したのになっています。そうしたなかですが、こうした時にこそ、関西の広域的なインバウンド観光振興について考えてみたいと思います。

1. 外国人観光客の広域周遊に向けたジオパークの活用について

関西におけるインバウンドは、すでに指摘されているところですが大阪・京都に集中している状況です。しかし、大阪・京都以外にも、関西各地には、目立ってはいないかもしれないが、確かな魅力を有する観光資源が多く存在していることは言う間でもありません。こうした認知度が決して高いとはいえない観光資源にもスポットライトを当て、それらをつなぎ合わせるなどにより、関西全域にインバウンドの効果を波及させるような広域的な観光振興の視点が重要だと考えます。

関西広域連合の管内には、京都府・兵庫県・鳥取県にまたがり、世界ジオパークの認定を受けている「山陰海岸ジオパーク」と、和歌山県に存在する日本ジオパークである「南紀熊野ジオパーク」という2つのジオパークがあります。

両者では、科学的にも貴重な地質や地形を間近で観察できるのは勿論のこと、温泉やアクティビティなども楽しめる数多くの見所（ジオ

サイト)を有しており、その魅力をしっかりPRすれば、多数のインバウンドを呼び込めるポテンシャルは十分にあると考えるところです。昨年、兵庫県の山陰海岸香住港から海上タクシーに乗船し、日本海からジオパークの海岸を見学する機会がありましたが、奇岩、洞門などの海からしか体験できないジオパークの絶景を満喫し、新たな観光の目玉になるのではという期待をもったところです。

先日、九州地方のとあるジオパークでは、「費用負担が大きい割に、交流人口の拡大につながらない」として、日本ジオパークの認定を返上する動きがあるという報道がありました。関西に存在する2つのジオパークが将来的にこのような状況に陥るとは考えていませんが、インバウンドの効果をきちんと取り込むためにも、ジオパークの魅力を適切に海外に発信するとともに、受け入れ環境の整備促進など必要な対策を進めることが重要だと考えます。

東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ関西、2025大阪関西万博などを控え、外国人観光客を広域に周遊させるために、ジオパークの活用に関西広域連合としてどのように取り組んでいくのか、これまでの取組の振り返りと、今後の展望についてお伺いします。

2. 関西の豊かな自然を活かしたエコツアー体験事業の今後の展開等について

関西広域連合では、平成28年度に、関西地域における生物多様性の保全に重要な23の地域を「関西の活かしたい自然エリア」として選定するとともに、その自然エリアの魅力を発信し、保全・活用するための施策として、行政、活動団体、旅行会社等を対象としたエコツアー体験事業を実施しています。

それまで、各府県毎に生物多様性の保全・活用に取り組んできたものを、森・川・海のつながりを重視して、府県域を超えた広域的な取り組みに発展させたことは、広域行政を担う関西広域連合の機能が十分に発揮されたものだと言えます。

関西広域連合が作成している『ツアー企画者のためのエコツアー設計の手引き』によれば、「エコツアーとは、単なる自然巡りではなく、ツアー参加者が自然の魅力、歴史や文化など人の営みに触れながら、それを守っていくことの重要性を知り、自分の暮らしのあり方に落とし込みたくなることをめざしている」とされています。

これまで、琵琶湖・淀川水系（平成29.2）、北摂・南丹（平成29.9）、紀伊水道とその沿岸（平成30.10）、そして、東播磨・北淡路（令和元.10）と4回にわたり、各自然エリアでエコツアー体験事業を実施してきました。4回目の東播磨・北淡路は私の地元でもあり、全国一のため池がある兵庫県内でも特にため池が多い瀬戸内式気候の地域のため池群と湿原の水辺環境と生物多様性をテーマに実施されています。東播磨、北播磨のため池群は、それらを結ぶ疏水によって貴重な水のネットワークが結ばれており、こうした疎水文化を守ろうという取り組みも行われていますが、今回は疏水の観点は盛り込まれていなかったようで少し残念に思いましたが。

そこで、地域の活動団体や旅行会社等におけるエコツアーの造成の機運や、参加者等における生物多様性の保全の機運は、実際にどの程度高まっているのか、エコ体験事業を実施した手応えやそこで判ってきた課題等があれば、お示しいただきたい。

また、これまでの実績等を踏まえ、関西広域連合として、エコツアー体験事業に「ついてどのような」展開を図ろうとしているのか。最近はSNSが普及していることもあり、旅行会社だけでなく、多数のフォロワーを有するインフルエンサーと協働することなども検討してはどうかと考えますが、今後の展開をお伺いします。

令和元年6月～令和2年5月の主な活動記録

月	日	曜	活 動 内 容
6月			
6月1日	土		滝野中学校オープンスクール 東播磨文化団体連合会総会
6月2日	日		
6月3日	月		兵庫県LPガス協会総会 県庁執務
6月4日	火		兵庫県土地改良事業連合会北播支部総会
6月5日	水		加東事務所 加東農林振興事務所長説明
6月6日	木		朝起会
6月7日	金		
6月8日	土		
6月9日	日		日本ソフトボール協会70周年祝賀会(東京)
6月10日	月		自民党議員団政調理事會 県庁執務
6月11日	火		うれしの生涯大学講座で講演(酒米研究交流館)日本会議兵庫北播磨役員会 4期目の任期開始
6月12日	水		社小学校オープンスクール
6月13日	木		第345回定例県議会開会 加東市経済懇話会総会
6月14日	金		県立社高校評議員会
6月15日	土		末松信介セミナー 米田小学校オープンスクール
6月16日	日		自民党兵庫県連大会 県連政調会長に就任 加東市消防操法大会
6月17日	月		
6月18日	火		本会議
6月19日	水		本会議 (代表質問日) 社高校尚友会野球観戦
6月20日	木		本会議 (一般質問日) 文化振興議連等 けやき会
6月21日	金		本会議 (一般質問日)
6月22日	土		関西広域連合議会全員協議会
6月23日	日		日本会議兵庫北播磨支部総会・講演会 (加瀬英明氏)
6月24日	月		産業労働常任委員会 MOA議連総会 巳年の会
6月25日	火		本会議(閉会) 保育交流会
6月26日	水		加東市防犯協会総会 北播磨の地域政策を語る会
6月27日	木		みのりJA女性会県庁見学 自民党加東市支部幹事会
6月28日	金		加東事務所
6月29日	土		やしろ歴史研究会 自衛官募集相談員東播連合会総会

Ⅳ 令和元年6月～令和2年5月の議員活動記録一覧

6月30日	日	加東混声合唱団演奏会
-------	---	------------

7月

7月1日	月	初日会
7月2日	火	加東L. C. 例会
7月3日	水	加東市ゴルフ協会総会
7月4日	木	第25回参議院議員通常選挙公示
7月5日	金	社高校生活科学と東条川疏水を巡る かだ裕之街頭演説会（三木）
7月6日	土	加東市長旗争奪少年野球大会 加茂こども園夏まつり
7月7日	日	関西広域連合議会臨時会（兵庫県議会）一般質問に登壇
7月8日	月	かだ裕之事務所（一日）
7月9日	火	嬉野台生涯教育センター創立40周年式典 かだ選挙カー（加東市）
7月10日	水	播州清水寺住職と知事表敬訪問 県庁執務
7月11日	木	自民党政談演説会総決起大会 田中章弘先生お別れ会
7月12日	金	加東事務所
7月13日	土	佐藤のぶゆき決起大会（神戸）
7月14日	日	北播消防ソフトボール大会 安倍晋三総裁街宣（神戸）
7月15日	月	日本会議兵庫県本部総会（淡路）
7月16日	火	かだ裕之選挙カー（加東市） 加東L. C 例会
7月17日	水	産業労働常任委員会 エメックス講演会（神戸）
7月18日	木	やしろ歴史民俗研究会移動研修（岡山県方面）
7月19日	金	加東事務所
7月20日	土	宮崎まさお街宣（加東市） かだ裕之街宣（神戸市）
7月21日	日	参議院議員投開票日 日本政策研究センターセミナー（京都市）
7月22日	月	加東事務所 加東警察署副署長来所
7月23日	火	加東事務所 御大神宮社清掃作業
7月24日	水	忠魂碑清掃
7月25日	木	御大神宮祭（中田町） 岩根加東市副市長来所
7月26日	金	県中学総体開会式 国道175号整備促進大会
7月27日	土	道の駅とうじょうスイカまつり 上田天神夏祭
7月28日	日	佐保神社秋祭り実行委員会 忠魂碑清掃
7月29日	月	加東土木事務所
7月30日	火	警察常任委員会管内調査（加東警察署）
7月31日	水	加東L C 献血例会（加東市役所）

8月

8月1日	木	県庁執務
------	---	------

8月2日	金	加東事務所
8月3日	土	国際ソロプチミスト北播磨サマーフェスティバル（LOCホール） わかあゆ夏まつり 光明寺地区、稲尾地区盆踊り
8月4日	日	「多面的機能支払交付金地域活動発表会」（小野エクラ） 子ども会オセロ大会（加東市）
8月5日	月	加東事務所 市内各所回り
8月6日	火	産業労働常任委員会管内調査①（東播淡路地区）
8月7日	水	産業労働常任委員会管内調査②地域開催（小野市） 加東市花火大会（東条湖） 加東L.C家族例会
8月8日	木	自民党県議団政調会① 産業労働懇談会（神戸市）
8月9日	金	自民党県議団政調会② 社地区区長会 県議団県庁整備検討委員会 自民県議団政調理事会
8月10日	土	加東事務所
8月11日	日	加東事務所
8月12日	月	加東事務所
8月13日	火	加東事務所 貞守地区、薮地区夏まつり
8月14日	水	加東事務所 河高地区盆踊り
8月15日	木	加東事務所
8月16日	金	加東事務所 高岡地区、黒谷盆踊り
8月17日	土	加東事務所 市内回り
8月18日	日	山国地区盆踊り
8月19日	月	加東事務所
8月20日	火	加東LC例会 加東事務所
8月21日	水	県庁執務
8月22日	木	関西広域連合議会全員協議会（本部）
8月23日	金	加東事務所 新町地区、吉馬地区盆踊り
8月24日	土	下滝野地区、横谷地区盆踊り 社おにわ亭
8月25日	日	織物感謝祭（西脇機殿神社）
8月26日	月	関西広域連合議会連携協議会 県議会政策法務研修
8月27日	火	自民党議員団総会・総務部会
8月28日	水	自民党加東市支部・後援会合同例会 加東市内回り
8月29日	木	関西広域連合議会定例会
8月30日	金	関西広域連合議会管内調査（堺市）
8月31日	土	加東市夏まつり 加東市人権啓発講演会

Ⅳ 令和元年6月～令和2年5月の議員活動記録一覧

9月

9月1日	日	神戸大学医学部医学科創立75周年式典 天神八朔祭り
9月2日	月	初日会 加東事務所
9月3日	火	知事への重要政策提言（自民政調理事会） 加東LC例会
9月4日	水	加東事務所
9月5日	木	総務常任委員会管内調査（北播磨県民局）出席 加東市内回り
9月6日	金	加東市シニアクラブ滝野支部グラウンドゴルフ大会 市内回り
9月7日	土	日本女子ソフトボールリーグ豊岡大会（但馬ドーム）
9月8日	日	日本空手道ジュニア新人選手権大会 上福田地域敬老会 加東歴史の会例会
9月9日	月	県庁 各種友好団体との意見交換会打合せ（政調会長室） 加古川流域内水面漁協との懇談（東条湖畔）
9月10日	火	北播磨地域普及事業推進懇談会 市内回り
9月11日	水	産業労働常任委員会管内調査（但馬丹波地区）①
9月12日	木	産業労働常任委員会管内調査（但馬丹波地区）②
9月13日	金	産業労働常任委員会管内調査（但馬丹波地区）③ 社地区防災研修会（明治館）
9月14日	土	加東市内3中学校体育大会 関西広域連合議会産業常任委員会（京都府議会）
9月15日	日	米田地域ふれあい長寿を祝う会（嬉野台生涯教育セ）
9月16日	月	第45回和心書道展 加東事務所
9月17日	火	産業労働常任委員会 自民党議員団総会、政調理事会 議員団内県庁舎等再整備検討委員会 総務部会政策委員会
9月18日	水	加東事務所
9月19日	木	自民党県議団と友好団体の意見交換会①
9月20日	金	自民党県議団と友好団体の意見交換会② 北播政経懇話会・金澤副知事講演（フラワーセンター）
9月21日	土	日本女子ソフトボールリーグ尼崎大会（ベイコム球場）
9月22日	日	加東市内小学校運動会 播州音頭踊研究発表会（滝野文化会館）
9月23日	月	加東市山田錦乾杯まつり（ステラパーク）
9月24日	火	第345回定例県議会開会 議員団総会 政調理事会 文化振興議員連盟役員と文化団体との意見交換会
9月25日	水	加東事務所 市内回り 社上組太鼓屋台保存会会議
9月26日	木	加東事務所 有志懇談会（兵教大附属中OB教官）
9月27日	金	本会議（代表質問日） 加東美術協会展

9月28日	土	市内こども園運動会 藤井信孝氏黄綬褒章受章祝賀会
9月29日	日	加東市ふれあいパークゴルフ大会 長田運輸感謝の集い
9月30日	月	本会議（一般質問1日目） 関西広域連合議会議員打合せ

10月

10月1日	火	本会議（一般質問）
10月2日	水	本会議（一般質問） 自民県議団総会 加古川土地改良事務所来庁
10月3日	木	産業労働常任委員会
10月4日	金	本会議（表決） 団総会 政調理事会 いのちを守る会来庁 兵庫県観光振興議連（意見交換会）
10月5日	土	関西広域連合議会総務常任委員会（大阪） 加東市小学生陸上競技大会 加東市立みらいこども園運動会
10月6日	日	朝起会（実践倫理宏正会） 上鴨川・牧野・黒谷秋祭り
10月7日	月	県庁執務 日台議員連盟（中華民国国慶日）
10月8日	火	佐保神社秋祭り実行委員会
10月9日	水	加東事務所
10月10日	木	加東市立社小学校で授業
10月11日	金	東・北播磨学ぶ高齢者大会（加東市） 兵庫県地域安全県民大会（公館） 佐保神社秋祭り社上組屋台宵宮前夜祭
10月12日	土	台風19号接近通過のために宵宮太鼓巡行・演芸会中止
10月13日	日	佐保神社秋祭り本宮
10月14日	月	加東事務所
10月15日	火	加東事務所 加東L. C. 例会
10月16日	水	加東事務所 佐保神社明神講秋の例祭 社高校役同窓会会員
10月17日	木	加東事務所
10月18日	金	加東事務所 兵庫教育大学来所 社高校同窓会打合せ
10月19日	土	社地域「長寿を祝う会」 滝野天理愛児園運動会
10月20日	日	自民党兵庫県連政経パーティー 家庭バレーボール大会 北野地区敬老会 新町地区敬老会 河高コスモスマつり
10月21日	月	加東事務所
10月22日	火	天皇陛下即位礼 加東事務所
10月23日	水	東条コスモス杯ゲートボール大会 県庁執務 県庁稲門会
10月24日	木	東播磨地域文化を考えるシンポジウム（高砂市）
10月25日	金	本会議（閉会） 自民党県議団総会 スポーツ振興議連説明会 自民党議員団日本遺産の会総会
10月26日	土	北播磨ふれあいフェスティバル 加東市秋のフェスティバル

Ⅳ 令和元年6月～令和2年5月の議員活動記録一覧

10月27日	日	加東市秋のフェスティバル 下滝野地区敬老会
10月28日	月	産業労働常任委員会 自民党県議団総務部会
10月29日	火	加東事務所 加東市内地区回り
10月30日	水	全国戦没学徒慰霊祭（南あわじ市） 看護連盟との意見交換会
10月31日	木	産業労働常任委員会管内調査（阪神）①

11月

11月1日	金	産業労働常任委員会管内調査（阪神）②
11月2日	土	関西広域連合議会全員協議会（大阪市）
11月3日	日	ふれあい球技大会 加東市文化連盟祭 東条川疏水ボートで探検
11月4日	月	關竜少年野球クラブ創立40周年記念大会 河高地区敬老会 自民党加東市支部幹事会
11月5日	火	うれしの生涯大学学園祭 関西広域連合連携協議会 自民党県議団総会 大関貴景勝激励会（神戸市内）
11月6日	水	井戸知事に対する令和2年度予算申し入れ
11月7日	木	美しい日本の憲法を守る県民の会役員会 県庁執務
11月8日	金	北播磨地域づくり懇話会（県民局） ふじもと百男後援会ゴルフコンペ
11月9日	土	加東市金婚夫婦を祝う会 佐保神社上組太鼓保存会帳破り
11月10日	日	ふれあい球技大会 加東フィル定期演奏会（LOCホール）
11月11日	月	第20回兵庫りぶるの会（神戸市） 県庁執務 花緑議連研修会
11月12日	火	県庁加東クラブ総会（神戸市内）
11月13日	水	産業労働常任委員会管外調査①岐阜県
11月14日	木	産業労働常任委員会管外調査②岐阜県
11月15日	金	産業労働常任委員会管外調査③愛知県
11月16日	土	加東市立社小学校ごりょうが丘フェス 県農林水産技術総合 センター公開・県立農大校学園祭 加東安全安心の町づくり大会
11月17日	日	兵庫県知事表彰式（滝野文化会館） 加東事務所
11月18日	月	北播磨地域子育て応援ネット交流大会 新生兵庫講演会（神戸）
11月19日	火	産業労働常任委員会 自民党宅建議連 県庁執務
11月20日	水	ワークライフバランス企業表彰式 県庁執務 社二十日会
11月21日	木	関西広域連合議会11月臨時会（大阪市）
11月22日	金	自民党土地改良推進議連でため池対策のため国へ要望（東京）
11月23日	土	東条川疏水ネットワーク博物館会議（やしろ国際学習塾） 天皇陛下御即位を祝う兵庫県民の会（県公館）
11月24日	日	兵庫県ソフトボール協会常任理事会 加東事務所
11月25日	月	兵庫県議会スポーツ振興議員連盟管外調査①

11月26日	火	兵庫県議会スポーツ振興議員連盟管外調査② 議員団総会 警察部会 政調理事会
11月27日	水	加東事務所
11月28日	木	日本遺産を守る議員の会勉強会 県庁執務
11月29日	金	自民党加東市支部秋の移動研修会
11月30日	土	兵庫教育大学附属幼稚園研究会 兵庫県土地改良推進議連

12月

12月1日	日	加東市子連協子ども会親善サッカー大会 東福寺弁財天祭 内藤兵衛県議政策セミナー（西脇市）
12月2日	月	加東事務所
12月3日	火	第346回定例県議会開会 県議会政調懇話会 日印友好議連
12月4日	水	県商工会連合会と自民党商工議連の行政懇談会
12月5日	木	県庁執務 「兵庫の教育」懇談会 社高校同窓会役員会
12月6日	金	本会議 （代表質問日） 質問準備
12月7日	土	加東市長杯中学親善野球大会 加東みらいこども園音楽会 道の駅とうじょう感謝祭 末廣流いけばな展 うれしの生涯大学学友会加東支部作品展 社3区親善ボーリング大会
12月8日	日	右手首骨折（7日夜）のため自宅静養
12月9日	月	本会議 一般質問に登壇
12月10日	火	本会議 （一般質問日） 文化振興議連役員と当局意見交換
12月11日	水	産業労働常任委員会 （付託議案審査） 日本会議北播磨支部
12月12日	木	骨折治療受診（大山病院） 自宅静養
12月13日	金	本会議 （閉会）
12月14日	土	加東市赤穂義士祭 関西広域連合議会産業環境常任委員会
12月15日	日	自宅静養
12月16日	月	自宅静養
12月17日	火	産業労働常任委員会 （閉会中の調査事件） 自民党役員会議
12月18日	水	右手首手術（大山病院） 自宅静養
12月19日	木	北播磨看護連盟役員との意見交換会
12月20日	金	加東事務所
12月21日	土	加東事務所 市内を回る
12月22日	日	関西広域連合議会全員協議会 （大阪） 加東市ロードレース大会
12月23日	月	加東事務所
12月24日	火	加東事務所
12月25日	水	加東事務所 社高校同窓会役員会

Ⅳ 令和元年6月～令和2年5月の議員活動記録一覧

12月26日	木	県庁事務整理 自民党県連本部
12月27日	金	加東事務所仕事納め
12月28日	土	加東市消防団年末警戒開始式 加東事務所
12月29日	日	加東事務所
12月30日	月	加東事務所
12月31日	火	加東事務所 大晦日持寶院除夜の鐘

令和2年1月

1月1日	水	元朝式（実践倫理宏正会） 各地区初集会挨拶回り
1月2日	木	佐保神社初詣 持寶院年賀
1月3日	金	各地区初集会挨拶回り 社農会初総会
1月4日	土	初日会（東条）
1月5日	日	加東伝の助かるた大会 子連協新春書き初め大会
1月6日	月	加東事務所
1月7日	火	新年保育のつどい（神戸市）
1月8日	水	自民党政務調査会① 日台議連 健康福祉部会
1月9日	木	自民党政務調査会② 社会保険労務士会賀詞交換会 自民党県議団新年懇親会
1月10日	金	自民党政務調査会③ 自民党加東市支部役員会
1月11日	土	関西広域連合議会総務常任委員会、産業環境常任委員会
1月12日	日	加東市新成人のつどい 各地区初集会挨拶回り「
1月13日	月	社3区中田町初集会 各地区初集会
1月14日	火	東条川疏水関連施設巡り（取材同行） 社高校尚友会会報校正
1月15日	水	産業労働常任委員会、特定テーマ研究 議員団内県庁整備検討委員会
1月16日	木	青野原駐屯地連合会新春互礼会 自民党議員団勉強会（県庁）
1月17日	金	阪神・淡路大震災25年追悼式典（県公館） 自民党銀団総務部会、文教部会
1月18日	土	加東市連合婦人会新春のつどい 加東事務所
1月19日	日	加東伝の助マラソン大会 各地区初集会挨拶回り
1月20日	月	自民党県議団総会 建設部会 観光振興議連
1月21日	火	農政環境常任委員会管内調査（北播磨県民局） 加東LC例会 善龍院初庚申祭
1月22日	水	加東事務所
1月23日	木	県庁政務調査 美しい日本の憲法をつくる兵庫県民会議
1月24日	金	社高校体育科課題研究発表会
1月25日	土	加東市体育協会新年会
1月26日	日	加東軟式野球協会総会 各地区初集会挨拶回り

1月27日	月	滝野南小県庁見学 兵庫県宅建協会新年会（神戸市） 兵庫県看護連盟新年会（神戸市）
1月28日	火	産業労働常任委員会管内調査（西播磨地区）①
1月29日	水	産業労働常任委員会管内調査（西播磨地区）②
1月30日	木	加東事務所
1月31日	金	北播政経懇話会（西脇市内） 兵教大附属小研究発表会

2月

2月1日	土	兵庫教育大学附属小学校研究大会 加東市公募美術展 加東LC献血チラシ配り
2月2日	日	加東市長杯ジュニア空手選手権大会 東条地域初集会回り 兵庫県ソフトボール協会常任理事会（明石市）
2月3日	月	総務常任委員会傍聴 県庁執務（関西広域連合議会等）
2月4日	火	加東ライオンズクラブ献血奉仕活動（加東市民病院）
2月5日	水	加東事務所
2月6日	木	地域安全まちづくりセミナー（県公館） 自民県連拡大幹事会
2月7日	金	加東市立福田小4年生議場見学 県庁執務
2月8日	土	自民党加東市支部総会・憲法改正講演会（稲田朋美氏）
2月9日	日	加東市連合PTA「PTCA活動実践発表会」 蔵まつり（神結）
2月10日	月	教育再生実行本部in兵庫（神戸市内） 県庁執務
2月11日	火	建国記念の日を祝う県民のつどい 河高八幡厄神祭り 上久米東光寺大日如来祭り
2月12日	水	自民党県議団総会 政調理事会 県庁執務
2月13日	木	産業労働常任委員会 各種専門学校議連
2月14日	金	自民党各種友好団体政策セミナー（古森義久氏講演） 県庁執務（教育委員会、企画県民部）
2月15日	土	関西広域連合議会（大阪） 加東市高齢者大学閉講式
2月16日	日	自宅
2月17日	月	北播磨県民局説明 加東シニアクラブ連合会研修会
2月18日	火	第347回定例県議会開会 議場コンサート 防衛議連総会・研修
2月19日	水	東播磨消費者団体協議会ひろば展（加古川市）
2月20日	木	北播政経懇話会2月例会（県立嬉野台生涯教育センター）
2月21日	金	本会議 自民党酒米日本酒振興議連設立総会 元町バル 関西広域連合連携協議会（県庁）
2月22日	土	日本遺産ひょうご北前船寄港地交流シンポジウム（赤穂市）
2月23日	日	天皇誕生日 加東事務所

Ⅳ 令和元年6月～令和2年5月の議員活動記録一覧

2月24日	月	加東事務所
2月25日	火	本会議（代表質問）
2月26日	水	本会議（一般質問）
2月27日	木	本会議（一般質問） 文化振興議連役員会
2月28日	金	本会議（一般質問） 社高校24回同窓会幹事会
2月29日	土	県立社高等学校卒業式 社おにわ亭

3月

3月1日	日	関西広域連合議会3月定例会（大阪）で一般質問
3月2日	月	本会議（一般質問）、予算特別委員会設置
3月3日	火	産業労働常任委員会（付託議案審査）
3月4日	水	本会議 兵庫県議会スポーツ振興議連総会
3月5日	木	加東事務所
3月6日	金	県庁
3月7日	土	加東事務所
3月8日	日	加東市西戸地区総会
3月9日	月	「四人会展」鑑賞（小野市） 加東事務所
3月10日	火	加東事務所
3月11日	水	3.11東日本大震災9周年 兵庫教育大学（図書館）
3月12日	木	県庁 来客
3月13日	金	日本会議北播磨支部役員会
3月14日	土	加東事務所
3月15日	日	加東事務所
3月16日	月	加東警察署来所（業務優秀賞報告）
3月17日	火	加東事務所
3月18日	水	加東事務所
3月19日	木	加東事務所
3月20日	金	加東事務所
3月21日	土	加東事務所
3月22日	日	加東事務所
3月23日	月	県議会（本会議） 自民党県庁舎等再整備検討委員会
3月24日	火	産業労働常任委員会 自民党県議団政調理事会
3月25日	水	県議会（本会議 347回定例会閉会） 県議会政調懇話会
3月26日	木	加東事務所
3月27日	金	加東事務所
3月28日	土	加東事務所

3月29日	日	加東事務所
3月30日	月	県庁（健康福祉部等） 美しい日本の憲法を守る兵庫県民の会
3月31日	火	加東事務所

4月

4月1日	水	加東事務所
4月2日	木	加東事務所
4月3日	金	加東事務所
4月4日	土	加東事務所
4月5日	日	加東事務所
4月6日	月	加東事務所
4月7日	火	加東事務所 北播磨県民局長、土木事務所、農林振興事務所長来所
4月8日	水	緊急事態宣言が発令される（兵庫県など7都府県対象）
4月9日	木	加東事務所
4月10日	金	加東事務所 嬉野台生涯教育センター所長来所
4月11日	土	加東事務所
4月12日	日	加東事務所
4月13日	月	自民党臨時議員団総会（県庁）
4月14日	火	加東事務所
4月15日	水	加東事務所 加東市商工会
4月16日	木	加東事務所
4月17日	金	加東事務所
4月18日	土	加東事務所
4月19日	日	加東事務所
4月20日	月	自民党議員団総会 産業労働常任委員会 自民党県連事務局
4月21日	火	加東事務所
4月22日	水	加東事務所
4月23日	木	加東事務所
4月24日	金	臨時県議会（本会議・産業労働常任委員会）
4月25日	土	加東事務所
4月26日	日	加東事務所
4月27日	月	県庁（議会事務局、同僚議員との打合せ）
4月28日	火	県庁 知事への新型コロナ対策緊急要望（自民党県議団）
4月29日	水	加東事務所
4月30日	木	加東事務所

Ⅳ 令和元年6月～令和2年5月の議員活動記録一覧

5月

5月1日	金	加東事務所
5月2日	土	加東事務所
5月3日	日	加東事務所
5月4日	月	自宅
5月5日	火	自宅
5月6日	水	自宅
5月7日	木	県庁 酒米日本酒振興議連
5月8日	金	自民党県議団総会 団内選挙管理委員会 執行部会議 自民党県議団幹事長就任 知事へ就任挨拶 記者発表
5月9日	土	加東事務所
5月10日	日	加東事務所
5月11日	月	県庁 執行部会議 議会運営委員会 県議会広報委員会 議員団総会 幹事長室執務
5月12日	火	自民党県議団で知事への緊急要望 幹事長室執務
5月13日	水	加東事務所
5月14日	木	加東事務所
5月15日	金	県庁 自民党議員団総会 各会派代表者会議 県議会コロナ調整会議
5月16日	土	加東事務所
5月17日	日	(社農会池清掃作業)
5月18日	月	県庁 執行部会議
5月19日	火	県庁 幹事長室執務
5月20日	水	加東事務所
5月21日	木	加東事務所 加古川土地改良事務所来所
5月22日	金	自民党議員団総会 団内議会役員選挙 県議会コロナ対策調整会議
5月23日	土	加東事務所
5月24日	日	加東事務所
5月25日	月	県庁 執行部会議 自民党県議団で知事への緊急要望
5月26日	火	県庁 幹事長室執務
5月27日	水	北播磨県民局との政策会議 県議会コロナ対策調整会議
5月28日	木	加東事務所
5月29日	金	県庁 幹事長室執務 各会派代表者会議
5月30日	土	加東事務所
5月31日	日	



◆著者紹介

藤本百男 ふじもと ひゃくお

【学歴・職歴・社会活動歴等】

- 昭和28年10月31日 兵庫県加東郡社町社生（現加東市社）
- 兵庫県立社高等学校、早稲田大学法学部卒業
- 国公立学校教員（兵庫教育大学附属小学校、同附属中学校教諭、兵庫県加古川市立小学校、滝野町立滝野東小学校教諭）
- 兵庫教育大学大学院修士課程修了（教育学修士）
- 神戸商科大学・兵庫県立大学非常勤講師（兼職）
- 社町史編纂委員、社小学校PTA会長、社3区副区長等

【議員歴】

- 平成19年4月 兵庫県議会議員初当選
農政環境常任副委員長、総務常任副委員長
- 平成23年4月 兵庫県議会議員2回目当選
自民党県議団副政調会長、副幹事長、文教部会長
健康福祉常任委員長
- 平成27年4月 兵庫県議会議員3回目当選
文教常任委員長 自民党県議団文教部会長
第124代兵庫県議会議長（平成28年6月11日～29年6月9日）
議員定数等調査特別委員 自民党県議団農政環境部会長
自民党県議団政務調査会長（30年4月～31年4月）
行財政構造改革特別委員 決算特別委員 予算特別委員長
- 平成31年4月 兵庫県議会議員4回目当選
関西広域連合議会議員 自民党議員団総務部会長
自由民主党兵庫県連政務調査会長（令和元年6月～）
自民党県議団幹事長（令和2年5月～）

【団体役職等】

- 自民党加東市支部支部長、日本会議兵庫北播磨支部支部長、加東軟式野球協会会長、兵庫県ソフトボール協会会長、県立社高等学校尚友会会長、兵庫県釣針協同組合顧問等

【県政シリーズ既刊】

- 県政シリーズⅠ「東条川疏水」
- 県政シリーズⅡ「終戦70年 慰霊を考える 加東市内の忠魂碑・慰霊塔」
- 県政シリーズⅢ「ふるさと加東の道標・道路元標」
- 県政シリーズⅣ「加東四国八十八ヶ所霊場・議会改革一年の歩み」
- 県政シリーズⅤ「加東の近代史を彩る人物像・29年度議会活動報告」
- 県政シリーズⅥ「神と仏と人の出会う里加東・30年度後半議会活動報告」

県政資料 ふるさと加東の歴史再発見シリーズ VII

ふるさと加東の伝説・伝承

—伝説・伝承からふるさとの魅力を探る—

- ◆ 郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より
- ◆ 議員活動ブログ 「百聞百見」より

発行日 令和2年6月吉日

著者 兵庫県議会議員 藤本百男

発行所 藤本百男事務所

〒673-1431 兵庫県加東市社1491-1

TEL(0795)43-8270 FAX(0795)20-6675

印刷所 株式会社吉本宝文堂

〒675-1343 兵庫県小野市来住町883-2

TEL(0794)63-4011 FAX(0794)62-5252

非売品
